

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・中 府会選挙に関し、被選挙人13名書込みのちらし(ピラ)を各戸に配りあるくものあり。⁽¹⁾ 日出 1・17</p> <p>1・16 地租減税建白調印者乙訓郡で600名をこえる。なお委員らの集会は保安条例にふれるため中止。反対同盟加入も、郡戸長の説諭にて、よわめられつつありという。 日出 1・18</p> <p>1・一 郡部で地租軽減運動ひろがる。 日出</p> <p>2・15 府下18郡地租減税請願、請願書回収期日きたが5郡代表しか集まらず、3分の1に達せず失望退散。原因は、各郡戸長の請願調印妨害によるという。 日出 2・21</p> <p>2・20 銀箔職人ら90人地金差とめ、賃金低減により銀箔商會に押かく。昨年10月ごろから銀箔需要がへり商會在庫の増えたことによるという(25、26日ごろ商會役員らの説得で和解)。 日出 2・24、3・1</p> <p>3・11 京都の扇工74名(下京区間ノ町五条下ル)浄雲寺に集会し、扇工組合を組織すること(京都扇工美術講習所設置)などを決める。当時の扇工総数480余名。 日出 3・14</p> <p>3・一 府立尋常師範学校で、教頭信任をめぐる生徒不満。夜には寄宿舎にて放歌するなど、紛議ありという。 日出 3・4</p> <p>3・一 本派本願寺大教校にて生徒に小新聞(フリカナ新聞)閲読・購読を禁ず。生徒、これに反対し、謝罪状を出させて禁止を撤回さす。 日出 3・11</p> <p>3・一 南桑田郡亀岡柳町原田清太郎の発起により、「徴兵満期帰郷者待遇法」を設け応分の報酬をする目的で、賞報社を設置、目下有志者を募集中。 日出 3・14</p> <p>4・15 京都の壮士発起により、洛東將軍塚にて貧民懇親会を開催。⁽²⁾ 日出 4・20、朝野 4・20</p> <p>4・15 何鹿郡綾部町本宮町ほか各村民167名、専任郡長設置を戸長奥印をもって連署請願す。 府庁文書 明18-9</p> <p>4・一 愛宕郡吉田村民、第三高等中学校(三高)設置にたいし、田圃の欠乏を理由に反対、すべての御用を吉田村に命ぜられたしと歎願(拒否さる)。 日出 4・21</p> <p>5・中 岡崎村・聖護院村・南禅寺村・粟田口村4カ村の土地所有者、疎水工専用土地砂置場等買上げに反対。賃貸借を要求して、戸長・工事事務所・知事らへ請願。 日出 5・20~23</p> <p>5・23 植木枝盛、祇園座において演説会を計画、劇場に貸座を断わられ、果さず。 日出 5・24</p> <p>5・25 『日出新聞』の岡崎村ほか2村の琵琶湖疎水線路用土地買上げの一件調査記事、事実誤りありとして府より取消さる。なお真実と主張するも、新聞紙条例によりて取消さる。 日出 5・25</p>	<p>1・一 船井郡佐佐江村の下村治三郎・佐々江秀八ら丹波婦人矯風会を結成。1・26第1回の集會を開き、慈善箱の設置、家内衛生などの講演を計画。 日出 1・24</p> <p>2・14 三宅三代鶴ら祇園新地甲乙両部の芸娼妓、慈善会を組織し、相互扶助をはかる。 日出 2・16</p> <p>3・一 下京区仏光寺辺の有志、京都救済会を結成。拠出金の預金利子を貧民・罹災者救助に充当。また6月には池垣与兵衛ら京都資産家の発起により災害救助組織として会員拠出の共有金による京都正誠組結成。同様のもの7・15葛野郡有志の慈善会結成あり。 日出 3・9、6・20、7・17</p> <p>4・4 上京区の貧民88人、同区役所へ地方税免除を願出。同区長、知事へ上申。 日出 4・6</p> <p>4・11 府、産婆営業取締規則公布(明15・12甲182号布達廃止)。 府令41号</p> <p>4・一 宇治郡日野村の正見清右衛門ら下京区第18組東洞院松原下ル町へ人力車貸付会社を設立(失業した貧民救助策として車を貸与)。 日出 4・20</p> <p>4・一 上京区両替町御池上ル竜池校内に京都産婆養成所を設置。5月廃止の下京産婆講習会も同養成所に加入(のちの平安産婆学校)。 市学区大綱ほか</p> <p>6・3 福知山監獄内に囚徒教誨所開所(本派本願寺教誨師毛利実照らが寄贈)。 京都刑務所の沿革</p> <p>6・12 洪濟会、下京区本国寺内に貧児のための第3洪濟学校を設立。9・27に上京区第2組新町頭上御霊前上ルに第4同校を設立。9月天台宗、これら洪濟学校に援助を行なうべく告諭。⁽³⁾ 明教新誌 9・30、日出</p> <p>7・28 下京区西六条西洞院通花屋町の医師稲垣愨、1カ月間府下の貧民患者の施療施薬を申出。 日出 7・27</p> <p>7・一 杉浦利貞らの主唱により京都尚武義會發会(事務所を区役所内に、支部を各学区におき日清以後の戦時に恤兵などに尽力)。 府日露時局記事、府誌 下</p> <p>8・10 医師山本幾次郎、洛北岩倉村に私立脚氣病院を開設(この頃市中に脚氣を患う者多し、9月中の患者上京32、下京58)。 日出 8・12、9・13ほか</p> <p>8・23 葛野郡中堂寺村の医師前田敬齊ら、伏見神泉苑町に京都有児院支院を設置、10・18中堂寺村に本院をおく。のち出張所も設置。 日出 8・16、10・20</p> <p>8・一 京都驅黴院に入院するもの、膳所裏、橋下、墨染、中書島、五番町に多いという(1カ年平均90人)。 日出 8・23</p> <p>9・一 府典獄小野勝彬、死刑廃止を主張し、司法大臣あて建議書を提出。 朝野 9・30</p> <p>9・一 7~8月にかけて府下各地に暴風雨の被害あり、南桑田・紀伊・久世・綴喜・相楽各郡の貧困罹災者がその救助方を府に願出る。 日出 8・15、9・5、18ほか</p>

参 考	日 本																		
<p>(1) 日出新聞に「水吞議員を選挙する勿れ」という記事で。「府會議員選挙に、小點智、小弁舌のみで百万千方奔走し、且那にこびへつらい、漸く地租十円の土地を入手して立候補するものをいう」。 日出 1・14</p> <p>(2) 目的は刻苦勤勉・自主自營の民となり、大いに貧民社会の弊風を正すとともに富者を寒心せしめんとするにあるという。 朝野</p> <p>(3) 洪濟学校の成績あがらず2~3年で4校中2校廃止、のち慈悲教育院を併合した。</p> <p>(4) 盲生専修接鍼術科(同院教師2、開業3)、盲生専修音曲科(自宅で私塾開業5)、啞生器彫鑄科(就職1、同院で温習4)、啞生指物工科(就職3)、啞生刺繡科(就職3)、盲啞普通学科(20人のうち京都始審裁判所書記局就職2)。</p> <p>(5) 驅黴に要した費用</p>	<p>1・27 長崎県煙草切職工の賃上スト。</p> <p>4・3 志賀重昂、三宅雪嶺ら政教社を結成し、『日本人』を創刊。</p> <p>4・25 市制及び町村制公布(施行明22・4・1)。</p> <p>4・30 枢密院設置。伊藤博文、総理大臣を辞任し枢密院議長に就任。黒田内閣成立。</p> <p>4・一 宇川盛三郎ら大日本監獄協會設立。</p> <p>5・14 師団司令部条例・陸軍參謀本部条例・海軍參謀本部条例公布(鎮台条例を廃止、鎮台を師団と改編)。</p> <p>5・一 この頃、地方の窮民、東京に出て車夫となるもの多し。</p> <p>6・1 後藤象二郎、大同団結運動の機関紙『政論』を創刊(11・7発行停止)、7・5には東北地方へ遊説。</p> <p>6・18 『日本人』、高島炭坑の惨状を掲載、高島炭坑批判のキャンペーン開始。</p> <p>6・一 紡連改組、大日本紡績同業連合会と改称(明23さらに大日本綿糸紡績連合会と改称)。</p> <p>7・11 大阪内外用達会社の製靴工240人、賃上スト。7・24再びスト。下旬和歌山工場110人スト。</p> <p>7・15 磐梯山大噴火、死者444人。</p> <p>8・1 三池鉦山払下げ入札、許可8・20。</p> <p>8・10 田口卯吉・高田早苗ら改進黨有志、明治俱樂部を結成。</p> <p>8・一 貸座敷引手茶屋娼妓賦金賦課並処分方制定。</p> <p>9・6 和歌山県伊都郡の農民蜂起(~10月)。</p> <p>10・5 農商務相井上馨の発意により渋沢栄一ら自治研究会を組織。</p> <p>10・14 栗原亮一ら大阪で大同団結の有志懇親会を開催(出席者385人)。</p> <p>11・一 大隈外相、新通商条約案を各国公使に通告(大審院に外人判事任用、~12月)。</p> <p>12・一 鈴木梅四郎、「大阪名護町貧民社会の実況紀略」を『時事新報』に連載。</p>																		
<table border="1"> <tr> <td>明 9</td> <td>1,351円</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1,593</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>1,633</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2,438</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>4,075</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>4,414</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>6,121</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>8,353</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>7,533</td> </tr> </table>	明 9	1,351円	10	1,593	11	1,633	12	2,438	13	4,075	14	4,414	15	6,121	16	8,353	17	7,533	
明 9	1,351円																		
10	1,593																		
11	1,633																		
12	2,438																		
13	4,075																		
14	4,414																		
15	6,121																		
16	8,353																		
17	7,533																		

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>5・一 民権思想の普及で自由の天地を求め家出の女性ありという(大阪・丹後熊野郡などから入京)。 日出 6・14</p> <p>5・一 瓦職工組合創立(瓦商組合とは別に)。資格は、土着者・他国入込人をとわず。賃金の一部を積立て、互助の用に供す。 日出 5・23</p> <p>6・1 義民文珠九助記念碑一周年の祭典を碑前で挙行。 日出 6・6</p> <p>6・上 二条新地貸席、下京清井町へ移転のため、清井町借家人明渡しをせまられ、集会してこれに反対。 日出 6・5</p> <p>6・19 出獄した川上音二郎、浮世亭〇〇の名で、福島事件をテーマに「獄窓手枕の夢」の唄を演ず。席中、印刷歌詞を配布し出版条令違反にとわる。 日出 6・21、22</p> <p>7・一 京都尋常中学校、大谷派本願寺学校との合併により、仏学科目、法主忌日休暇、月謝増額、授業時間、帽章などの点で旧両校生徒共に不満、対立し、中学生徒退学も辞せずとし意見書を呈出す。 日出 7・31</p> <p>7・14 西五辻北町千本畑郷民、大北山村内の水車により灌漑が害されるとして争論。一定期間休止を契約したが履行されず、急訴。 日出 7・15</p> <p>7・20 三大事件の建白者青年のうち、下層貧民(貧民党自称?)洛陽クラブ(洛陽クラブは、別名平等会?)設置相談会をひらく(8・26、同じ相談会、金玉均に激励の金品をおくことを協議)。 日出 7・18</p> <p>7・一 丹波で郡長排斥の嘆願、陳情おこる。 師岡年表、青木年表</p> <p>8・10~11 下京区徴兵検査にて、徴兵忌避者(失踪)36名発生。 日出 8・21</p> <p>8・16 八木源助、浄心寺にて琵琶湖疎水工事利害示談会開催。68名参会するも警察は治安妨害とみとめ中止を命ず。懇談会に切りかえたがふるわず散会。 日出 8・17</p> <p>8・下 金箔職工ら、問屋の不景気で半休および賃金引下げをうけたのち、景気復調、半休廃止後も賃金は復旧せず、引直し(復元)を要求して対立紛糾す。 日出 8・24</p> <p>9・一 天田郡広小路村で小作騒動、小作人組合共愛社を組織。 日本農民運動史</p> <p>10・1 四条南劇場にて政談演説会、段証依秀・菅野道親・宮地茂平・津野毅一郎ら。菅野演説に地方官の恣政の糾弾あることから、演説中止される。 日出 9・30</p> <p>10・12 宮地茂平ら、四条南劇場で政談演説会。宮地の「官民の調和は治国の大事なり」と題する演説中に演説中止される。 日出 10・14</p> <p>10・26 天田郡福知山地方で備荒貯蓄米払下げに関して郡長の処置不当との理由で村民との紛争おこる。 京都地方労働運動史</p>	<p>10・一 天主教会貧児教育所創立。 社会事業大年表</p> <p>11・一 府下官家士族授産金3万円(明11宮内省貸付)は、下賜と決定。 東京日日 11・15、日出 12・6</p> <p>この年</p> <p>▷ 安藤精軒、上京区三本木町に安藤治療所を設置。これがのちの京都施薬院に発展。 京都施薬院事業概要</p> <p>▷ 京都市内・亀岡・綾部・福知山・宮津・舞鶴などの各地に衛生思想普及の幻灯会がさかん。また私立衛生会の結成各地にあり。 日出 6・16ほか</p> <p>▷ 府立盲啞院、卒業者の現状調査を実施。⁽⁴⁾ 日出 6・14</p> <p>▷ 留岡幸助、丹波教会の教師として園部に居住、幼年会を結成し、青少年の教育に力を注ぐ(明24まで)。 府立淇陽学校50年史</p> <p>▷ 脚気患者ふえる。⁽⁶⁾</p> <p>11・1 花見小路大市座にて政談演説会。野村重吉・講師山崎翠昇・林丑之助・木村利三郎・坂本清策ら、府下の政治問題を論ず。 日出 11・1</p> <p>11・3 花見小路大市座にて政談演説会。溝口市次郎・脇田嘉一・原基雄・植島幹ら9名。議員選挙・大同団結・平民主義・地方自治論などを論ず。 日出 11・2</p> <p>11・一 尚武義会有志金募集につき、委員たる戸長ら各町総代に募集役を負わす。強制徴集に類したため、町民不満多し。 日出 11・25</p> <p>11・一 天田郡長柳島誠(亀岡出身)、備荒儲蓄米一件等につき、村民の不满募るため、亀岡有志者<同藩のよしみをもって>辞職を勧告する。 日出 11・18</p> <p>12・20 府会区部会、府立商業学校費について討論中、全廃派の傍聴人浦上格らの弥次・怒号にて議場混乱、浦上退場を命ぜらる(21日再び浦上・建村又太郎ら、退場させられる)。 日出 12・22、23</p> <p>12・一 前田英吉、府会郡部会に娼妓廃止の建議を提出。 府会議員録</p> <p>この年</p> <p>▷ 神代復古誓願党の加盟者、園部地方で100余名という。 日出 明23・6・6</p>

参 考			日 本
(6) 脚気による死亡者数			
年 次	死亡者	患 者	
明19	18	108	
20	33	191	
21	121	403	
22	307	614	
23	55	755	
(死亡者は患者数に含まれる)			府統計書
○ 政談集会(屋内)の開催状況			
年 次	開会度数	臨監度数	解散度数
明19	8	—	3
20	63	—	23
21	52	—	11
22	84	—	7
23	98	40	9
24	212	131	23
25	139	133	28
26	71	67	1
27	84	77	—
28	27	—	5
資料 内務省統計報告による府分、詳しくは府統計史料集3巻参照			

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・30 花見小路で婦人学術演説会を開く。女権伸長の方策。演題、岡崎とよ子「敢て未婚紳士及令嬢諸君に望む」、関守よそ子「世の良人に望む」。 日出 1・30</p> <p>2・1 上京8組大宮五辻上ルに職工教師養成所開業。沖田嘉兵衛の設立したもので、生紋織機25台設置。 日出 2・3</p> <p>2・11 保安条例による退去者(明20、各2年6カ月ずつ東京に退去命令)、植島幹・福井孝治特赦となる。 日出 2・13</p> <p>3・1 新京極で政談演説会。 日出 3・1</p> <p>3・15 伏見中書島の芸娼妓ら、芸娼妓解放記念のためとして御香の宮へ参詣。 日出 3・10</p> <p>4・13 大同団結派、東上委員を選出。</p> <p>5・30 新京極で政談演説会。 日出 5・29</p> <p>6・1 愛宕郡鞍馬村(旧貴船・二瀬・雲ヶ畑・野中・市原・鞍馬)および葛野郡西賀茂村、皇室御猟場と決定。村長独断のため村民反対し、中旬、村民総集会にて総代8名決定、郡役所へ嘆願に及ぶ。不穩。猟場変更を具申(中旬具申返答なく、ふたたび不穩)。 日出 10・4</p> <p>6・10 『活眼』第1号、発行停止となる(7・9活眼社員藤本寿次郎、罰金25円の宣告をうける。8・2『活眼』第3号発行停止、11・12同4号発行停止)。 日出 6・11、8・、11・</p> <p>6・一 西陣機業者において、職工取締規則設定の声あり。知事より農商務省に建議、発布を提すという。</p> <p>7・20 新京極諸興業席元、集会して市税減税を請願する決議(地方税8/10納付公告を知り驚く)。 日出 7・21</p> <p>8・8 竹野郡内網野村長ら16カ村長、専任郡長の設置を知事に請願。 府庁文書 明18-9</p> <p>8・25 大同団結派の有志、生民会を結成。 日出</p> <p>8・一 葛野郡壬生・中堂寺村(現下京区)、水論で騒擾おこる。 東京日日、青木年表</p> <p>9・12 関西の非条約改正各団体、京都祇園座で政談演説会を開く(～13)。 日出 9・12、14、15</p> <p>9・13 乙訓郡久我村水防に関して築山村と紛議をかもす。村民屯集。 時事新報、青木年表</p> <p>9・17 『中外電報』発行停止。 日出 9・19</p> <p>10・5～24 京都生民会・京都公民会・交話会葛野同志会より、条約改正中止の建白書をそれぞれ提出。</p> <p>11・21 西陣織物工談話会発足。 日出</p>	<p>11・下 綴喜郡普賢寺村多多羅(田辺町)で小作騒動。水害にさいして小作料引下げを要求、多数屯集する。 日出 11・25、12・1、</p> <p>12・9 久世郡高野荘村字枇杷庄(現田辺町)で小作米借用を要求して小作人数十名屯集、不穩。巡査説諭の結果、交渉委員をえらぶことに決定し解散。 日出 12・4</p> <p>12・13 四条で自由政談大演説会。 日出</p> <p>12・23 新京極で自由政談演説会。 日出</p> <p>12・中 綴喜郡都々城村岩田(現八幡町)で小作争議、小作料引下げを要求。 日出</p> <p>1・15 上京区第29組塚町の医師菅原謙吉、知恩院山内松宿庵に梅毒癩病皮膚病のための起廢病院を開設(2月には1,000人に限り施療施薬を実施、顧問同志社病院のペリー)。 日出 1・12、2・3ほか</p> <p>2・19 上京区樽屋町の中川長平ら、帝国保育院設立を計画し發起人会開催。 日出 2・3</p> <p>2・20 日本赤十字社京都支部を設置(事務所を上京区樺木町新町西入におく。支部長は知事、発足当時の加盟社員26人)。 同支部沿革誌、日出 1・25</p> <p>2・27 免囚保護の目的で、監獄官吏・府会議員・東西本願寺などの有志、葛野郡朱雀野村字西京の民家に京都感化保護院を開設(のち新築移転)⁽¹⁾。 同院沿革要覽、日出ほか</p> <p>2・一 西方寺住職阿満得聞、医師島田弥一郎、伏見婦人慈善会を設立。9月から婦人のみで運営し災害、貧民救助に尽力。 浄土教報 50、日出 3・6ほか</p> <p>2・一 憲法発布記念事業のひとつとして各地で養老会の催しあり(養老賜金を受けたもの山城8郡丹波5郡丹後5郡で80歳以上4,160人、90歳以上122人、100歳以上3人)。 日出 2・9、15</p> <p>3・24 長島昌の発起により東福寺山内宝勝院に孤児養育院を設置(のち平安育児院と改称)⁽²⁾。 明教新誌、日出 3・27ほか</p> <p>4・1 伏見・福知山・舞鶴・宮津等娼妓公許地の検徴と療徴事務を駆働院の所轄より分難、各検徴所と療徴所独立、事務規程を制定。 府令31号、府誌 下 告示31号</p> <p>4・12 府立盲啞院規則改正。 告示31号</p> <p>4・16 府医学校付属産婆教習所設置。 告示35号</p> <p>4・一 上京区元第13組の貧民87人の地方税免除の願出に対し府は許可を指令。 日出 4・2</p> <p>4・一 廢物利用、貧民授産などの目的で饗英会・京都公明会など結成。 日出 2・25、4・2</p>

参 考	日 本
<p>(1) 日出明22・1・30には葛野郡西京村三輪久徳宅を借用とある。開院後5週間現在で11人収容。開設当初から感化部と保護部を設けたが、感化生を収容したのは明37からである。</p> <p>(2) これは明21開設の京都育児院の会員が分裂して設立したものと思われる。規則を制定し授業部・教誨部・保育部・教育部の4部をおいた。</p> <p>5・21 博覧会の期日(4・1～5・20)を1日延長し、この日の入場料全部を京都婦人慈善会へ寄付。 京都博覧会史略</p> <p>5・一 下京区新町通松原下ル中村四郎の発起で慈恵会結成。大日本私立衛生会、日本医学会などを通じ全国的にその趣旨を呼びかける。 京都医事衛生誌 2</p> <p>5・一 安藤精軒、京都医学会会員として日本医会設立の建議をなす。 日本医会設立の議写</p> <p>7・一～ 夏期に入り脚気患者が増加、京都市内諸会社の女工も罹害。また脚気のため死亡するもの多数。10・25 脚気患者報告方改正。 日出 9・6、9・14、府令117号</p> <p>8・24 卍字叢書誌創刊(発行許可取消 明24・3・14)。同社は仏教慈善主義による施療施薬を実施。 日出 8・21、10・1 府庁文書 明24-2</p> <p>9・8 医学予備校を私立独乙学校(河原町三条上ル)に併設。明35私立京都医学校と改称。 市学区大観ほか</p> <p>9・一 市保育会、楊梅幼稚園で発会式。 府誌 上</p> <p>10・4 府会臨時市部会、8月の水害による各地の復旧費負担困難のため政府へ10万円の補助請願を決議。 日出 10・5</p> <p>10・一 同志社看病婦学校、産病婦中の貧民に対し、入院費一切無料と決定。 日出 10・13</p> <p>12・12 府会臨時市部会、避病院内建物等を京都市に引継ぐことを議決。上京・下京両避病院を同市に移管。 府令142号、市政要覽、日出ほか</p> <p>12・17 府立盲啞院を京都市参事会の管理に移し、京都市立盲啞院と改称。内容の大緊縮を実施。 府令137号、市会史ほか</p> <p>12・17 府立療病院・医学校、地方税外特別の経済とし府で管理。 府令137、138号</p> <p>12・一 私立通俗衛生談話会結成。 日出 明23・1・22</p> <p>12・一 下京区長竹村藤兵衛、区内の貧民に対し餅米券1戸あたり5枚の割で施与。 日出 12・26</p> <p>この年</p> <p>▷ 府監獄署などにおいて監獄、留置所などの改良の必要性認められる。府では獄吏教習所設置を計画。 日出 4・5、5・3ほか</p>	<p>1・1 高島炭坑新募集夫暴行。</p> <p>1・23 徴兵令を改正(徴兵猶予の廃止)。</p> <p>1・24 内閣、官吏に政事上または學術上の演説・叙述を許可。</p> <p>1・一 奈良県の車夫120人親友会結成。</p> <p>2・11 大日本帝国憲法発布、皇室典範・貴族院令・議院法・衆議院議員選挙法公布。</p> <p>2・24 豊橋第18連隊兵士暴動事件。</p> <p>2・一 全国各地で憲法発布祝賀会盛行。</p> <p>3・7 参謀本部条例・海軍参謀部条例公布。</p> <p>3・13 国税徴収法公布。</p> <p>3・23 東京・京都・大阪市制特例公布。</p> <p>4・1 長谷場純孝ら同志会組織。</p> <p>4・19 大隈外相の「条約改正案」はじめて『ロンドンタイムス』紙上に発表。以後反対運動激化。</p> <p>4・30 大同団結分裂。河野広中ら政社大同俱樂部、大井憲太郎ら非政社大同協和会組織。</p> <p>5・4 東京株式大暴落。</p> <p>5・28 鎮守府条例公布。</p> <p>6・21 横浜の製茶工場争議。</p> <p>6・28 条約改正反対の各新聞発行停止。</p> <p>6・一 東京に鉄工同盟進組結成。</p> <p>7・14 パリで第2インター第1回大会を開催(～20日)。</p> <p>8・一～10・一 条約改正賛否両論の演説会・懇親会各地で多数開催。</p> <p>8・27 田畑地価特別修正。</p> <p>9・30 元老院への条約改正建白(350のうち中止論185、断行論120)。</p> <p>9・30 大阪天満紡女工300人スト(～10・6)。</p> <p>10・9 文部省、直轄学校の教員学生に政治演説禁止。</p> <p>10・13 富山県魚津で米騒動2,000人参加。</p> <p>10・21 大阪油絞夫400人賃下反対スト。</p> <p>10・一 金沢の¹⁾盈進社員、米商会所へ乱入。</p> <p>11・26 群馬県議会議、廃娼建議案を可決。</p> <p>11・一 女学雑誌の読者、日本廢娼会を結成。</p> <p>12・9 板垣退助、大阪に旧自由党員大懇親会を開催し、愛国公党結成を決定。</p> <p>12・20 片岡健吉ら関西自由党結成。</p> <p>12・一 備荒儲蓄金滞納者処分公布。</p> <p>12・一 佐久間貞一、秀英合印刷工組結成を試み失敗。</p> <p>この年</p> <p>▷ 年末より凶作を契機に企業計画破綻し、物価下落、株式暴落(最初の恐慌)。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・7 綴喜郡有智郷村内里村小作争議、小作料引下げを要求し数十人集会。東京日日 1・17</p> <p>1・18 基督教青年有志、学術講演会を平安教会で開催(予定)。演題に娼婦に関するものもあり、京都の基督教信者は娼婦の世論をもちあげる運動を行い、追々、娼婦の建議を元老院へ提出の計画という。日出 1・18</p> <p>1・一 職人対策のため西陣職工改良会の設立を計画。日出 1・12</p> <p>1・一 上京区元34組7カ町民、市税地価割を不当として、市税引下げ請願をおこす。日出 1・28</p> <p>1・一 久世郡小倉村民、貧困救助の要求拒否され、不穩。師岡年表、青木年表</p> <p>2・11 福井座で西尾隣太郎政談演説会。途中で弁士中止、解散を命ぜらる。日出 2・13</p> <p>3・一 京都キリスト教団教徒ら娼婦論者、同志社病院長宅に集会。娼婦運動の方法について協議。日出 3・21</p> <p>3・一 交話会と生民会脱会派の合併により交友会を組織。日出 3・27</p> <p>3・一 三高の4団体の活動に、当局は国法、政治を非議し、罪科に問われることのないよう注意を与える。日出 3・30</p> <p>3・21 西陣びろうど職工・大長寺で会合、当日日雇職を解雇、来月一ぱい休業の約定をする。解雇者には1日4合の飯米を給付。日出 3・23</p> <p>4・1 四条南劇場で大同派政談演説会。聴衆700名余、弁士原密道ら。予告の末広鉄腸・石崎重平ら不参にて聴衆不満。日出 4・3</p> <p>4・5 月刊雑誌『活眼』第6号発行、元月刊紙活眼社員藤木寿次郎ら、直言直筆を旨とするという。日出 3・25</p> <p>4・18 久世郡村民420名疎水工事の際、水害をうけるを恐れ集会、中止解散させられる。4・19村民1,000名、除害金を要求し屯集。師岡年表・青木年表、日出 4・20、22</p> <p>4~5月 このころ寄席笑福亭で川上音二郎・四代目都々一坊など出演、社会諷刺で人気を博す。また並川隆乘(時事講談)・藤沢浅次郎(滑稽演舌)ら、中竹座で興行。日出 5・8、29</p> <p>5・5 公友会員懇談会、峰山町金刀比羅神社社務所にて開催。河原林義雄・新井毫ら演説。日出 5・9</p> <p>5・18 日刊『自由新聞』発売広告、創刊号無料、2号は21日より発刊という。日出 5・18</p> <p>5・中 京都日報能川登理事長辞任、公友会員河原林義雄・野尻岩次郎ら経営に就任。以後公友会系紙となる。日出 5・22</p> <p>5・25 溝口市次郎・川那辺真太郎ら、政談演説会(四条南劇場)。聴衆600名余。自由主義を論じ、公民会を攻撃する。日出 5・25</p> <p>6・4 新京極笑福亭にて興行中の川上音二郎出演停止。同亭も営業停止を命ぜられる。日出 6・5</p> <p>6・9 政談演説会(福井座)、弁士脇田嘉一・川那辺真次郎ら、国会議員選挙問題について。日出 6・10</p>	<p>2・11 平安徳義会、「会員中知識の交換と世上の善行者を恵恤する目的」をもって発会(儒者林双橋の門下田中泰輔、森嶋将造、鈴木万年ら発起人となり発会)。8・一コレラ予防心得書を京都市内に配布。同会45年史、日出 8・23</p> <p>2・一 綴喜郡田辺村で西川義延、北川伝右衛門ら同村の細民に施粥。この年米価騰貴のため京都市内、郡部を問わず貧民困窮。これに対し東西両本願寺・京都米穀商組合・京都商工会議所・三井八郎右衛門・洪済会・修正会・京都衛生支会ほか有志の施米・施粥・義捐金・施療施薬多数。日出 3・2ほか</p> <p>2・一 渡辺郁二ら、室町通松原下ルに京都積善社を設立。以後市内の細民へ毎年施米。府庁文書 明30-11、府公同委員制度ほか</p> <p>3・12 府、小児玩弄品着色料取締規則公布。府令22号</p> <p>5・5 府、備荒儲蓄施行規則改正。府令34、35号</p> <p>5・一 不景気と米価暴騰により市中に貧民増大、(米価は2月以来高騰し4・5には1石9円60銭以上に達する)。日出 4・26</p> <p>5・一 京都市内の医師数名、入浴できない貧民のために施浴場4カ所設置。日出 5・24</p> <p>6・16 赤松連城ら仏教信徒の有志、下京区寺町綾小路下ル透玄寺に貧民救助有志取扱事務所を設置し、第1回貧民救助仏教演説会を建仁寺で開催。同じころ祇園新地の芸妓らも同演説会を計画。日出 6・17、18ほか</p> <p>6・一 小倉庄之助・樺井保親ら、貧民に職業を与える目的で授産救恤会設立を計画。日出 6・12</p> <p>7・10 千本下立売小山町70余戸のうち26戸の「赤貧者」を生じたので惣代は区役所に救助方請願(中流地域という)。日出 7・12</p> <p>7・11 臨時郡部常置委員会、5月の出水被害の乙訓郡新神足村ほか20カ村に種籾料として備荒儲蓄中から4,578円25銭余支出を決議。日出 7・12</p> <p>7・16 下京区役所、12カ所の白米商と特約し白米安売場を設置、1升6銭で安売(~31)。(2)日出 7・13、27</p> <p>7・一 与謝郡岩滝村近傍の農民多数窮乏し村費など滞納者増加。臨時村会において貧民賑恤の目的で村費約10分の3減額の論おこる。日出 7・11</p> <p>8・一 コレラ流行。臨時衛生委員・市医ら京都市内の貧民部落を視察、貧民で、無免許医の治療を受けるもの多いため実態を調査。また与謝郡宮津の医師ら施療施薬同盟を結成。日出 8・30ほか</p>

参 考	日 本
<p>(1) 政社法に抵触し政社結成届出を要するとされた団体に京都庚寅くらぶ・信教クラブ・城北青年会・葛野郡同志会・乙訓郡同盟会・久世郡クラブ・南山クラブ・相楽クラブ・船井郡同友会・何鹿郡鹿鳴会・天田郡天民会・竹野郡同好会・中郡斯民会などがあつた。日出 8・15</p> <p>(2) 同区内の貧民戸数2,525戸、人口9,792人とみて安売切符を配布、相場11銭を6銭にした。</p> <p>(3) 当時の日出新聞によると府においても貧民救助のため、川の浚渫、市街の道普請など計画。また京都市内の加藤竹次郎は市参事会へ鴨川新運河の開通工事の起工を建議。</p> <p>(4) 内訳は上京5、下京14、愛宕23、葛野1、紀伊46、久世1、綴喜12、相楽5、南桑田57、北桑田4、船井67、何鹿37、天田86、加佐19、与謝34、竹野11、熊野3、(明22は317、明21は300、明20は318、明19は282)京都市内の貧民戸数、上京1,311、下京1,500。</p>	<p>1・17 大阪で自由車夫懇親会開催、自治党結成を計画。</p> <p>1・18 前年来米価騰貴、富山で窮民300人が市役所に押しかけ米騒動始まる。以後新潟、富山、福井、石川、山口、鳥取、広島、滋賀、京都などで頻発(6・30新潟県相川の騒動最大)。</p> <p>1・21 大同協和会、自由党を再興。</p> <p>1・一 このころ足尾銅山の鉍毒で渡良瀬川の魚類多数死滅、問題化。</p> <p>2・1 徳富猪一郎『国民新聞』創刊。</p> <p>2・8 裁判所構成法公布(司法権の独立)。</p> <p>2・11 金鷄勲章創設。</p> <p>2・一 はじめて流行性感冒米国より移入、全国的に流行。12月再流行。</p> <p>3・18 ビスマルク退陣。</p> <p>3・25 長崎より香港入港の伏木丸の船内より密航中の売春婦ら8人の死体発見。</p> <p>4・16 日本赤十字社、看護婦養成を始めることを公告。</p> <p>4・21 民法中財産編など公布。</p> <p>4・26 商法公布(12・26商法施行延期法公布)。</p> <p>4・一 金融硬塞、その救済のため大蔵大臣、東西豪商ら大阪に集会。</p> <p>5・5 板垣退助、東京に愛国公党創立大会を開催。</p> <p>5・15 中島信行らのあつ旋で愛国公党・自由党・大同倶楽部を合同し庚寅倶楽部を結成。</p> <p>5・17 府県制・郡制公布(明24・4施行)。</p> <p>5・23 三重県一志郡の小作人組合徹交社を結成(即日解散)。</p> <p>5・一 米価騰貴(前年の約2倍)のため東京、大阪、京都などで窮民増加、東京で餓死者発生。</p> <p>6・1 紡績第1次操短(~7・9)。</p> <p>6・6 大日本労働者同盟会結成。</p> <p>6・10 第1回貴族院多額納税者議員選挙。</p> <p>6・一 赤沢鐘美、新潟市静修学校内に幼児受託保育所開設。</p> <p>6・一 長崎にコレラ発生し、全国に蔓延。</p> <p>7・1 第1回衆議院議員総選挙。</p> <p>7・25 集会及政社法を公布。</p> <p>8・4 愛国公党・自由党解散。</p> <p>8・17 大同倶楽部解散。</p> <p>8・20 杉浦重剛ら中立派大成会結成。</p> <p>9・15 立憲自由党結成。</p> <p>9・26 鉍業条例公布(鉍夫の医療扶助規定設置)。</p> <p>9・一 出版印刷工同志会結成、職工義友会をサンフランシスコに結成。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>6・10 市内下京区の米商宅へ200人嘯集(近代米騒動の市内でのはじめ)。米騒動の研究 5、青木年表</p> <p>6・10～12 川上音二郎・若宮万次郎ら政談演説会。聴衆千名余になり甚だ盛況という(四条南劇場)。日出 6・10～12</p> <p>6・14 桜井一郎・浅田勇栄ら政談演説会(七条大宮席)。15日溝口市次郎ら加わり、北座にて同様。日出 6・14</p> <p>6・15 藤沢浅次郎・並川隆乗ら(活眼社員)、浮世演説盛況(玉の井席)。興行停止。日出 6・15、16、18</p> <p>6・20 愛国公党派京都庚寅倶楽部員ら政談演説会(四条南劇場、同俱、18日発会か?)。日出 6・17、20</p> <p>6・22 市内米商会社へ暴徒放火し、不穩。東京日日 6・24、青木年表</p> <p>6・24 野田覚念居士政談演説会(京角座)、中銭2銭を徴し議員選挙問題を語らず、専らキリスト教批判のみにて、聴衆さわぐ。日出 6・26</p> <p>6・26 石原磯次郎・岡崎省吾・川崎安之助ら自由主義団体、城北愛国義会発会。東京庚寅倶楽部に加盟するという。日出 6・28</p> <p>6・一 旧宮家士族・平安同友会を組織(多田好問ら発起。精神は尊王愛国を発揮し、朝恩の優渥に報いんとする)。日出 6・10</p> <p>7・8 第5活眼・新聞条例違反事件公判。日出 7・4</p> <p>7・9 丹波公友会派候補者河原林義雄、芦田鹿之助選挙運動違反事件。日出 7・1、9</p> <p>7・15 伏見町で、米価騰貴反対の京伏貧民連合委員会を開き米商、郡区長、知事に説諭、請願し、拒否されれば貧民3万人米商襲撃すると決議、不穩。日出 7・17、米騒動の研究、青木年表</p> <p>7・19 紀伊郡横大路村、下鳥羽村で、ケレップ機により洪水がおこるとして、機械のうちこわしをはかって140人嘯集。新潟新聞、青木年表</p> <p>7・一 祇園甲部・先斗町・宮川町芸妓より北垣知事に対する市税徴収不服訴訟。大阪控訴院で却下。日出 7・24、30</p> <p>7・一 滑稽風刺酒落『活眼の友』発行(活眼社)。日出 7・13</p> <p>8・7 金箔職上、手間賃金値上げを要求し集金、公然賃上げの談判を開く。18日金箔仲買人と職工との集会、協約をむすび、安売禁止を約す。20日、府勸業課の勧告で、両者組合の必要を認む。日出 7・11、8・19、24、京都地方労働運動史</p> <p>8・23 平民新聞社(旧活眼雑誌社)『平民刀』第1号発行、即日、治安に妨害ありとして差押えられる。日出 8・24</p> <p>8・中 祇園館の小芝居「凶悪謝罪竹島譚」勸懲善の傾向ありとして上演認可取消。さらに強行したため演劇中止となる。日出 8・17</p> <p>8・一 乗合馬車開通で人力車夫、生計困難にて運賃協定が守られず、車夫総代ら府に陳情。日出 8・15、16</p> <p>8・一 集会及政社法を京都各団体に適用。⁽¹⁾ 日出 8・15～20</p>	<p>9・17 京都医会、河原町三条上ル京都私立独乙学校内に創立。11月知事は同会に対してコレラ治療法を諮問。市医師会50年史ほか</p> <p>9・20 京都貧民救恤会の慈善音楽会を祇園会館で開催(同志社・一致教会などが関係)、このほか慈善落語、慈善芝居などがさかん。日出 9・23ほか</p> <p>9・一 真宗大谷派婦人法話会発会。日露戦争時は恤兵に尽力、明44各地に支部設置し貧民救助。府誌 下、府公同委員制度</p> <p>10・一 下京区長、コレラ予防と貧民救済の目的で音羽川浚渫工事を開始。工夫には貧民を雇いし一方では義捐金を募集。⁽³⁾ 日出 10・10ほか</p> <p>11・11 府会臨時京都市部会においてコレラ患者中赤貧者646人の救済方を討議。11・21通常京都府会で囚徒増加対策を討議。日出 11・12、22ほか</p> <p>11・16 安嘉教育会発会、不就学児童の入校を勧諭し、赤貧者の児童に限り授業料免除。日出 11・13</p> <p>11・一 貴船神社宮司栗田口定考ら、「無告の窮民」を救恤し生計の道を与える目的で救済社を設立。日出 11・1</p> <p>11・一 今川貞山、大矢鄧嶺の発起で仏教花園婦人会設立(貧民教育・賑恤・療病・女囚の教誨に尽力)。花の園生1号</p> <p>12・21 社倉米売却金など合せて13,318円余の上、下京区共有金は窮民救助費充当と決定。日出 12・21</p> <p>12・一 大日本私立衛生会京都支会に種痘所を設置(府の事業を同支会に移す)。市医師会50年史、日出 明24・1</p> <p>この年</p> <p>▷ 京都市、区長に委任し請負制度で汚物収集処理を開始。市政史 上、日出 3・29</p> <p>▷ 府下で恤救規則による救助を受けたものの総数、425人。⁽⁴⁾ 府統計書</p>

社 会 運 動	日 本
<p>9・22 久世郡佐山村字市田の村民100名余、琵琶湖疏水工事に関連する巨椋池水位問題で京都市参事会に押しかける。24日久世郡淀川および巨椋池沿岸諸村の村民、再び市参事会に押しかける。日出 9・25、京都地方労働運動史</p> <p>9・一 久世郡小倉村民、村長らの工事人夫費中間搾取を告訴する。師岡年表</p> <p>9・一 白米の立売、せり売流行す。内国米価10銭(1升)を下まわる。日出 9・26</p> <p>10・2 立憲自由党建白書(関西懇親会決議)一件にて京都日報、開明新報告訴される。日出 10・4</p> <p>10・6 新京極尾崎北海席にて出演の木村武之助講釈は9・27治安妨害として停止され、引き続き出演につき興行を全面差止めらる。日出 10・8</p> <p>10・16 雑誌『平民刀』治安妨害として発禁。下京署約1,000部のうち700部印刷所にて押収。日出 10・16</p> <p>10・19 新京極福井座にて立憲自由党政談演説会(曾我部了吉・加竹驚ら、山県有朋ら薩長有志政府を批判し、両名とも弁士中止を命ぜらる)。北座にて保守中立政進撲滅、自由政談演説会(三好熊二郎、高柳進など)。日出 10・19、21</p> <p>10・中 久世郡巨椋池沿岸村民水位問題で再び屯集、不穩。対市交渉にて巨椋池増水の実測などを決定したにもかかわらず市会で費用支出を否決したことによる。京都地方労働運動史</p> <p>10・24 坂井座での政談演説会。高柳進「過激とはいかなる場合に名くべきや」は弁士中止にあう。日出 10・26</p> <p>10・一 紀伊、久世両郡淀川沿岸町村民、第4土木監督署主管の淀川粗朶工を、治水、農業に害ありとして総代各町村各2名、府に撤去を請願す。府調査および説得を開始、旁ら内務大臣に上申。日出 10・1</p> <p>11・27 保守中正派政談演説会(四条南座)で、保守党の自讃、立憲自由党の誹謗ありたるにより、聴衆激昂し、談判に及ぶものあり、会場喧騒。警部は解散を命じたが止まず、演説中止したが群衆休憩所に押かけ、旅宿にまでおよび、警部立会の上談判のち解散。日出 11・29</p> <p>11・下 府警察部、保安課事務を高等警察主任に移す。警察部長直属とし、集会及政社・新聞紙出版物取締・政事団体建白・貨幣偽造等を担当。日出 11・30</p> <p>12・16 『京都日報』・『開明新報』出版法違反事件、控訴審公判。日出 12・6</p>	<p>10・3 衆議院各派有志、対等条約会結成。</p> <p>10・7 民法中財産取得編(13章以下)人事編公布(民法典論争はじまる)。</p> <p>10・11 伝染病予防心得書廃止、地方官々制の改正により衛生事務が内務部第3課に所管。</p> <p>10・20 元老院を廃止。</p> <p>10・30 教育勅語発布。</p> <p>11・15 紡連、不況打開策講究、対清輸出決議。</p> <p>11・25 第1回帝国議会召集。</p> <p>12・一 政府、第1回帝国議会に「窮民救助案」を提出、議会多数決で否決。</p> <p>この年</p> <p>▷ 『国民の友』81号に社会問題の語使用される。</p> <p>▷ 全国の紡績職工増加、女工10,330人、男工4,089人となる。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・10 堀川筋水車沓業者、敷地官有として接収されるのに反対、水車取払退の延期(借地5カ年を含む)を歎願。 日出 1・11</p> <p>1・15 城丹非地価修正連合会開催。東上委員・各都委員など12名を選出、請願のてだてを決める。⁽¹⁾ 日出 1・11、16</p> <p>1・19 『平民刀』第3号(京都平民新聞社)、鳥尾小弥太ら国会議員・府会議員らの人評掲載で発行停止。 日出 1・21</p> <p>1・27 城丹非地価修正委員会開催。請願調印者3,900名にのぼる。 日出 1・28</p> <p>1・一 立憲自由党(京都)内で、遊郭移転論賛否をめぐって分裂の徴候(3・下本部幹事により和解)。 日出 1・22、3・17</p> <p>2・8 大雲院で第1回京都通俗講演会。⁽²⁾ 日出 1・18、4・3、26</p> <p>2・11 第一絹糸紡績会社の株主重役紛議によって、同社技師ら辞職。就労管理できず職工356名に一時休業を命じる。 日出 2・25、京都地方労働運動史</p> <p>2・一 地価修正案の撤回、再提出をめぐって、城丹の地価修正運動の傾向、流動化。 日出 2・10、22</p> <p>3・22 第一絹糸紡績会社の男工69名、職工の反感で解雇された部長心得の復職に反対して重役と交渉、重役拒否。(24日代表31名部長心得復職反対理由書を重役に提出、同時に全員辞表を集め、賃金を請求し、部長心得に面会を求め紛糾)。 日出 3・27、京都地方労働運動史</p> <p>3・25 第一絹紡、罷工者解雇、新工員募集を行なう。罷工工具これに反対し不穩。女工ら30名スト、会社は操業停止。 同上</p> <p>3・29 南座で星亨・大井憲太郎・手島擲・脇田嘉一・浦上格ら20名政談演説会。 日出 3・29</p> <p>3・一 祇園新地甲部娼妓ら芸妓との差別に反対。女紅場改良、待遇の平等、利益権利の平等、賦金を地方税へ変更などを要求、常議員10名をえらんで運動。 日出 3・27</p> <p>4・7 紀伊郡・愛宕郡・下京区などの部落民50名、森秀治(大阪府会議員立候補者)が選挙に差別を受けたことに激昂、柳原町小学校に集会、選挙応援運動の準則等を決定。⁽³⁾ 日出 4・9</p> <p>4・一 非地価修正派、修正案再提出を阻止するため地価取調所の設置を計画(5月建仁寺久昌院に設置したが運動はまとまらず)。</p> <p>5・8 芝亭実忠・北村竹次郎・今井亀太郎ら福井座で政談演説会。中止命令を拒絶し集会条例違反(6・4京都裁判所にて重禁固1カ月)。 日出 6・5</p> <p>5・11 大津事件。 日出 5・14</p> <p>5・13 松岡某、福井座にて政談演説会。<日本人第二世>との演説中、治安妨害によって中止解散、聴衆180名。 日出 5・15</p>	<p>1・一 馭徴院に入院する娼妓増加し、寝具が不足、各遊廓連合会その調査を協議。 日出 2・11</p> <p>2・一 宮川町の芸妓有志、鴨東婦人慈善会を組織、貧民救助のため積立を開始。7月祇園新地でも祇園慈善会設立を計画。 日出 2・11、7・16</p> <p>2・一 府下の各監獄、囚徒の増加が目立つ。最近の在監者は京都監獄男1,458、女124、宮津男299、女31、伏見男20、女4、園部男14、女1、福知山男1、計1,952。⁽⁴⁾ 日出 2・15</p> <p>4・23 府、癩癩人取締規則公布。 府令37号</p> <p>4・23 竹野郡上宇川村中浜の大火で170余戸焼失、その対策のため府会臨時郡部常置委員会開催。 日出 4・24</p> <p>5・1 天主教信者加古義一ら、三条高倉西入に貧民小学校を開校。書籍など貸与、授業料無料。 日出 5・1他</p> <p>5・9 露国皇太子ニコライ、市盲啞院を訪問し金2,000円を寄附。 府誌上、日出 5・8</p> <p>5・一 府、伝染病予防対策として、各町村に衛生組合設置を訓令。 府誌下</p> <p>6・一 風戸万次郎ら共立貧民授産場設置を計画(敷地は六波羅裏門筋、1,200坪の空地を予定)⁽⁵⁾。 日出 6・14ほか</p> <p>7・1 佐伯理一郎、室町上長者町下ルに京都産院を開設(妊産婦生児の無料救療を実施、京都の産院のはじめ)。 府公同委員制度、社会時報 10・5ほか</p> <p>7・一 伏見・中書島・墨染・橋本の娼妓ら80人、知事・郡部常置委員あて嘆願書を提出、郡部娼妓の入院にも市部同様食費支給を要求。 日出 7・2</p> <p>9・24 京都の婦人有志、祇園館において慈善演劇を開催。上り高500余円は京都婦人慈善会へ寄附。この月泉祐一座、今様狂言興行、同会へ15円寄附。 日出 9・12ほか</p> <p>9・一 池田正之助、愛宕郡大宮村船岡山に私立船岡精神病院を設立。 府誌下、日出 10・6</p> <p>10・一 濃尾震災被害者に対し、各宗教界・祇園町・京都米商会所・日出新聞社など義捐金募集。また日赤京都支部・医学校の医員ら現地へ赴く。 日出 10・31ほか</p> <p>10・一 京都監獄内に流行性眼病発生(明25・1頃には300人にも及ぶ)。 日出 明25・1・20ほか</p> <p>10・一 昨年に引続きこの頃も米価暴騰、六波羅裏、大仏、三条寺裏などの貧民ら困窮し米屋襲来の噂もあり、一貫町あたりでは施米を心待ち。積善社その他の有志の施米あり。⁽⁷⁾ 日出 10・24ほか</p> <p>10・一 南桑田郡吉川村夜学会設立。 日出 10・9</p>

参 考	日 本																								
<p>(1) 参会者久世31・綴喜53・相楽7・愛宕23・宇治25・紀伊45・葛野230・乙訓5・船井5・北桑4・南桑60・何鹿12合計500名、西川義延・奥繁三郎ら、運動主旨を報告、団結を期す。また、1・10紀伊郡有志100名伏見郡役所で集会、林有造、地価修正案に絶対反対を決議。乙訓と合同して、連合委員を選出することを決定。同11日船井郡園部町で、13日南桑は南桑クラブで、各々集合反対を表明。</p> <p>(2) 専門諸科の実際に最要なる学理を平易に稿談し…応用に適切なる道理思想を養うの便を図る。4月には山崎憲純が「同盟罷工」と題して演説。隔月1回行うという。</p> <p>(3) 「1、広く全国の我々社会に気脈を通じ一層権利の拡張を謀る事。 2、森氏に係る件は近畿地方の新平民に連絡を通し西浜倶楽部(大阪渡辺)に議する事。 3、応援委員3名を西浜倶楽部に派出せしむる事。 4、4月20日を期し近畿地方の新平民を伴い、京都に大懇親会を開く準備方法内案。 5、運動費は有志者の義捐を以て之に充る事。」</p> <p>(4) 「近来寄席の演説に集る聴衆中には文字なき下等社会十中の七・八を占め唯だ無闇に政府を攻撃し警官を悪口すればそれにヒヤヒヤと喝采し、知らず識らずの間是等下等人民の気風生意気となり、謂れなく官吏を罵詈雑言に触るゝこと屢々、今後成るべく言語を慎み無学な人民をあおることなきよう…」</p> <p>(5) 府下の監獄署入監者 (明24)</p>	<p>1・9 内村鑑三の教育勅語拝礼拒否事件。</p> <p>1・12 東京・大阪に商業会議所設置。</p> <p>1・13 保安条例により壮士54人に東京退去を命ずる。2・11さらに8人。</p> <p>1・22 紡連、綿糸輸出関税免除請願書を政府に提出。</p> <p>1・23 東京府下の石工1,300人スト(～28日)。</p> <p>2・8 地租軽減派有志大懇親会開催。</p> <p>2・15 滋賀県近江麻糸紡績職工の暴動。</p> <p>2・20 衆議院、予算削減に関し事前に政府の同意を求めよとの動議。一部自由党員の賛成で可決(2・25賛成議員、立憲自由党を脱党)。</p> <p>3・19 立憲自由党、自由党と改称。</p> <p>3・29 群馬県に輸出税全廃同盟成立。</p> <p>3・一 菊地侃二、国事犯者の特赦請願上奏案を衆議院に提出して可決。</p> <p>3・一 東京に労働団体芝共働組結成。</p> <p>4・一 第1回医術開業試験を東京で実施。</p> <p>5・27 大審院長島惟謙、政府の大逆罪適用の要求に反対し津田に無期懲役の判決を下す。</p> <p>5・29 自由党宣言を発す。</p> <p>7・30 大阪紡績、清国アモイに綿糸を初輸出、以後綿糸輸出激増。</p> <p>8・4 兵庫県明石町で町民数千人、町会の貧富者に対する不公平より暴動。</p> <p>8・一 酒井雄三郎、ブリュッセルの第2インター大会に出席。</p> <p>9・12 群馬県、明26年末限りで公娼廃止の完全実施を布達。</p> <p>10・14 ドイツ社民党のエルフルト大会開催。</p> <p>10・28 濃尾大地震。</p> <p>11・8 大隈重信、板垣退助と会見、自由改進両党連合の気運高まる。</p> <p>11・20 府県地価修正委員会大会を東京中村楼に開く。</p> <p>11・23 岐阜県席田・方県・本巣・厚見・山県5郡および岐阜市の人民数百人震災救済の請願を行なう。</p> <p>12・1 石井亮一、濃尾大地震による孤児を收容する孤女学園設立(のち滝乃川学園と改称し最初の精薄児教育施設)。</p> <p>12・18 田中正造、衆議院に足尾鉾毒に関する質問書提出。</p> <p>12・25 政府、最初の衆議院解散を断行。</p> <p>12・一 東京花崗岩石工スト。</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>明24</th> <th>明23</th> <th>明22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>刑事被告人</td> <td>7,092</td> <td>4,835</td> <td>2,425</td> </tr> <tr> <td>囚 人</td> <td>8,031</td> <td>5,851</td> <td>3,194</td> </tr> <tr> <td>別房留置人</td> <td>363</td> <td>109</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>携 帯 乳 児</td> <td>215</td> <td>140</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>懲 治 人</td> <td>69</td> <td>48</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	明24	明23	明22	刑事被告人	7,092	4,835	2,425	囚 人	8,031	5,851	3,194	別房留置人	363	109	141	携 帯 乳 児	215	140	60	懲 治 人	69	48	26	
区 分	明24	明23	明22																						
刑事被告人	7,092	4,835	2,425																						
囚 人	8,031	5,851	3,194																						
別房留置人	363	109	141																						
携 帯 乳 児	215	140	60																						
懲 治 人	69	48	26																						

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>5・25 第五『平民刀』、発行手続の不備で発行差止(6・8発禁解除)。 日出 5・28</p> <p>5・30 朝憲案乱事件で入獄中の京都日報編集人浅見俊雄出獄。 日出 5・31</p> <p>6・28 溝口市次郎・桜井一郎・池田直次郎ら、常盤座で政談演説会。演題「責任内閣論」など。 日出 6・28</p> <p>6・31 下京警察署長、演説会聴衆に説諭、官吏への罵言などを禁ず。(4) 日出 7・2</p> <p>7・1 鈴木弘・楯元二三太ら、因幡薬師席で政談演説会開催を届出たが、演題が「泥棒警察」「盗賊裁判官退治」「腰抜政府・馬鹿議員」「国政荒料理」など。演者も自由太郎・舌誅野郎などとしたため、官憲の取調にあい、楯山は逃亡。 日出 7・3</p> <p>7・15 在京自由党员により、関西会結成懇親会を举行(15日発起人会、16日協議会、政談演説会開催。東京より村田豊・川澄徳次、弁士、大井憲太郎・新井章吾ら30名)。 日出 7・12~17</p> <p>7・23 葛野郡松尾村長ら17村長、郡県制延期に反対して早期実施を要求し請願。 府庁文書 明18-9</p>	<p>11・一 同志社病院、震災地へ医員を派遣し濃尾震災による孤児16人(6~12歳)京都に連れ帰る(11・19岡山孤児院へ送る)。 日出 11・20</p> <p>12・22 祇園新地甲部において同業者相互扶助組織慈仁会結成。 日出 12・25</p> <p>12・31 府下の90歳以上の高齢者151人、うち100歳以上は2人。 日出 明25・3・6</p> <p>この年</p> <p>▷ 府下における恤救規則による救恤を受けた人員は、374人(痲疾53、老衰102、疾病117、幼弱102)、その費用2,288円22銭。 府統計書</p> <p>▷ 幼稚園ますます増加(明24・8現在17カ所)。幼稚園長・保母ら保育法の改良をはかるためしばしば研究会を開催。 教育時論 229</p> <p>▷ 日出新聞に「慈善の真相」なる投書あり。(8) 日出 10・28</p> <p>▷ 日赤京都支部、芸娼妓は「賤業」であるという理由で入社を拒絶。問題化。(9) 日出 6・20、26、7・16</p>
<p>7・一 府立諸学校、生徒の政治新聞、絵入新聞購読を禁止。学術宗教新聞も許可制とする。 日出 7・31</p> <p>8・12 紀伊郡九条村藍作人、塩小路村に比べ低賃金のため、賃上げを要求。50~60人雇主浅田方へ押かけ、引上げに成功。 日出 8・24、京都地方労働運動史</p> <p>8・27 丹後縮緬業者・西陣職工場など、職工条例(賃金統一)の制定を希望する意見書を商工会議所に提出。 日出 8・23、28</p> <p>9・14 榎木町丸太町の魚市で、警官の賂取払いに反対し、100名屯集、激論の末派出所を囲んで一時大騒ぎ。 日出 9・15</p> <p>9・23 京都活版職工同盟会結成。裏寺町西林寺にて60余人出席、規約起草委員5名選出。 日出 9・25、京都地方労働運動史</p> <p>9・一 久世郡富野荘村長と助役、村費徴収方不正のため村民より訴えられる。(同日、一村民辞職勧告書を送付。11月村費費消で告発、11・24取調、12・17免訴)。 日出 12・22</p> <p>10・2~3 京都活版職工同盟会第一回総会。 日出 10・3</p> <p>10・一 大工手伝職紛議。京都地方労働運動史</p> <p>11・21 溝口市次郎・小室重弘・脇田嘉一ら16名、角座にて政談演説会。 日出 11・21</p> <p>11・一 京都尊皇奉仏大同団、大谷派本願寺改革党を糾合し『京都新聞』(仏教新聞)を発刊。 日出 10・29</p> <p>12・12 丹波地方自由主義者、園部共楽館にて大政談演説会を開催。 日出 12・12</p>	<p>12・14 熊野郡民、郡分合法案(竹野・中・熊野3郡合併)に反対、郡独立を知事に請願。 日出 12・16</p> <p>12・中 竹野郡網野村大西伊三郎、竹野・中両郡合併に反対、請願のため上京したが、地価修正東上委員らに東上の効なしと説得され、願書を森田重武に托して帰村。 日出 12・17</p> <p>12・一 市内人力車営業人ら、租税減免を帝国議会へ請願のうごき。 日出 12・15</p> <p>この年</p> <p>▷ 管内の政談演説会212、集会臨監131、解散23、演説中止18、司法処分5、ほかに非政談集会208。 日出 明25・3・8</p>

参 考	日 本
<p>(6) 共立貧民授産場の構想は、「共貧の児童及び無籍無住所等の者を入場せしめ衣食を給し相当の産業を授くるを以て目的とす、赤貧者にして児童の入場を乞うものは京都市在籍の者に限り性別を問わず満6~16の者を入場させる。期限は自活に支障ない期間、内容は手織諸種、裁縫、大工、土工、石工。入場者の職工賃金は各其食費を引き残金3分の2を積立て本人退場の際自活の資として付与、入場者の疾病は有志医師が治療」。というものであった。</p> <p>(7) 濃尾地方は、大地震のため各地から慈善家あつまり義捐金など夥しいので、府下の貧民も震災地へ移動するものもあったという。 日出 11・12</p> <p>(8) その内容は「東京にて婦人慈善会にて年に一度慈善会を開き紳士豪商の金を取ることなるがその真相は左の如きものなりとの投書あり何処も同じ偽善の流行、今年も相変らず切符の押し売りに逢ったか。是も世間の義理とやら、否や否やながらも行かざるまい。今年も相変らず切符の押し売るか。是も世間の義理とやら、否や否やながらも売らざるまい。今年も相変らず見世番とやら、是も世間の義理じや程に否や否やながら出さばならぬわいな。紳士こぼし周旋家歎じ貴婦人令嬢亦ふさぐ而も猶且つ是を称して慈善会とか申す由是が浮世で御座るとか。」というもので当時の慈善の実態の一面をとらえていておもしろい。</p> <p>(9) 同支部では内規および規則第5条により芸娼妓の入社をチェック。貸座敷・小方業・紹介人・幫間・俳優などの遊芸稼人には入社を許可するという。6・26の日出に下京区赤井十治という人がこの件について投稿し、日赤側を批判。また祇園では、芸妓たちが独自の祇園慈善会設立を計画したりしている。</p>	<p>この年</p> <p>▷ 職工条例制定の可否を各地商業会議所に諮問。</p> <p>▷ 永岡鶴蔵、労働余暇会組織。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・4 京都府公民会、有楽館で新年会、40人余、衆院・府会選挙候補者問題など討議。 日出 1・6</p> <p>1・4 京都薬剤師ら、共楽館で新年会。医薬分業および税則改正請願など協議。 日出 1・6、7</p> <p>1・9 津田亀次郎・時事通信社鈴木治義ら、相楽郡木津町正覚寺で選挙問題政談演説会。 日出 1・10</p> <p>1・10 脇田嘉一・羽室亀太郎・浦上格ら21人、四条南劇場で民党政談大演説会。(演説終了者6人・中止6人・浦上に及んで中止解散)。 日出 1・9~12</p> <p>1・17 『活世界』号外、治安妨害で発行停止。 日出 1・21</p> <p>1・24 脇田ら21人、菊池侃ら3人を加えて、常盤屋でふたたび自由政談演説会。日出 1・22</p> <p>1・一 下河原のある借家人一同、家主に井戸浚いを要求、拒否すれば連署上訴の計画という。 日出 1・13</p> <p>2・2 真如堂前鍵屋で政談演説会、中止解散。 日出 2・4</p> <p>2・13 脇田嘉一・浦上格・能勢幾馬・小山友次郎・矢野勝次郎・土岐弥一・山脇玄里の8人、詐欺取財の疑いで拘引。⁽¹⁾ 日出 2・14</p> <p>2・12 久世郡寺田村念仏寺で中村栄助・伊藤熊夫ら懇親会。中止解散。同上</p> <p>3・3 京都市の遊廓営業賦金に10分の6の付加税徴収に反対、遊廓代表市参事会および内務大臣に請願を決定。 日出 3・4</p> <p>3・14 多根太郎・網野村森田重武ら非公民会派5人、四条北座で政談演説会。岡本宏の演説中止解散。⁽²⁾ 日出 3・15~17</p> <p>3・16 京都府公民会解散総会。日出 3・18</p> <p>7・一 紀伊郡農民、洪水のため種穀料下付を郡長に要望、知事より再度拒絶され不穩。 京都地方労働運動史</p> <p>8・31 河野広中・加藤平四郎・立川雲平・竜野周一郎ら、共楽館で政談演説会。日出 8・28</p> <p>8・一 紀伊郡長・町村長の発起で同郡尚武義会結成(目的は郡民軍務者の勇武の気の振起)。 日出 8・27</p> <p>8・一 北西会提出の一条警察署新築地献納願書に、南新庄家町有志が反対(上長者町は妥当でない)。 日出 8・30</p> <p>9・25 溝口市次郎・佐野精一・田中直亮ら常盤座で政談演説会。 日出 9・25</p> <p>10・22 京都商工同盟会、共楽館で京都三大事件大会開催。⁽³⁾</p> <p>11・4 城丹各郡選出の府議30余人、河原町共楽館に集会。地租軽減のための第4期議会に対する運動方法、および城丹2郡による非地価修正取調所閉鎖についての決算報告など協議。 日出 11・6</p>	<p>1・一 府、各府県に天然痘流行のため、種痘の普及を訓示。また京都監獄囚徒や諸会社の職工らに臨時種痘を接種、6月市参事会、大仏・一貫町・六波羅寺裏・天部などの地域に対し臨時種痘費支出を決定。府誌下、日出 1・22、2・7ほか</p> <p>1・一 同志社病院、「事情憫恤すべき赤貧者、不品行に起因しない病症、治ゆの見込みある病症」に限って施療することを決定。日出 1・28</p> <p>1・一 このころ、京都監獄内の流行性眼病患者は300人にも及ぶ(8月にほとんど治ゆ)。11月の通常府会において同監獄内の衛生管理を論議。 日出 1・20、11・13ほか</p> <p>2・一 化芥所、以後塵芥採取人等採用の時は、貧民救助に重点をおき失職者を雇用。 日出 2・26</p> <p>2・一 積善社の施米、日蓮宗妙満寺派妙泉寺で同派祖師500年忌の施米、医師上島主税の施米などあり。 日出 2・10ほか</p> <p>3・一 日赤京都支部会員の那須浄説、赤十字有志談話会を組織。 日出 3・2</p> <p>3・一 尺八名人鈴木孝道社中、尺八音曲会開催。義金は盲啞院へ寄附。5月観世流大西亮太郎ら慈善能楽開催。7月川上一座、京極諸芸人らの慈善興行、風流美徳会の俳句懸賞金寄附などの慈善が目立つ。 日出 3・25、5・4、7・12ほか</p> <p>6・一 明24・7工事着工の宮津監獄支署、吉原町に新築落成(工事費12,247円余、地方費支弁)。 日本監獄教悔史 下ほか</p> <p>7・29 府、免囚保護事業の奨励を訓示。 28号</p> <p>7・一 下京区若竹町の町総代ら、拠金により未就学児童のための夜学会を設置、学費を補助。 日出 7・16ほか</p> <p>8・一 府、各郡町村長に対し京都感化保護院の内容充実のため有志、慈善者の協力を呼びかける。 日出 8・3</p> <p>9・一 元下京警察署巡査千葉胤道、六波羅天神前に千葉私立授産場を設置(乞食を集め紙すき業に従事させ実績をあげる)。 日出 9・8</p> <p>9・一 盲人教育・盲人救済の目的で当道会、油小路押小路下ルに按鍼學術講習所を設立。 日出 9・20</p> <p>9・一 赤痢流行により大日本私立衛生会京都支会、通俗心得書を一般に配布。日出 9・28ほか</p> <p>10・一 京都西六条宣布院において中央府県各監獄教諭師連合会議開催(近畿地方をはじめ2府16県の教諭師が会合)。 本山報告 83</p> <p>10・一 紀伊郡、久世郡の水害地各町村長、被害者の備荒儲蓄法適用を請願、却下となり再提出に及ぶ。伏見町長ら知事と面会、11・上に知事却下。 日出 10・8、11・11</p> <p>11・一 京都医会、貧病院設立の議可決。⁽⁴⁾ 日本医療保障発達史年表</p> <p>12・一 平安徳義会、附属事業として孤児院設立計画をすすめる。趣旨賛同者を募集。 日出 12・7</p> <p>この年 ▷ 船井郡八木村の有志、八木同志会を結成。積立金を赤貧者救助、罹災救助に充当。 日出 3・17</p>

参 考	日 本
<p>(1) 脇田嘉一、浦上格等に対し、明25勅令第11号予戒令第1条第1号・第2条に基づいて次のような命令下される。すなわち、 「1 3ヶ月以内に於て適法の生業を求めて之に従事すべし。 2 総て他人の開設する集会に立入り妨害を為すべからず。 3 如何なる口実に拘はらず財物を強請し不当の要求をなし強て面会を求め脅迫に渉る書面を用ひ勸告書を送り又は如何なる方法たるを問はず暴威を示して他人の進退意見を変更せしめんとし其他他人の業務行為を妨害し又は妨害せんとする所行を為すべからず。 4 現住居を転ずるときは転居の前24時間内に其旨を旧住居の所轄警察署に届出で転居の後24時間内に其旨を新住居の所轄警察署に届出つべし。(以下罰則)」 日出 2・14</p> <p>(2) 衆院議員選挙の際、第6区で警官が選挙に干渉したことに言及したため。</p> <p>(3) 京都三大事件とは京鶴鉄道(兵庫県で反対)、博覧会(東京で反対)、桓武天皇紀念祭のこと。</p> <p>(4) 日下毅一氏提供の京都施業院関係資料によると明26となっている。</p> <p>(5) 昭4現在、地坪217坪、建坪124坪、本家32坪、第1離家55坪、第2離家15坪、患者室数24、家庭員数男2、女2、看護人数男3、女1、患者1人につき1ヵ月平均療養費40円。</p> <p>▷ 下京区元24組有志、尚徳教育会を組織し貧民教育に尽力。 日出 26・7・21 ▷ 愛宕郡岩倉村の西川家、精神病者家族看護を始める。⁽⁵⁾ 京都医事衛生誌 439</p>	<p>1・2 新潟県蒲原郡宮川に小作騒動。 1・28 予戒令公布(即日施行)。 1・一 岡山県倉敷紡万寿工場紛議。 2・5 大阪で2府42県地価修正大会開催。 2・15 第2回衆議院総選挙(臨時)。 2・一 総選挙に関連し政府から発行停止処分を受けた新聞雑誌、35種、38回。 3・5 久米邦武、神道は祭天の故俗なりと論じて文科大学教授を被免される。 3・8 鉾山監督局設置。 3・11 内相品川弥二郎、選挙干渉の責任問題で辞職。 4・12 条約改正調査委員会設置。 4・24 大成会所属議員ら会合、中央交渉部組織。 5・2 第3回帝国議会(特別)。 5・14 衆議院、内閣選挙干渉引責決議案を可決。5・16議会停会7日間。 5・21 保安条例実施、退去命令143人。 5・31 衆議院、海軍予算中の軍艦製造費を全額削除(6・1貴族院復活修正、6・14勅裁により予算案成立)。 6・29 カーネギースチール会社大スト(~11・20)。 7・15 海軍造兵廠職工スト。 7・一 大阪地方9紡績会社、摂泉紡績業同盟を組織。 8・4 東京深川左官数百名スト成功(8・13煉瓦積職工スト成功)。 8・一 このころ、紡績会社間で職工引抜きが頻発。 9・27 官吏療治料給与の件を制定。 9・29 甲府矢島製糸女工スト(~10・2)。 10・1 鉄道会議設立。 10・7 民法商法施行取調委員会設置。11・24民法・商法施行延期法律公布。 11・1 黒岩涙香、『万朝報』創刊。 11・6 大井憲太郎らの東洋自由党結党式。 11・30 千島艦事件。 11・30 大日本私立衛生会、伝染病研究所を設立。 11・一 ボアソナード『日本における労働問題』刊行。 11・一 自由党、地租軽減運動開始、輸出税全廃運動おこる。 11・一 東洋自由党結成の大井憲太郎ら、貧民労働者の保護、救済、地位向上を目的とする日本労働協会を結成。 この年 ▷ 内地雑居講究会設立。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・30 井上千吉・川岸安之助・日野関之進・石原磯次郎・石原半三郎・島田弥一郎ら、山城自由倶楽部、葛野郡西九条稻荷御旅所で政談演説会。島田「維新以来の勅語を拝読して感あり」に至りて中止解散。 日出 2・1</p> <p>1・31 小西安兵衛・田中原蔵・小室縫之助ら宮津・万年演劇場で演説会。</p> <p>1・一 先斗町の芸妓・舞妓の減税請願を行なうが拒絶される。 京都地方労働運動史</p> <p>2・1 山城自由倶楽部7名、宇治郡山科大宅夜学場で政談演説会、聴衆300名。 日出 2・4</p> <p>2・2 山城自由倶楽部、奥繁三郎・井上豹太郎らを加え、紀伊郡上鳥羽村で演説会。 日出 2・1</p> <p>2・3 京都三大問題委員有志、改進黨島田三郎・高田早苗らを招き、祇園館で演説会。 同上</p> <p>2・4 『京都毎日新聞』、治安妨害として、発行停止。 日出 2・7</p> <p>2・5 宮津の小室縫之助・小西安兵衛ら青年義会、万年劇場で政談演説会。 日出 2・9</p> <p>2・5 山城自由倶楽部、春季総会を葛野郡森村万基で開催、午後政談演説会、聴衆500人。 日出 2・7</p> <p>2・7 山城自由倶楽部、乙訓郡大山崎村川崎安之助宅で政談演説会（8日紀伊郡横大路村で、両日とも弁士中止となる。聴衆300名）。 日出 2・10</p> <p>2・11 久世郡小倉村長ら8村長、宇治郡との合併に反対、郡長維持を知事に請願。 府庁文書 明18-9</p> <p>3・12 乙訓郡自由党員有志（奥・安田・菱木ら8人）正木代議士慰労会を向日町真経寺で開催、夜は自由政談大演説会。 日出 3・77</p> <p>3・12 宮津青年義会（小室・小西・麻田ら6名）、万年劇場において演説会、聴衆は満員。 日出 3・15</p> <p>3・31 京都毎日新聞社主筆河野義雄、編集人山本三辰、発行人相川源三郎、掲載論文に現内閣侮辱ありとして逮捕される。⁽¹⁾（6・3公判、6・6判決川野重禁錮3カ月、他は無罪、12月大審院、原判決破棄差戻）。 日出 4・2、5・18、6・7</p> <p>4・19 竹野郡網野村代表ら50人、竹野・中・熊野三郡合併に反対し、「独立」を内務大臣に請願。 府庁文書 明18-9</p> <p>5・4 重野安禪ら、五条本圀寺で護国大演説会開催。 日出 5・3</p> <p>5・29 城南自由党員、京鶴鉄道路線調査中の西山志澄・伊藤大八・溝口市次郎らを招き、木津町正覚寺で政談演説会（西山・伊藤一行同夜宇治、30日亀岡・園部、31日須知町、6・1舞鶴）。 日出 5・21、6・3</p>	<p>1・一 与謝郡与謝村などで各部落に青年夜学会結成。この傾向各地にあり。 日出 1・17ほか</p> <p>2・23 府、駆徴規則（明14）を改正（療徴所を駆徴所とし、検徴所を駆徴院、駆徴所出張所と改称）。 府令20号</p> <p>2・一 葛野郡朱雀野村西京北小路、紀伊郡柳原町などに天然痘流行。府では関係地域の臨時種痘を実施。3・27京都市の上・下京避病院開設。市内小学校は臨時休校。また京都医会では一般開業医も種痘施行できるよう知事へ請願。 日出 2・18</p> <p>3・7 京都市、はじめて市費による貧窮者救護を取りあげる。市会で否決。⁽⁴⁾ 市政史ほか</p> <p>4・1 福知山、園部監獄支署廃止、両支署の囚徒を宮津監獄支署へ移す。福知山監獄支署内囚人教誨所廃止。 府誌、告示146号</p> <p>4・6 日赤京都支部篤志看護婦人会設立（明30・6・8日赤篤志看護婦人会京都支会と改称）。 同支部沿革誌</p> <p>4・一 京都感化保護院、経営維持のため勸善会結成。両本願寺法主、北垣国道・千田貞暁・安藤精軒らこれに尽力。このころ資金づくりと感化保護思想普及のため慈善幻灯会・音曲会・地方巡回講演などを実施。 同沿革要覧、日出</p> <p>5・21 真宗大谷派泉徳寺の橋川恵順の発起により大日本仏教法話会附属事業として京華看病婦学校を開設（上京区麩屋町三条上ル）明27悲田会を設け貧困病者の世話にあたる。 仏願寺所蔵文書、日出、婦人雑誌ほか</p> <p>6・10 下京区新町七条上ル医師相浦完良、六条病院を開院（明27・4に眼科を設け貧困者には施療）。 日出 6・13ほか</p> <p>6・11 平安徳義会、下京区堺町通三条下ル光浄寺内に孤児院を仮開設。12月花見小路祇園館で資金調整の慈善音楽会開催。⁽⁵⁾ 同会45年史、日出ほか</p> <p>9・15 市、尋常小学校付設の各幼稚園の幼稚保育科およびその程度について公布。市公告64号</p> <p>9・一 日赤京都支部、看護婦養成所設立を決定。11月にその養成を府医学校に委託。 府立医大80年史ほか</p> <p>10・一 紀伊郡上鳥羽村有志、子守を集め土曜学校を開設（のち上鳥羽尋常小において本格的に子守教育を開始）。 府初等教育優良事蹟</p> <p>11・一 盲啞院長鳥居嘉三郎・教育常設委員内貴甚三郎・雨森菊太郎らの計画により京都盲啞院慈善会創設の準備すすむ。入会者多し。⁽⁶⁾ 京都医事衛生誌、府誌 上</p>

参 考	日 本
<p>(1) 京都毎日新聞記事 1・27「我帝国政府に政権の分与を望む」、2・4「明治政府は帝室と仏教との怨敵に非るなきか」、2・5「明治政府の失政を論ず」が侮辱とされた。</p> <p>(2) このため、「府下の党員は挙て同支部員たるべきこと」となり、山城自由倶楽部より反対者がでて、「終に2派の分立を見るに至った。その後山城自由倶楽部を中心に自由党山城支部結成。</p> <p>(3) 演題、脇田嘉一「浮雲と秋風」、伊藤金作「府民の団結を望む」、衣笠市造「自由党軟化せず」、田中直亮「自由党と京都」、羽室亀太郎「非議夷論」、堀田康人「京鶴鉄道の已往と将来に就て」、奥繁三郎「条約改正の必要」。</p> <p>(4) 原案は、「行旅病人に該当せざる窮民にして明7太政官達第166号恤救規則によれば、1日玄米3合、銭にせば1銭8厘に止り、他の諸費を償うに足らず、依って市費より救助せんとする」というものであったが、この原案も当時の「貧困者観」によって否決された。理事者の説明によれば、「貧民なればとて救助せぬ見込なり且又規則など設くるときは出願する者日に多くして到底堪へ能はざる」と。</p> <p>(5) のち岡崎最勝寺町に院舎を新築し移転。</p> <p>(6) 当時盲啞院の経営は苦しかった様子が経営維持費を慈善音楽会や有志の寄附に頼っている。盲啞院慈善会創設にあたっては内貴甚三郎・雨森菊太郎・多田佐兵衛ら20余名が発起し熊谷久兵衛（鳩居堂）辻信次郎、中孫三郎らが幹事で尽力。市民の同情が集まって1,000名以上の篤志家が入会。基本金約27,000円集まる。明28・4正式に発会。以後春秋定期的に音曲会を開催、また明28・6・18から市内2カ所に受惠箱を設置。大3京都盲啞保護院を経営。 社会時報 10:5、府誌 上</p>	<p>1・4 北海道夕張炭坑400余人暴動。</p> <p>1・6 東京商工相談会主催の輸出税全廃演説会。</p> <p>1・8 全国新聞記者同盟、新聞紙条例改正運動開始。</p> <p>1・9 福岡県下に知事の施政に反対した竹槍騒擾おこる。</p> <p>1・13 独立労働党結成（英）。</p> <p>1・一 長谷川泰、衆議院に伝染病院創設費国庫補助の件建議。</p> <p>2・6 内・外務省、婦人を誘惑し海外へ渡航させる者の取締強化を命令。</p> <p>2・7 衆議院、内閣弾劾上奏案可決。</p> <p>2・10 時局救済に関する詔勅。</p> <p>4・3 日本基督教婦人矯風会結成。</p> <p>4・14 集会及政社法（改正）・出版法・版權法公布。</p> <p>4・一 第1回監獄医協議会、東京で開催。</p> <p>5・20 海軍軍令部条例公布。</p> <p>5・22 戦時大本営条例公布。</p> <p>7・一 社会問題研究会。</p> <p>7・一 三井・三菱合資会社設立。</p> <p>8・12 「君が代」を国歌と制定。</p> <p>9・9 鐘紡ほか4社、郵船と印綿輸入契約を締結。</p> <p>9・11 富岡製糸場を三井に払下げ。</p> <p>10・1 安部井磐根らの大日本協会設立(12・29解散命令)。</p> <p>10・31 官制改革・文官任用令公布。このとき内務省（衛生局）官制公布。また地方官官制の全面改正により衛生事務は警察部所管。</p> <p>10・一 日本基督教婦人矯風会、売春婦転落防止のため職業婦人宿舎設立（のちの慈愛館）。</p> <p>10・一 岐阜県可児郡に小作同盟結成。</p> <p>11・20 『朝野新聞』刊行。</p> <p>12・2 自由党分裂、長谷場純孝ら18人脱党して12・4同志倶楽部結成。</p> <p>12・4 衆議院、官紀振肅上奏案可決。</p> <p>12・19 衆議院、条約勸行建議案上程。政府、帝国議会を10日停会。</p> <p>12・29 陸奥外相、条約勸行建議案反対を演説、再度停会。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 芝浦製作所スト。 ▷ 農民騒擾165件（うち岐阜県90件）。 ▷ 出版物発禁124件。

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>5・一 在京大工職ら、手伝手間賃引上げに刺激され、大工賃金引上げを相談(7月までつづく)。 日出 5・14、7・2</p> <p>6・2 自由党西山志澄・伊藤大八、舞鶴土井市兵衛宅にて演説会開催(3日宮津で聴衆1,000名)。 日出 6・4</p> <p>6・25 在京自由党员、自由党京都支部(組織会)結成(奥繁三郎・野尻岩次郎・脇田嘉一ら)。(2) 日出 6・20、27</p> <p>6・一 三条通白川橋東陶器工場で、職工ら賃金切下げ・解雇・低賃金で石川県人を雇うことなどに反対して、夜経営者宅に押かける。 日出 6・8</p> <p>7・11 みのしたかき(寺町御池下ル木邨重三郎発行)、風俗を壊乱するものとして発売頒分を禁止される。 内務省告示34号</p> <p>8・4 自由党山城支部発会。 日出 8・6</p> <p>8・29 自由一郎・細見三郎ら瓢座で、市設電灯問題演説会。中止解散となる。 日出 8・31</p> <p>9・1 神川享太郎ら鴨東有志、四条南芝居で相馬疑獄政談大演説会。 日出 9・1</p> <p>9・10 船井郡園部に兵談会結成。 日出 9・12、22</p> <p>9・11 西陣綿ネル毛出し職工300人余、毛出し賃増額要求し、交渉、ストライキに入る。 日出 9・13</p> <p>9・13 西陣職工ストに対抗し、雇主は下宿・借家の保証を解く。首唱者30名をのぞく復職も可能とのうわさ(21日復業を頼む者多く、9名解雇で落着)。 日出 9・13、22</p> <p>10・1 自由党京都支部、四条南座で政談演説会。(3) 日出 10・2</p> <p>10・6 半田某2名ほか、坂井座で高利貸征伐の演説会。 日出 10・6</p> <p>10・8 新俳優座光寺秀二郎ら、坂井座で、八方攻撃非政談演説会。聴衆500人。監獄の実態にふれ、中止解散となる。 日出 10・10</p> <p>11・10 自由党京都支部、京鶴鉄道には賛成、非内地雑居運動については、一切関係せぬことに決定(23日内地雑居演説会開催、大日本協会の非内地雑居説を批判)。 日出 11・12、17</p> <p>11・25、26 安居院仲竹座で婦人演説会。川口・雲井・麻生玉・雲井健ら(27日七条大宮宝家座にて)。 日出 11・28、29</p> <p>12・9 在京丹後人大懇親会、飯田町富士見楼にて開催、天橋会再興の議を可決。 官津の新潮 3</p> <p>12・一 府下警察署、非雑居論者(仏教徒など)の運動に注目、首唱者らの挙動を調査。 日出 12・17</p>	<p>12・1 衛生事務、警察部(保安課)が所管。 府誌 下、府県制度資料、府庁文書 明26-6</p> <p>12・4 京都市会、地方税負担監獄費を国庫支弁とするよう建議(明33年度に実現)。市会史ほか</p> <p>この年</p> <p>▷ 上京避病院を聚楽病院、下京避病院を日吉病院と改称。 市政史上</p> <p>▷ 平安義鬻閉鎖。以後京都在住宮家士族学資貸与の事業を開始。 浜岡光哲翁77年史</p> <p>▷ 米価かなり騰貴(1升につき9銭8厘位)。京都市内三条寺裏・六波羅・大仏・一貫町あたりの貧民は困窮。京都慈善誠順会、医師中村四郎らその他篤志家の施米あり。 日出 12・21ほか</p> <p>▷ 府教育会常議員奥繁三郎・長尾時春ら京都市内3カ所に初等教育夜学校開設を計画。 府教育雑誌 17</p>

参 考			日 本
○ 恤救規則による済貧恤救人員および金額 (京都) 国費のみ			
年 次	人 員	金 額	
明14	291	2,252	
15	216	1,750	
16	176	1,020	
17	174	952	(救助米高 205石)
18	196	1,105	(201石)
19	282	1,360	(272石)
20	318	1,503	(332石)
21	300	1,201	(317石)
22	317	1,416	
23	400	3,194	
24	373	2,288	
25	360	2,478	
26	335	2,174	
出典：日本統計鑑、府統計書			

社 会 運 動
1・12 自由党京都支部(京都山城両支部合同)発会式。中村栄助ら30名の常議員、河原林義雄ら5名の幹事を選出。衆院選挙候補を決定。 日出 1・14
1・12 宮津青年義会、宮津町万年座で、政談演説会を開催。弁士高田徳蔵、「勢力」、津原武「千島艦事件」、伊藤伊吉「偶感」、三上房吉「責任内閣論」など。 宮津の新潮 4
1・21 祇園座擬似国会あやつり人形、政社法の取締で観客に不評、打上げとなる。日出 1・23
1・25 平田生、『宮津の新潮』の論説に、「国会擁護」を投稿。 宮津の新潮 4
4・一 京都府立療病院の看護婦15名、給料改善・待遇改善を要求、一勢に退院。日出 4・13
5・一 綴喜郡草内村大字飯岡・大字草内両部落間の氏神「作岡神社」の尊称にからむ紛議、両字住民の対立に発展、登校拒否・不売買同盟・貼紙等で応酬。 日出 5・23、7・12
7・6 座光寺秀二郎、常盤座で不平政談演説会。一言もいわないうちに中止解散。日出 7・10
7・8 自由党京都支部、四条南座で政談演説会。聴衆2,500人。 同上
7・一 久世郡で水論、竹槍席旗で不穏という。 京都新報 7・15
8・19 綴喜郡草内村作岡神社の一件、知事の説諭にて落着。 ⁽¹⁾ 日出 8・21
8・一 疏水水車同盟組合員ら、南禅寺疏水堤防の破壊による水量・水力減少のため、精米量がへるとして、修繕を水利事務所に交渉。さらに新水路開さく許可を申請。 日出 8・19
10・26 船井郡八木演劇場で、自由党政談演説会、聴衆800人。 日出 10・28

社 会 福 祉
1・一 真宗大谷派、法主の死にあたり京都市内の「鰥寡孤独を憐み赤貧者及び盲啞院生」らに救恤(市内の貧民戸数4,181、人員総数8,564)。 ⁽²⁾ 花の園生 40、日出
2・15 京都医会中心となり、三条河原町独乙学校内に京都医事衛生社設立。4・1『京都医事衛生誌』(月刊)第1号を発刊。 市医師会50年史、京都医事衛生誌
2・一 大貝武・桐原茂ら京都慈善仮装会設立、その収入を貧民救助に充当(3・9第1回南座で開催予定)。 日出 2・13

3・31 伏見監獄支署廃止(景気回復と鉄道その他工事さかんなため、貧民の生活安定し監獄囚減少という)。 告示191号、日出ほか
3・一 大婚25年のご祝典に付、80歳以上の高齢者に金円下賜、丹波2郡丹後で2,905人。 宮津の新潮 5
4・8 田島教恵主唱し、祇園館で慈善大演説会を開催。安藤精軒・竹村藤兵衛ら施薬院再興を演説。平安徳義会孤児院の孤児、壇上で身上話をする。参会者600人。 ⁽³⁾ 京都新報、日出 4・10ほか
4・21 大日本私立衛生会第12次大会京都で開催(～22日)。 日出 4・24
5・20 葛野郡中川村戸数111中、70戸焼失。これに対し同郡大秦村医師広瀬俊吉の療療施薬、京都慈善誠順会など其他有志の施与あり。 京都新報、日出 6・1、府庁文書 明28-30
6・22 香港などペスト流行につき、府、黒死病予防消毒方法公布。7・3その届出方公布。 公示104号、訓令47号
6・一 福田モトの主唱により京都婦人慈善教会設立。のち本派本願寺派の婦人が中心。貧病者に牛乳を施与、巡回診療所なども開設。 明教新誌、府社会事業便覧
7・一 京都駆黴院、患者の風紀肅正のため裁縫科のほか習字科・諸礼科設置を計画。 日出 7・22
8・一 日清戦争開始に伴い、綴喜郡都々城村の軍人優待会、船井郡園部町の丁稚報国会などこの類の団体各地に結成される。既存の京都尚武義会・京都篤志看護婦人会・平安徳義会、其他有志などとともに入兵・遺家族救助にあたる。 日出 8月～
9・一 竹野郡袖志尋常小学校・子守学校を開設(女子未就学児童多数のため)。 府庁文書 明44-52
11・7 府、赤痢流行に際し、府下に衛生組合設置促進を訓令(府下の赤痢患者2,085人)。 訓令112号
12・8 府、行旅死亡人及行旅病人取扱心得公布。 訓令125号
12・19 府会、知事に府立療病院改善の建議書を提出。 府会誌

この年
▷ 府、療病院附属駆黴院、第1次年表(明9～19)を発行。 府立医大80年史
▷ 開戦のため西陣織物業者、失業状態に陥り、窮迫者850人に及ぶ。授産事業など試みられる。 社会事業大年表
▷ 京都市内の有志、京都貧民学社設立を計画、同仮略則を制定。 ⁽⁴⁾ 府教育雑誌 30
▷ 何鹿郡吉美村に報徳社設立。公報 昭18
▷ 京都精翠女史(同志社女学校在学の高木)、監獄改良論を主張。 獄事叢書 8

参 考
(1) 知事説諭の内容は、日清戦争開戦の折柄、氏神の尊称くらいで村民反目するのはいけない。国家のため早く事態を収め、軍資金の調査に尽力すべきである、と。
(2) 法主の死にあたり米銭を施与することは、このときがはじめての試みであったようである。貧民の内訳は上京区2,069戸、4,136人、下京区2,112戸、4,428人。
(3) この他江村秀山・美野日覚念・高木文平・佐伯理一郎・三宅宗淳ら出席し演説。
(4) その趣旨は「世間貧窮の為め学に就くこと能はず又業を営むこと能はずして徒に遊戯に耽り、空く路上に彷徨ひ遂に種々の悪習を養成する児童の少からざるは実に憐むべきの限り歎くべきの極みにして諸々の犯罪も多くは是等無学無業の窮者より生ずるものなれば…」と云って教育の必要性を説いている。また同仮略則によると6歳～14歳に至る貧民の子弟を教育することを目的とし、社員は事業員、維持員の2種に区別。生徒の定員は当分50人とし民家を教場にあて、資金増加に伴い各所に拡大する。

日 本
1・12 文部省、就学者の増加をはかるため小学校の2部授業を奨励、貧困児童の就学のため夜学・日曜学校を奨励。
1・16 地価修正派、農民協会組織。
1・一 大阪天満紡績第2工場職工スト。
2・1 東京に内地雑居期成会結成。
2・6 神官、僧侶の政治参与禁止。
2・25 政府、職工条例・傭主被雇人条例制定を東京府下職工組合に諮問。
2・一 反政府論で諸新聞停止続出。
3・24 田口吉吉ら帝国財政革新会設立。
3・28 非藩閥主義新聞記者大会、政府反対を決議。
3・29 朝鮮の全羅道で東学党蜂起。
4・3 神戸市内活版工、組合組織を決定。
4・3 犬養毅、改進黨を脱党して中国進歩党を結成。
4・一 大阪の人力車夫、車税全廃請願同盟を結成。
4・一 同情会、『獄事叢書』刊。
5・3 楠本正隆ら立憲革新党を結成。
5・8 全国同志大懇親会、対外強硬政策と責任内閣の完成を決議。
5・26 綿輸出税海関税免除法公布。
5・31 衆議院、内閣弾劾上奏案可決。
6・16 清国に韓国内政共同改革を提議。6・21清国拒絶、翌日日本不撤退を声明。
7・23 北海道炭坑鉄道ブレーキメン130人賃上げスト。
7・一 日清開戦気運高まり、軍の買上げで梅干・漬物類・佃煮の価格騰貴。
8・1 清国に宣戦布告(日清戦争)。
8・2 開戦に伴い新聞記事の事前検閲令公布、施行。
8・16 軍事公債条例公布。
8・21 渋沢栄一・岩崎久弥ら報国会を設立し軍資を拠金。
9・1 小学校に体育および衛生に関し訓令。
10・3 金鵄勲章年金令公布。
10・15 第7回帝国議会(臨時)広島に召集。
10・24 衆議院、臨時軍事費特別会計法に基づく第1次予算1億5千万円公布。
12・25 全国同志医師、府県において公立施療病院設立の制を設けるよう請願書を貴衆両院議長に提出。
12・一 伝染病研究所、ジフテリア血清療法を開始。
この年
▷ 北里柴三郎、ペスト菌血清療法を発見。
▷ 全国に赤痢流行。
▷ らい患者の一斉調査を実施。

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・7 天田郡の対外硬派有志塩見清三郎・芦田鹿之助ら、同志倶楽部を結成。 日出 1・10</p> <p>1・18 西陣機業経営者の主婦ら、職人の統率・経営の代理などの必要から婦人会を発会。 日出 1・19</p> <p>1・22 大阪友仙染組合役員、京都の同業組合役員と会合、職工徒弟の姓名など相互に通知し、ひきぬきなどの防止を約束。 日出 1・24</p> <p>2・一 下京区一貫町付近が木賃宿営業地と指定され、16組内住民が激昂、家主に交渉し木賃宿業者を排斥、同時に府に指定取消を要求。 日出 2・19</p> <p>3・4 竜池尋常小学校出身者、組内教育振興などの目的で、竜池談話会を組織。 日出 3・7</p> <p>3・31 名古屋市中での日本農民大会に、京都より樋田魯一出席。 日出 4・2</p> <p>3・一 日本農民会員募集行なわれ、京都の地方幹事、愛宕郡岩倉村田中平義、会員目標500人(9・22再度募集広告)。 日出 3・18</p> <p>4・8 帝国農家一致結合同盟、同盟員懇話会を開催。 日出 4・8</p> <p>4・14 福知山旧藩士、法鷲寺に集会、士族団体を結成(旧風教会、横山卓爾・加藤精一ら)。 日出 4・17</p> <p>4・21~23 久世・綴喜・相楽の山城第4衆議院選挙区有志者、大久保・木津・田辺の各町村で衆議議長他を招き、第8議会報告会等を開催(25日同報告会を園部でも)。 日出 4・17、20</p> <p>4・一 福知山町民、諸税の高騰に反対。有志者数名、減税願を提出。 日出 4・25</p> <p>5・6 脇田嘉一・佐野精一・大久保芳太郎・半田五郎他7人、予戒令執行をうける。 日出 5・8</p> <p>5・7 大久保芳太郎ら2人、祇園館で政談演説会を開く、聴衆17名。途中中止解散を命ぜられ、聴衆木戸銭を返せと騒ぐ。 日出 5・9</p> <p>6・1 西陣青年会、職工夜業休止期を利用し職工徒弟講習会を開講(尋常小学校程度、4・一に同会が設置を決定したもの)。 日出 4・15、5・24</p> <p>7・一 自由党京都支部員ら集会して、集会・言論の自由を「検束」される件に関し、本部の処置を促すよう協議。 日出 7・5</p> <p>7・28 洛北花背村尚武義会発会。 日出 8・1</p> <p>8・一 自由党の関西遊説京都演説会、コレラ流行のため中止と決定。 日出 8・21</p> <p>9・27 府、高等警察課を設置。 日出 9・28</p> <p>9・一 石工、北白川山で総会、共和組を結成。 京都地方労働運動史</p> <p>10・22 同志社予備校生徒、平安遷都記念祭の臨時休校を要求して同盟休校。 日出 10・24</p> <p>10・一 紺屋職人90余名、賃上げ要求でストライキを計画、警察の干渉にあう。 京都地方労働運動史</p> <p>11・15 前田正名、旧工業館で職工男女2,000人に時局訓話。⁽¹⁾ 日出 11・16</p> <p>12・8 自由党京都支部、河原町共楽館で関西会を開催。河野広中・小室重弘・片岡健吉ら上京、239人集合、のち祇園館で演説会。 日出11・20~12・8</p>	<p>1・4 府警察部に衛生課をおく。 府庁文書 明26-6、府誌</p> <p>1・28 京都市会、聚楽・日吉病院の府移管、井水試験の依頼に応ずることを可決(市民の飲料水について論議)。 市会史</p> <p>2・16 人見喜三郎ら16人の青年、伏見十六会を結成(明40・4救済部を設け慈善事業を実施、明41・5・16社団法人に組織変更)。 同会と伏見信用組合、府庁文書 大15</p> <p>3・20 仏教雑誌『花の園生』50号社説に「戦時育児院の必要」を掲載。⁽²⁾ 花の園生 50</p> <p>3・30 伝染病院を地方経済に移し、京都市立日吉、聚楽両病院は府立避病院となる。両病院規則公布(4・1施行)。5・6市町村に設置すべき避病院設備標準を制定。5・15その管理方を制定。 府誌 下、訓令43、77、88号ほか</p> <p>3・一 このころ、船岡精神病院慈善会設立。牛乳販売し、その純益金で貧困者を施療。 京都医事衛生誌 24</p> <p>4・29 検疫予防のため各郡に郡医、町村に町村医を設置、町村医の制ここに開始。 訓令70号</p> <p>4・一 戦時下伝染病流行。8・21『日出新聞』、「避病院廻り」と題する記事掲載し、避病院に対する一般の偏見を正すのに努力(~29日)、9・9官民共同の悪疫撲滅に関する協議会を開催。⁽³⁾ 府庁文書 明28-7、日出ほか</p> <p>6・一 下京区四条小橋東詰に慈善新報社京都支局設置、薄命者貧民を救護し「忠臣孝子貞婦義僕」などの事蹟を査霧顕明し以て「忠孝貞烈の志氣」を喚起することが目的。 日出 6・22</p> <p>7・一 丹治直次郎、京都市内の貧民へ白米5石施与、伝染病流行などで生活に困窮するもの続出し、このほかにも有志の施米あり。 日出 7・20ほか</p> <p>9・1 華族会館分局に京都婦人手芸会設置。壬生基修ら婦人に生活力をつけるため、レース編を指導。 日出 8・15ほか</p> <p>9・一 日赤京都支部の有志、高倉押小路上ルに平安看護会を設立。公私立病院・患家の求めに応じ看護婦を派遣。 同支部沿革史、日出</p> <p>12・19 府会、伝染病予防に関する建議を知事に提出。 府会史</p> <p>この年</p> <p>▷ 前年に引続き、京都尚武義会・婦人慈善教会・その他の団体または個人有志、出征軍人家族の救済、恤兵に尽力。南桑田郡亀岡町通常議会において出征軍人子弟に対し小学校就学者の授業料免除を可決。田島教恵ら主催の慈善大音楽会、榎村鉦太郎発起の恤兵大幻灯会など催しあり。 日出 2・8ほか</p> <p>▷ 駆黈院の患者、質悪化し塀を越え逃走するもの多く、高塀をさらに2尺改造。 明治文化と明石博高翁</p>

参 考	日 本
<p>(1) 「…一身の利害は一家の利害に関し、一家の利害は主家の利害に関し、主家の利害は京都の利害に関し京都の利害は一国の利害に関す、よくその原因結果を考え、一致団結外敵に当るの覚悟を以て十分職業に勉勵すべし…」</p> <p>(2) その中に「今より億万年斯年の其の間には、負戦を為すこともあらむが、敗戦後には国家の経済は償金を払ふだも難きことあらむ、斯る場合には忠死の兵卒には到底1銭だも酬ゆることも能はざるべし抑も其遺孤を如何せむと欲する乎」「国家の為に貴重なる一命を棄てたる兵士の児、国家も国民も決して此の忠臣を忘るゝ能はずとせば、此の忠臣の遺児を愛育して、せめて忠臣幽冥の苦慮を救はざるべからず、之を思へば益々戦時育児院の設立を望まざるを得ざるなり…」</p> <p>(3) この年はコレラが大流行、府下で患者1,842人(うち死亡1,561人)発生、ちなみに明27には51人(うち死亡12人)、明28には23人(死亡13人)。</p>	<p>1・一 紡連、棉花輸入関税免除を請願。</p> <p>1・一 『太陽』創刊。</p> <p>2・1 国民兵召集規則公布。</p> <p>2・23 衆議院、臨時軍事費1億円、朝鮮政府貸付300万円追加予算可決。</p> <p>4・17 日清講和条約(下関条約)調印。</p> <p>4・20 清国漢陽鉄廠の労働者、スト。</p> <p>4・23 独露仏3国、遼東半島の清国へ返還を勧告(三国干涉)。</p> <p>5・1 中央衛生会官制公布。</p> <p>5・6 東京煉瓦工賃上げスト。</p> <p>5・10 遼東半島を還付する旨の詔勅。</p> <p>5・25 台湾島民反乱独立共和国を宣言。</p> <p>5・一 遼東半島還付をめぐり、世論沸騰<臥薪嘗胆>の語流行。</p> <p>6・19 政友有志会禁止、東北会解散。</p> <p>6・23 東京第1師団軍夫のスト。</p> <p>8・6 台湾総督府仮条例公布、台湾に軍政実施。</p> <p>8・一 台湾島民の抗日斗争激化。</p> <p>9・22 救世軍士官ら英国より渡来、宣戦式挙行。11月山室軍平、身を同軍に投ず。</p> <p>9・23 フランス全国労働組合大会開催(~28日)、フランス労働総同盟(CGT)結成。</p> <p>10・3 戦役に関する一時賜金を軍事公債証書をもって交付する件公布。</p> <p>10・8 日本軍隊および壮士、大院君を擁してクーデタ、閔妃を殺害。</p> <p>10・29 大阪煙草工300人スト。</p> <p>10・一 徳島県里子貫子の虐待防止に関する取締規則制定。</p> <p>11・8 遼東半島還付条約調印(11・16還付報償金3千万円を受領)。</p> <p>11・15 『東洋経済新報』創刊。</p> <p>11・一 日本海運業同盟(社外船々員の団体)第3回総会、最高俸給など決定。</p> <p>12・14 戦後経済調査会委員会開催。</p> <p>12・28 台湾北部の島民蜂起。</p> <p>12・上 レーニン、ペテルブルクで労働者階級解放同盟を結成。12・9検挙される。</p> <p>12・一 木下尚江、中村太八郎ら信州松本で普通選挙運動を開始。</p> <p>この年</p> <p>▷ 企業ブームはじまり投機熱さかん。泡沫会社続出。器械製糸の生産高、座繰製糸の生産高を凌駕。</p> <p>▷ 広島にはじめての回帰熱患者発生(翌年四国・中国・阪神に流行)。</p>

社 会 運 動	
<p>1・14 陶器職工 300 人余、五条坂で集会。2 割の賃上げを要求、回答あるまで休業と決定。 京都地方労働運動史</p> <p>2・17 南桑田部篠村で村民 130 人余、激昂して村役場へ押しかけ乱暴。役場が共有山林保護のために入会地下草を伐採させず、公売に付することとしたため。まもなく警官の説諭で解散。 明治農民騒擾年表</p> <p>3・一 友仙工、賃上げ要求でストを計画、不穩。 京都地方労働運動史</p> <p>5・10~11 花見小路祇園会館で自由党政談演説会、聴衆3,000人。 日出 5・12</p> <p>5・上 祇園新地の芸者 6 名、逃亡。 京都地方労働運動史</p> <p>5・一 進歩党京都有志の機関誌『進歩』、発売禁止となる(出版条例違反か?)。日出 5・24</p> <p>7・20~21 紀伊郡深草村会、兵営設置調査委員を選定(村議5、公民10、地主10)協議の結果、兵営設置は進んで請願する必要なしと評決。買上げ地価が低廉のため小作人らが反対したことによる(21日、買上げ地価につき小作人ら不満。夜西願寺に150人余の村民屯集、村会決定の結果を待機)。 日出 7・22、23</p> <p>8・4 第一絹糸紡績女工3人、逃亡を企てて捕えられる。 京都地方労働運動史</p> <p>8・一 紀伊郡深草村の兵営地問題、坪74銭で7分通り落着という。 日出 8・14</p> <p>8・一 宮川町遊廓の箱丁、増給要求でストライキ。 京都地方労働運動史</p> <p>9・16 乙訓部向日町の『活眼』第1号、風俗壊乱とみなされ、発行停止。 日出 9・17</p> <p>12・27 京都電灯会社附近の7カ町住民191名、知事に煤煙・騒音取締りにつき請願書を提出。⁽³⁾ 日出 12・29</p>	<p>4・一 京都市常設衛生委員設置。 京都医事衛生誌 61、日出</p> <p>5・26 府、脚気・間歇熱届出方公布。6・3 回帰熱患者届出方、6・5再(回)帰熱に伝染病予防規則(明13布告34号)を適用のこと各公布(このころ、乙訓、紀伊、与謝郡などに回帰熱患者続出)。 府令15、21、22号、府庁文書 明29-19</p> <p>7・1 浄土宗故門主鳳誉の追善供養のため京都市内の貧民3,000人に白米5合宛施米。これに対して12・28府は木盃1組授与。このころから追善供養にあたり貧民救済を行なう傾向あり。ほかに積善社・悲田会・鴨東睦友会・丹治直治郎ら施米。 華頂 50、日出 1・28ほか</p> <p>7・29 京都市会、府立聚楽・日吉両病院を30年度から市の経済に移す諮問に答申(避病院の市へ再移管)。9・1府会答申。市会史、府会史</p> <p>7・一 このころ、三陸地方津波の罹災者に対する救援運動がさかん。東京の野田鉄史らは新京極において三陸津波幻灯会を開催し、平安徳義会では罹災地の孤児収容に尽力。知恩院は救援義捐勸奨の説教などを行なう。 日出 7・5ほか</p> <p>8・一~ 9月にかけ風水害の被害甚大。9・19に救恤金4,000円の下賜あり、また宮内省侍従が視察に来洛。日赤京都支部、現地へ救護所を開設。開業医らも協力。また乙訓郡では堤防道路の修繕など町村事業に、貧民を工夫として雇用するなど各地で罹災者救助に尽力。11・6府災害状況調査の報告を求める。 府庁文書 明29-31、明30-14、社会事業大年表、訓令115号、日出ほか</p> <p>10・24 熊野郡学務委員会、貧困のため学齡児童を就学させられない保護者に保護を与えることなど決議。 京都教育 55</p> <p>12・24 府、一般開業医の種痘施行、治療を許可。 府令76号</p> <p>12・25 府会、知事に対して京都感化保護院の事業助成を建議、30年度より補助。⁽²⁾ 府会史、同院沿革概要</p> <p>12・一 この月、下京区役所調査によると、同区内の高齢者(90~95歳)32人(男6、女26)うち生計の困難なもの11人。 京都新報 明30・2・22</p> <p>この年</p> <p>▷ 紀伊郡深草村に京都衛戍病院を、また天田郡曾我井村に福知山衛戍病院を設置。府誌 下</p> <p>▷ 京都市全市の井水試験を実施、明30・3に調査終了。 市学区大綱</p> <p>▷ 安藤精軒、大学校設立と慈善事業拡張をもって京都の使命とすべしと論ずる。 日赤京都支部沿革誌</p>
社 会 福 祉	
<p>1・16 何鹿部物部尋常小学校で子守教育を開始。 京都教育 50</p> <p>1・一 平安徳義会、孤児に織物用紋工技術を修得させる目的で西陣寺の内通大宮西入に授産場設置を計画。 日出 1・18</p> <p>1・一 東京感化院の高瀬真卿、二条離宮北手の旧養蚕場跡に感化院設置を計画。⁽¹⁾日出 1・29</p> <p>2・一 日赤京都支部、高倉通押小路上ルに救護院養成所を設置。大2廃止。 同支部沿革誌</p> <p>3・31 京都市参事会、衛生組合並連合衛生組合設置標準を論達、同組合設置を命じ補助金交付。 市会史ほか</p>	

参 考	日 本
<p>(1) 彼は明18東京感化院の創設者であるが、京都にも設置を計画したようである。結局実現はしなかった。</p> <p>(2) 建議の趣旨は、「近来犯罪者の増加する原因種々あるべしと雖ども其重なる原因再犯者の増加にある事明なり、京都感化保護院は出獄人をして事業に就かしめ再犯者たらしめざらん目的を以て去る明22年創立爾来其業に従事すると雖も資金足らず為めに充分目的を達すること能はず…」というものであった。以後府より500円を助成。</p> <p>(3) 塩屋町・紙屋町・備前島町・下大阪町・米屋町・鍋屋町・下樵木町の7カ町。請願書の要旨は「右各町は電灯会社設立以来煤煙飛散して家内に吹入飲料水中にも浸入して衛生上其他に少なからざる害を受けたるも別段苦情を唱へず今日まで之れを忍び来りたるも近頃同会社は益々事業を拡張し機械を増設し馬力を増加したる為め毎日午後六時より翌朝五六時頃まで終夜一種の音響を發し各町は戸々毎夜安眠を為し得ざるのみならず小児病人等のある家は其迷惑殊に甚しく且つ此響の為め家屋は傾斜し壁土は剥落して到底忍ぶ能はざるに至りたれば同会社を他に移転せしむるか又は他に適當なる取締法を設け至急実行せられたし」というもの。 日出 12・29</p>	<p>1・9 政府、戦後経営計画に基づく予算案、増税諸法案を衆議院に提出。</p> <p>1・9 民党各派、遼東還付に関し内閣弾劾上奏案提出、採決の結果否決。</p> <p>1・一 山室軍平、救世軍中尉に任ぜられる(日本人救世軍士官のはじめ)。</p> <p>2・11 韓国で親露派クーデター。</p> <p>2・15 国民協会、政府の対韓失政を非難して政府問責決議案提出。2・25否決される。</p> <p>3・1 各派解党して進歩党結成。</p> <p>3・16 陸軍管区表改正公布、全国に近衛および12個師団を配置。</p> <p>3・24 航海奨励法・造船奨励法公布。</p> <p>3・28 営業税法・酒造税法・登録税法・葉煙草専売法公布(日清戦後第1回の増税)。</p> <p>3・30 輸入棉花海關税免除法公布。</p> <p>3・31 痘苗製造所官制公布(東京大学に痘苗製造所を設置)。</p> <p>4・1 拓殖務省設置。</p> <p>4・2 日本社会政策学会創立。</p> <p>4・20 日本勸業銀行法・農工銀行法公布。</p> <p>4・25 第5回全国商業會議所連合大会を博多に開催。営業税反対運動開始。</p> <p>4・27 民法第1、2、3編公布(旧民法廃止)。</p> <p>5・一 学校衛生顧問および同主事設置。</p> <p>6・9 朝鮮問題に関して、山県・ロバノフ協定成立。</p> <p>6・15 三陸地方に大津波。</p> <p>7・19 三重県三重紡績スト(~21日)。</p> <p>7・21 日清通商航海条約調印。</p> <p>7・一 東京船大工組合結成。</p> <p>8・28 大阪ガス設立。</p> <p>9・30 東京木棉商恐慌、関東に波及。</p> <p>10・7 尾張紡(名古屋)男工スト、女工900人は大阪へ逃亡企画。</p> <p>10・19 第1回農商工高等會議開催(職工の取締保護などを諮問)。</p> <p>11・14 雑誌『二十六世紀』、「宮内大臣論」を掲載して発行停止。</p> <p>12・17 高等教育會議を開く。</p> <p>この年</p> <p>▷ 秋季から戦後の反動恐慌の兆候あらわれる。</p> <p>▷ レントゲン装置をはじめて輸入。</p> <p>▷ 大日本貧窮救助慈善会設立。</p>

社会運動	社会福祉
<p>2・一 紫野織物、京都織物の職工を誘拐して問題となる。 京都地方労働運動史</p> <p>2・一 中郡吉原村民約70人、村長を相手どって山林境界について訴訟(地裁で原告敗訴し控訴)。 日出 2・1</p> <p>4・10 雑誌『活眼』、『大活眼』と改題、向日町にて発行。 日出 3・30</p> <p>4・28 京都電気鉄道の事務規定変更を不満として、技術部長以下8名辞表提出、解雇される。 京都地方労働運動史</p> <p>5・25 亀岡町民約80人、営業税法の賃賃価格に関する税務官吏の調査を不当として大円寺に屯集、税務署に押しかける。 日出 5・26</p> <p>5・一 七条ステーション構内車夫約150人、取締りの強化に反対してストライキをおこす。 京都地方労働運動史</p> <p>5・一 亀岡町民の営業税反対運動おこる。</p> <p>6・17 『京わらんべ』第5号に差別記事掲載したため、下京区、紀伊郡の部落民激昂し、代表を選んで発行所に談判、謝罪させる。 日出 6・19、23</p> <p>7・21 西陣燃糸の工女2名、大阪に逃亡を企て巡査に捕えられ、会社に引戻される。 京都地方労働運動史</p> <p>7・一 郵便集配人、賃上げを要求して歎願するもの続出。 同上</p> <p>8・1 第一絹糸紡績会社で、赤痢患者発生、(13日まで65名)自然休業となる。⁽¹⁾ 同上</p> <p>8・一 紫野織物合資会社、京都織物(株)の職工を誘拐、紛糾する(2月以來度々。8・25西陣織物業組合の仲裁で協定和睦)。 日出 8・13、25</p> <p>10・一 京都製針会社の製針職工、ストを計画したが成功せず。 京都地方労働運動史</p> <p>11・一 京都商業会議所の委員会、工場法案(職工条令)について審議。 同上</p> <p>12・19 紀伊郡深草村で小作争議、小作料引下げ要求を地主が拒否したため、70~80名小学校に屯集、不穏。 青木年表、東京日日 12・23、日出 12・21</p> <p>12・一 第一絹糸紡績、女子監禁制縛事件おこる。</p> <p>この年 ▷ 浄土宗(知恩院か)、京都紡績工場女工を婦人団体に加盟させ、教誨する動きあり。 吉田・日本近代仏教社会史研究、明教新誌 4028 ▷ 南桑田郡大井村土田で、凶作のため小作人ら小作料引下げを要求、33人騒動に及ぶ。 京都府農業発達史</p>	<p>1・31 大喪にあたり各地方の慈恵救済の詔勅があり府には12,300円下賜。府会12・27慈恵救済恩賜金処分方法、慈恵救済基金管理規程を決議(認可明31・1・13)、京都市では4月下旬賜金10,000円を基にし慈恵基金を設置、その利子を私設社会事業団体補助に充当、同時に京都市慈恵基金に関する規則を制定(市最初の社会事業的法規)。⁽²⁾ 府会史、市政史、京都新報ほか</p> <p>1・一 大阪堂島の雨森茂市、日本救教院設立を計画(知恩院山内忠孝院に事務所を仮設し事業を開始、3歳と6歳の幼児2人を保育)。⁽³⁾ 京都新報 2・20、日出 1・13</p> <p>1・一 紀伊郡柳原町に天然痘流行、町内の民家に患者を收容、町民1,200人に種痘接種。 日出 1・15</p> <p>2・7 京都感化保護院、減刑令による出獄人のために、上京区丸太町通り猪熊西入ル菓屋町に臨時分院を開設(~6・15、35人を收容、京都の該当者421人という)。 日本監獄教誨史、京都新報、更生保護会沿革要覧ほか</p> <p>2・上 上京区智恵光院通今出川南入紋彫商、樋口利兵衛、職工20人余を対象に夜学舎開設。 府教育雑誌 59</p> <p>3・一 山崎琴書・氏原魯山ら京都の諸芸人は慈善と芸技の進歩を図るため共楽会を結成。 日出 3・7</p> <p>4・1 日吉・聚楽病院を地方税経済より京都市の経済に移し、日吉病院を常設、聚楽病院を臨時とする(3・6市会、市立病院規則可決、3・31府は府立聚楽、日吉病院の閉鎖を告示)。 府会史、市政史、告示58号</p> <p>4・一 京都市、塵芥採集を廃して各衛生区の自治に委任。 京都医事衛生誌 46</p> <p>5・1 同志社病院、組織を一新し佐伯理一郎、院長に就任、京都看病婦学校も引継ぐ。 京都医事衛生誌 37</p> <p>6・30 府、明20・9伝染病に罹る赤貧者費用支給取扱方法廃止。6・18明24・2府告示伝染病予防心得書及コレラ病予防消毒心得書廃止。 訓令132号、告示175</p> <p>7・29 京都市衛生常設委員会、伝染病予防のための会議開会、市医常設の件、交通遮断に伴う赤貧者の救済法(1日1人白米3.5合支給)を議決。 京都医事衛生誌 41</p> <p>8・19 府、伝染病予防法施行手続制定。 訓令160号</p> <p>8・一 府下に赤痢が流行、鴨東第一絹糸紡績会社内の工女156人罹患、うち14人死亡、各工場職工衛生に関心もつ。 日出 8・15、京都医事衛生誌 46</p> <p>9・一 室町上長者町上ルに京都産婆学校設立。 市学区大観</p> <p>10・11 京都市、公同組合設置標準を市民に諭達。⁽⁴⁾ 市達45号</p> <p>11・4 府、衛生組合設置規則公布。府令198号</p> <p>12・一 府医学校、精神病舎新築。定員40人、(本邦医学校において精神病舎を施設したはじめ)。 府立医大80年史</p>

参考	日 本
<p>(1) その原因として以下の点をあげており、当時の女工哀史の一側面を示している。</p> <p>1、寄宿舎の不潔は云うまでもなく、其建築の如きも一方口にて窓は1個穿ちあるも、土蔵のために塞がれて、空気の流通更になしと云うも可なる姿なれば、悪臭に堪へ難く、南京虫・虱・蚤等の巢窟なること。</p> <p>1、食物は女工1名より1日7銭の料金を徴収し、会社より1銭宛を補助し、都合8銭なるも、此中で賄方は利を貪れば、先づ支那米に香の物其他腐敗に傾けるものを食せしめあること。</p> <p>1、飲料水其他には総て毫も注意をなさざること。</p> <p>1、工女使役の時間長くして衣類等を洗濯すべき余時を与へざること。</p> <p>1、会社重役は此間に在て少しも職工衛生に関し注意をなさざりしこと。 日出 8・15、21</p> <p>(2) 府では下賜金12,300円をもって慈恵救済基金を設置したが、のち大・元大喪時の16,800円の下賜金も併合した。</p> <p>(3) 日出1・13には「日本救教院」とある。また設立については日本社会事業大年表には5月とある。目的は、世の貧困無告の窮民の子女を保教し、知徳を修め、學術芸技及び産業を授け有為の青年を養成し且つ天災地変疾病に罹り活路を失った窮民を救済。賛成者の中に田島教恵、皿井公明など。</p> <p>(4) 従来の五人組制に基づく町組が「公同組合」という名称に統一され、市の自治行政における補助機関となり市民の福利増進につとめたが、のちの方面委員制度との関連がつよい。</p> <p>この年 ▷ 府下で天然痘流行。患者478人(うち死亡137人)。 府統計書、日出 ▷ 駆黴院の患者増加、祇園歌舞練場の一部を借り受け、臨時分院病室を設置。娼妓1,771人中、入院280人、また患者の素質悪化し、抱え主、情夫らの使喚により医員が困ばい。 明治文化と明石博高翁 ▷ 府は京都感化保護院に対してこの年から年々500~800円を補助(明38府会において同院の補助を否決)。 日本監獄教誨史 下、府会史</p>	<p>1・11 英照皇太后没(1・31減刑および台湾における大赦を公布)。</p> <p>1・27 横浜の日本絹糸紡績職工スト。</p> <p>1・27 原善三郎ら実業同志倶楽部結成。</p> <p>1・一 留岡幸助、『感化事業之発達』を刊行。</p> <p>1・一~ 自由党脱党者続出(~2月)。</p> <p>2・5 農商務省、八幡製鉄所設立を決定。</p> <p>2・27 ハワイで日本人の移民上陸を拒否(以後4月にかけて上陸拒否事件続出)。</p> <p>2・一 工業団体同盟会設立。</p> <p>3・1 片山潜、社会改良事業のため、キングスレー館開館。</p> <p>3・3 足尾銅山鉱毒被害民800人大挙して上京、請願運動開始。</p> <p>3・11 貴族院本会議、谷干城提出の軍縮上奏案を否決。</p> <p>3・24 新聞紙条例中改正法律公布。</p> <p>3・29 貨幣法公布(10・1実施、金本位制確立)。関税定率法公布。</p> <p>4・1 伝染病予防法公布(5・1施行)。ペスト、しょうこう熱追加(これにより従来各地に自主的におかれた衛生組合法制化する)。</p> <p>4・3 樽井藤吉・中村太八郎ら社会問題研究会結成。</p> <p>4・6 職工義友会、神田で労働演説会開催。「職工諸君に寄す」を配布。</p> <p>5・21 海軍造兵廠条例公布。</p> <p>5・22 大阪友禅染工1,300人賃上スト。</p> <p>5・31 高島炭坑夫700人暴動。(6・3数百人再暴動、中旬300人スト)。</p> <p>6・6 横浜ドック大工スト(~8月下旬)。</p> <p>6・一 世界的銀価大崩落。</p> <p>7・5 労働組合期成会結成。</p> <p>7・9 東京米穀市場相場乱調。</p> <p>7・一 木下尚江ら松本に普通選挙同盟会結成。</p> <p>9・1 長野県飯田町・富山・新潟など米騒動。</p> <p>9・2 拓殖務省廃止。</p> <p>9・11 陸軍造兵廠条例公布。</p> <p>9・一 凶作のため米価急騰。</p> <p>10・13 文部省、教員の政談を厳禁。</p> <p>10・31 進歩党、松方内閣との提携断絶を決議、反政府の態度をとる。</p> <p>10・一 紡績会社金融逼迫。</p> <p>12・1 鉄工組合結成、『労働世界』刊行。</p> <p>12・14 現内閣反対全国新聞雑誌記者大懇親会開催(12・28松方内閣総辞職)。</p> <p>この年 ▷ このころより労働者の階級意識高揚し労働争議が急激に増加(約100件)。 ▷ 前年凶作のため、米価騰貴、農民騒擾110件に達する。 ▷ 大竹貫一ら「恤救法案」と「救貧税法案」を議会に提出、政府反対し議会で否決。</p>

社 会 運 動	
<p>1・1 福知山町遊廓移転指定地に反対の有志、移転反対演説会をひらき、中止解散を命じられる。 日出 1・5</p> <p>1・15 府議田中祐四郎(紀伊郡選出)ほか3名、知事に瀬高紀伊郡長の更任を請願。 京都地方労働運動史</p> <p>1・一 下京区本町伊藤住兵衛ら家主4人、元31組全域の家持組合規約を設け家賃上げを企図、借家人らの反対で紛糾。 日出 1・12</p> <p>2・一 京都紡績会社女工、尾張一ノ宮紡績会社によって誘拐される(4月までに50人以上にのぼる)。 京都地方労働運動史</p> <p>2・一 安倍磯雄、同志社学生消費組合設立。 府産業組合史</p> <p>4・一 市内貧民、米価高により不穩。 京都地方労働運動史</p> <p>6・一 竹野郡在郷軍人研究会創立。 日出 明32・7・9</p> <p>8・23 上京区千本二条の瓦製造会社の職工100人余、賃下げ反対のストライキ。 京都地方労働運動史、日出 8・25</p> <p>9・一 浄土真宗大谷派、京都西陣製織会社の教諭を開始。 密厳教領 244、教学報知 76</p> <p>10・29 西陣織物同業組合、「職工及徒弟に係る規則」を定める。⁽¹⁾ 日出 11・2</p> <p>10・一 工場法案に関し、西陣の経営者ら検討をはじめ(主に職工年令制限に関する検討)。⁽²⁾ 日出 10・29</p> <p>10・一 京都商業会議所、工場議案を審議。 京都地方労働運動史</p> <p>11・26 祇園館にて堀田正忠・奥繁三郎・宇川盛三郎ら政談演説会(教育・犯罪・拷問批判など)。 日出 11・26</p> <p>12・一 第一絹糸紡績会社、盗難事件から女工の監禁制縛事件起る。 京都地方労働運動史</p>	<p>1・21 府、幼者養育規定公布(廃止昭22・5・2府令28号)。⁽⁴⁾ 府令5号</p> <p>2・22 府、郡部備荒儲蓄金管守支給規則公布(明31年度施行)、明23・5府令備荒儲蓄施行規則廃止。 府令26号</p> <p>2・一 上京区衛生組長幹事会、塵芥捨場公設について市参事会へ再度請願。9月市は下京区今熊野町など5カ所に市設塵芥捨場を設置。⁽⁵⁾ 市会史、市学区大観、京都医事衛生誌</p> <p>4・1 府、市立各学校に学校医をおく(実際には5~6月にわたり設置)。 達56号、京都医事衛生誌 66</p> <p>4・20 中郡三重村森本部落101戸中53戸焼失、府、罹災者に備荒儲蓄を適用。府庁文書 明31-29</p> <p>4・一 本派本願寺、下京区東中筋花屋町上ル所に看護婦養成所を設立。⁽⁶⁾ 教学報知 4・27、京都医事衛生誌 71</p> <p>5・一 竹中庄右衛門ら貧民教育の必要性を認め下京区元7、8組巽町、長光町、教業町連合の夜学会を設立。明37・1私立協同夜学校へ発展。⁽⁷⁾ 教学報知 5・23ほか、京都教育雑誌 76</p> <p>5・一 このころ米価騰貴。京都府内の有志、貧民へ施米。上京区役所では貧民救助のための有志の寄附金で白米20石購入し配分。9月京都米穀商組合長広田善平ら米50石を市内貧民へ施与。11月建仁寺で篤志家、最貧民200余人に20銭ずつ施与。 日出 5・20、9・7ほか</p> <p>6・一 上京区の永田恭蔵ら丸太町高倉西入ルに衛生合資会社を設立、各戸便所などの掃除、消毒を請負。 日出 6・23</p> <p>8・一 救済会、このころまで京都市内各所に支那米安売所を設置し、白米の安売りを行なう。 日出 8・27</p> <p>8・一 駆籠院の入院患者2倍に増加(平常は150~200、最近320余人)。祇園町歌舞練場近くの検査所を暫定的に分院にする。京都医事衛生誌 53</p> <p>10・一 東宮殿下行啓、衛生の資として5,000円下賜。市会は市役所において利殖の法を設けこれを保管運用することを議決(翌年1・4市公告2号公布)。 京都医事衛生誌 58</p> <p>11・19 花見小路祇園館において稲葉了証・間野蘭門・三山元樹ら監獄教諭問題の仏教大演説会開催(予定)。 教学報知 11・19</p> <p>11・一 この月から京都市役所において賞恤慈恵に関する事項を取扱う。 市政史上</p> <p>11・一 友岡友仙・田中秀三らの主唱により京都の種痘創始50年祭を紫野大徳寺で挙行、創始者日野昇哉・桐山元中の霊を祭る。 京都医事衛生誌 66</p> <p>11・一 何鹿郡吉美村に吉美報徳社設立。社員の救済、篤行者の表彰など行なう。 社会事業施設要覧 昭11</p>
社 会 福 祉	
<p>1・8 府、慈恵救済恩賜金処分方法、同基金管理規程を告示。この月同基金の利子を各施設に配分(盲啞院295円、京都感化保護院220円、平安徳義会104円65銭)。 告示5号、日出 1・13</p> <p>1・10 安藤精軒ほか4人、下京区新橋通大和大路東入林下町(知恩院山内法徳院)に貧困患者のための施薬院設立を府に願出る。1・18許可。⁽³⁾ 同院事業概要、京都医事衛生誌</p>	<p>この年</p> <p>▷ 種芸種智院(真言宗)、貧民救恤部を設立。 伝灯 167</p> <p>▷ 監獄入監者とくに増加(物価の昂騰と選挙違反者の増加が原因)。 日出 32・1・15</p>

参 考	日 本
<p>(1) 西陣織物同業組合定款(明31・10・14認可)中に賃織、職工徒弟に関する規程が設けられたが、これによるほか「職工及徒弟に係る規則」を定め、職工証票を附与、組合の保証登録をうけ契約中の職工・徒弟は使傭者の承諾なしに他人の業務に従事するなどは禁止され違反すれば50銭~5円の違約金を課せられるなどの強制規定があった。 日出 11・2、西陣織物館記</p> <p>(2) たとえば、工場法案第10条の職工の年令制限満14歳を12歳とし、第12条の職工教養に関して小学校を卒らざるものとあるのを小学校卒業の学力を有せざるものと改める等である。日出 10・29</p> <p>(3) 実際には安藤精軒治療所を法徳院に移したかたちである。規則には「本院は慈恵の趣旨により貧窮にして疾病に罹り医薬を得るの力なき者を施薬する所とす」とある。院長は馬杉則知。</p> <p>(4) 里子・貰子に関する取締規定は明28徳島県で始めて制定、その内容は、里子・貰子の虐待を防止するために6歳未満の児童を養育料をとって貰い受けたものは所轄警察署に届出ることを義務づけ、違反者には罰則規定を設けた。</p> <p>(5) あとの4カ所は、愛宕郡田中村大字田中・葛野郡衣笠村大字等持院・同郡朱雀野村大字西ノ京・同郡朱雀野村大字壬生</p> <p>(6) この設置の件は明29・4開設の予定であったが延引。同所の特色は、患者が看護料支払い不可能の場合はすべて無料とするところにある。</p> <p>(7) 京都府社会事業便覧、日本社会事業大年表によれば、設立は前年5月とあるが、明31設立当時発行の京都教育雑誌、教学報知の報道によった。</p>	<p>1・9 選挙法改正期成同盟会組織。</p> <p>1・12 第3次伊藤内閣成立。</p> <p>1・12 市町村立学校に学校医を置く旨公布(施行4・1)。</p> <p>2・2 日本鉄道機関工スト(~3・28)。</p> <p>3・15 第5回衆議院総選挙(臨時)。</p> <p>3・20 活版工同志会懇話会組織。</p> <p>3・27 ロシヤ、旅順・大連租借。</p> <p>4・10 片山潜ら東京奠都30年を祝し運動会を挙行、参加800人。</p> <p>4・19 政府、経済界救済のため公債買い上げ(3,870万円、~10・10)。</p> <p>4・27 片山潜・横山源之助ら、貧民研究会を結成。</p> <p>5・14 第12回帝国議会(特別)召集。</p> <p>6・10 衆議院、地租増徴案を圧倒的多数で否決、解散。</p> <p>6・上 実業家、地租増徴案通過に狂奔、地価修正派の運動さかん。</p> <p>6・25 保安条例廃止の件公布。</p> <p>6・28 東京・京都・大阪の3市における市制特例の廃止公布。</p> <p>6・30 隈板内閣成立(~10・31)。</p> <p>6・一 このころ、物価騰貴で全国的に細民の生活困窮化し、雑穀・野菜などを常食とするもの増加。</p> <p>7・16 民法全編施行。</p> <p>7・23 片山潜・高野房太郎、東北遊説。</p> <p>8・10 第6回衆議院総選挙(臨時)。</p> <p>8・20 尾崎文相の共和演説事件。</p> <p>9・5 巢鴨監獄で仏教教諭師を免職し、キリスト教牧師を採用。監獄教諭師問題おこる。</p> <p>9・23 労働組合同期成会、工場法案に対する修正意見を決定。</p> <p>9・28 文部省、学校伝染病予防及消毒方法を公布。</p> <p>9・一 工場法案発表。10・24農商工高等会議で可決、12・2議会提出中止。</p> <p>10・18 幸徳秋水・片山潜らの社会主義研究会成立。</p> <p>10・29 憲政党分裂、自由党、新憲政党結成を議決。</p> <p>11・3 進歩党、憲政本党結成。</p> <p>12・8 地租増徴反対同盟会組織(会長鈴木重遠、幹事長谷干城)。</p> <p>12・15 地租増徴期成同盟会組織(会長洪沢栄一)。</p> <p>12・20 衆議院、地租増徴案、地価修正案を修正可決(12・27貴族院可決)。</p> <p>この年</p> <p>▷ 地租論争、政界、言論界でさかん。</p> <p>▷ 物価騰貴、窮民続出。内務省、細民状況調査を府県に命令。</p>

社会運動	社会福祉
<p>1・4 憲政党近畿会幹事会。西山志澄ら近畿遊説につき協議（7日京都支部懇親会）。 日出 1・5～8</p> <p>1・6 京都実業協会、西山志澄らを招き京都ホテルで政談集会。 同上</p> <p>1・一 丹後各郡の憲政党员、与謝・中郡をのこして続々脱党。 日出 1・10</p> <p>1・一 醤油製造業者・小売業者、醤油税則改正反対の陳情に東上。⁽¹⁾ 日出 1・26、10、22</p> <p>2・6 平井金三オリエンタルホールの塾生ら20名、市長・市参事会・市会議長らにあてて遊廓全廃の建議を提出。 日出 2・7</p> <p>2・26 峰山町増長院にて華城クラブ演説会。弁士吉村竹峰・谷口博洛・中山鶴州ら。 日出 3・4</p> <p>3・31 大仏前および泉涌寺付近の瓦製造職工200名余、賃下げに反対してストライキ。 京都地方労働運動史</p> <p>3・一 京都市西南部有志、公友倶楽部を組織、市内における議員選挙・道路問題など協議、堤弥兵衛・木村勝次郎ら。 日出 3・15</p> <p>3・一 道路拡張反対演説会、祇園館で開催。（反対運動10日下京17、18、24各組101名連署し市長に延期の建議、また下京26組104名も同じく）。 日出 3・11、13</p> <p>3・一 紀伊郡柳原尋常小学校移転について住民の賛否分裂して紛議（10・18町会議員協議会で調停、移転決定）。 日出 10・23</p> <p>5・27 関西非増税同盟大会開催（憲政本党近畿支部首唱、28、29日、祇園館にて演説会）。 日出 1・29</p> <p>7・2 土夜月庵なる者、『日出新聞』に投書して社会主義と社会問題に関する書籍、発行所、代価など教示を求める。 日出 7・2</p> <p>9・1 久世郡佐山村で憲政本党遊説員高橋秀臣、非増租改政演説会を開く。 日出 9・1</p> <p>10・一 憲政本党京都支部白山虎兵衛ら、府会議員選挙に関し不満ありとして脱党。⁽²⁾ 日出 10・8～9</p> <p>11・1 宇治郡醍醐村の部落民、神輿かつぎの差別撤廃を要求し、80余名が長尾神社に集合。 日出 11・2、京都地方労働運動史</p> <p>11・12 全国活版工組合京都支部結成集会を下京区法輪館で開く。 同上</p> <p>11・一 丹後粟飯原かなへ・佐久間丑雄・小松正路ら、小室信介・渡辺正修の記念碑の建設を計画。 日出 11・15</p>	<p>12・18 伏見町大平座で政談演説会、弁士吉田千代吉・西尾哲夫。 日出 12・21</p> <p>12・一 京都商業学校の生徒有志、同盟して首席教諭に辞職を勧告、同教諭辞任にいたる。 京都地方労働運動史</p> <p>この年 ▷ 宮津町の尋常小学校にて一部部落住民はじめて入学。 日出 9・20</p> <hr/> <p>1・1 何鹿郡綾部町味方尚武議会議会結成、各自抛出玄米を基本財産とし戦時軍人家族を扶助。 日出 1・5</p> <p>1・一 京都監獄署、物価漸次下落のためか囚徒が減少。12月府会議員堀五郎兵衛の発議で知事あて監獄移転を建議。⁽³⁾ 日出 1・15、府会史、教学報知ほか</p> <p>1・一 久世郡久津川青年会の夜学会、紀伊郡吉祥院村西条共和会結成。2月京都市内高辻通大宮西の反省会慈善部の夜学会、南桑田郡宮前村宮川青年会などこの年各地に結成。貧困による未就学児童の教育がさかん。 日出 1・11ほか</p> <p>1・一 新門前小堀西入池田清助還暦祝いに貧民6,000人へ白米60石、ちり紙など施与。その他紀伊郡柳原町鈴鹿甚三郎・井上栄之助・村井吉兵衛ら・仏教婦人会・京都婦人慈善会などの施米あり。 教学報知 6・9、府庁文書 明30-11、日出 1・18、2・21ほか</p> <p>2・一 真宗大谷派僧侶丹羽憲顕、仏教主義に立脚し、油小路竹屋町下ルに京華養育院を設立、孤児・老人・苦学生の保護にあたる。⁽⁴⁾ 府誌 下、府社会事業便覧、感化救済小鑑ほか</p> <p>2・一 丹波第1キリスト教会員組織の綾部町婦人会、慈善事業費捻出のため手芸を開始。 日出 2・26</p> <p>3・13 府、京都市に伝染病予防法に基づく伝染病予防委員を設置。府令37号、日出 3・17ほか</p> <p>3・31 京都市常設衛生委員廃止（特別市制解かれ専任の市吏設置による廃止）。 京都医事衛生誌 61</p> <p>3・一 佐藤三枝、京都円山産婦養育院開設（赤貧者の入院は無料）。 日出 3・30</p> <p>4・一 愛宕郡光福寺松岡了善、蓮教会を結成し貧民の救済にあたる。 浄土教報 695</p> <p>5・3 平安徳義会、財団法人組織となる（京都市においてははじめという）。 同会45年史</p> <p>6・22～ 上京区上長者町署管内各組衛生幹事ら衛生思想普及を図り衛生演劇会開催。 日出 6・24ほか</p>

参考	日 本
<p>(1) 10・20から醤油値上げとなり、備前醤油7歩、竜野醤油8歩値上げ協定を行う。</p> <p>(2) 「同志会は憲政本党に合同せしと雖も、実は一般の会員は義務的に入党せる形にて、其目的何れにありといわば、京都市民の与論たる地租増徴論に反対して非増租を唱ふるにあり、…一般市民より彼は非増租派の人なり杯と呼ばれて交際上不便を感ずること少なからず…」</p> <p>(3) その内容「近来産業ノ発達又ハ鉄道ノ敷設ニ由リ人家年々増加シ獄舎ノ附近概ネ繁栄ノ要地ニ化スルノ趨勢アルニ於テヲヤ既ニ清淑ノ靈境ヲ侵シ又良民ノ住居ニ逼マラル為…」</p> <p>(4) 明35営業部を設け小学児童用教科書販売開始、明39石蠟製造販売部を、大2表具部を開始した。維持方法は院長、院児相たずさえて車をひき日用雑貨品、京華ろうそく（自家製）などを行商販売してまかなったという。</p> <p>(5) 目的は実業の発達を図るとともに鰥寡孤独を救うにある。物品に慈善券を添えて売り出すなど。</p> <p>6・30 府、行旅病人行旅死亡人取扱心得公布。 訓令142号</p> <p>7・29 京都感化保護院、保護生増加のため、下京区六角通大宮西入因幡町に新築移転。 同院沿革概要</p> <p>8・1 府衛生課、郡部の看護婦不足の傾向に対処し、府立療病院において伝染病看護婦養成を開始（期間1カ年）。 京都医事衛生誌 64、日出 7・9</p> <p>8・21 仏教青年会の十五日会が慈善夜学校を五条大橋東善立寺に設立。 教学報知 8・21</p> <p>9・1 罹災救助基金法に基づき、府、罹災救助基金法施行規則公布。 府令87号、(改正 昭7・11・15)</p> <p>9・11 京都帝国医科大学開設、10月同附属病院開院、12・12貧困患者の官費施療開始。 京大70年史、日本医療保障発達史年表</p> <p>9・23 今井清次郎ら京都実業慈善会を結成（12月京都市内6カ所に受惠箱を設置）。⁽⁵⁾ 日出 7・9ほか</p> <p>9・一 真宗大学生竹島将法、洛東慈善学院を設立（明33・9現在生徒数60人）。 仏数 165</p> <p>10・6 京都医会々長山田文友、京都府医会創立を郡部医師に呼びかける。 市医師会50年史、日出 10・13</p> <p>11・26 府衛生会発会（大日本私立衛生会京都支会はそのまま存続、会頭内海知事）。 日出 11・27、29</p> <p>この年 ▷ 赤痢流行、患者1,136人（うち死亡284人）。 府統計史料集</p> <p>▷ 大阪などにペスト流行。府ではペスト病予防心得を告諭、ねずみ駆除を奨励、汽車船舶の検疫を実施するなどその予防に尽力。 府告諭5号、訓令192号ほか</p>	<p>1・1 紡績、第2次操業短縮（～31日）。</p> <p>1・15 『中央公論』発刊（『反省雑誌』を改題）。</p> <p>2・8 政府、衆議院議員選挙法改正案を提出、3・9両院衝突し不成立。</p> <p>2・13 所得税法改正（日清戦後第2回の増税）。</p> <p>3・2 北海道旧土人保護法公布。</p> <p>3・16 府県制、郡制改正公布。</p> <p>3・22 罹災救助基金法公布。</p> <p>3・28 行旅病人及行旅死亡人取扱法公布（7・1施行）。</p> <p>3・31 伝染病研究所官制公布（4・1施行）。</p> <p>4・13 海港検疫所官制公布（横浜、神戸、長崎、口ノ津）。</p> <p>4・30 横山源之助『日本之下層社会』刊。</p> <p>4・一 東京協賛会設立。</p> <p>5・18 ハーグで第1回万国平和会議開催（～9・29）。</p> <p>6・5 義和団の乱。</p> <p>6・8 内務省、工場衛生調査を訓令。</p> <p>6・一 大井憲太郎ら大日本労働協会および小作条例期正同盟会結成。</p> <p>7・15 軍機保護法、要塞地帯法公布。</p> <p>7・17 改正条約実施（内地雑居実施）。</p> <p>9・15 小仏トンネル工事夫300人スト。</p> <p>9・21 府県会議員選挙（憲政党勝利）。</p> <p>9・27 足尾鉍毒被害者5県の農民7,000人、大挙上京し政府に暴動。</p> <p>10・2 河野広中ら東京に普通選挙期成同盟会を結成（翌年11月普通選挙同盟会と改称）。</p> <p>11・3 活版工同志懇話会改組し労資協調の活版工組合を結成。</p> <p>11・7 政憲党関東大会、「政権の分与」を要求。</p> <p>11・18 内務省、ペスト予防のため清国インドからボロ・古綿の輸入を禁止。</p> <p>11・20 選挙法改正全国各市連合会結成。</p> <p>11・23 留岡幸助、家庭学校を設立。</p> <p>この年 ▷ 赤痢流行、死者23,763人（翌年より死者急激に減）。</p> <p>▷ 第1回肺結核死亡数全国調査。全国の肺結核死者66,408人（総死亡の7.1%）</p> <p>▷ ペスト、大阪・兵庫・広島・福岡・和歌山・長崎などに流行、患者総数62人。うち死亡45人（ペスト流行のはじめ）、12・13臨時ペスト予防事務局官制公布。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・一 京都商業学校生徒、校務大改革・学校刷新をとえ、首席教諭柿崎精一に辞職を迫る(2月柿崎教諭辞職)。 日出 1・5、2・10</p> <p>2・5 大井憲太郎、西陣で政談演説会、聴衆1,000余名。 京都地方労働運動史</p> <p>3・25 西陣機業家有志、大井憲太郎の大日本労働協会の趣旨に賛成し、招待政談演説会を開く(内容：職工の勤勉貯蓄、労使協調による利益の増進など)。 日出 3・22、27</p> <p>3・一 京都染物会社の職工5名、ストライキの計画が「発覚」、解雇さる。 日出 3・2</p> <p>3・一 真宗中学生徒360名余、退校を命ぜられた32名の生徒の復学(退校取消)を要求して、同盟休校(のち、説諭され休校をとく)。 日出 3・19</p> <p>4・一 中郡周枳村、村長選出をめぐる村民対立、郡参事会の村長・助役決定に反対して、郡長に抗議。 日出 4・6</p> <p>5・一 府、職工募集取締規則施行。⁽¹⁾ 京都地方労働運動史</p> <p>8・一 過去6カ年間、漁業権問題で紛擾していた与謝郡伊根村・養老村両村の和解成立。養老村が、漁業専従村の伊根村漁業圏に漁網を仕かけたのが原因。 日出 8・26</p> <p>10・15 第10師団工兵第10大隊第3中隊第3班の兵士石井某、福知山付近の阪鶴鉄道路線上にて自殺。隊内で窃盗の嫌疑を受け、呵責拷問にたえかねて脱営したという。 大阪朝日 10・16</p> <p>11・9 某燃糸会社女工3名、早朝から深夜にいたる過重労働にたえかね逃亡。 日出 11・10</p> <p>11・29 四条教会にて社会矯正演説会。日本廃娼会幹事松田順平、「公娼廃止の利害」など。 日出 11・29</p> <p>11・一 渦上三吉ら6名、徴兵検査拒否等で徴兵令違反で告発をうけ、罰金刑に処せらる。 日出 11・16</p>	<p>2・一 内務省、窮民救助制度について小学教育を受けていない者の数、事由などを府に照会。⁽²⁾ 日出 2・23</p> <p>3・1 天台宗僧侶津田明厳、上京区聖護院東之町に京都救済院を開設、孤棄貧児を收容、傍ら老衰者・非行少年も扱う。大13・10天田郡長田願来寺内に移転し主に養老、痲疾者の保護にあたる。 社会時報 10:5、府庁文書 大15、四明余霞 21:5</p> <p>3・30 府、未成年者喫煙禁止法施行(4・1)を前に同法の趣旨を体し未成年者・父兄・営業者に注意。4・6訓令で学校生徒の喫煙を禁止。 告諭1号、訓令48号</p> <p>3・一 上、下京区の小学校医会の連合なり、京都市学校医会発足。 府誌 下</p> <p>4・23 市、郡医会の連合組織、京都医会設立。 市医師会50年史</p> <p>4・一 患者負担の駆黴院の寝具代・食費を以後、府で負担(全国で初の試みという)。 府誌 下、明治文化と明石博高翁</p> <p>4・一 南桑田郡亀岡町の婦人有志、亀岡婦人慈善会を設立。翌34・4に帝国婦人慈善会と改称。 日出 3・12、教学報知</p> <p>6・一 府、ペスト対策の一環で、京都市および近接郡村の貧民部落に対し検疫戸別調査費2万円を計上。 日出 6・21</p> <p>7・27 府、精神病患者監護法令取扱手續公布。癲癩人取締規則(24・4府令37号)廃止。 訓令95号、府令68号</p> <p>7・31 府、密売淫をなし行政執行令により処刑された梅毒患者の收容治療は密売淫取扱手續を適用するべく訓令。 訓令97号</p> <p>9・一 南桑田郡篠村に矯風慈善団体馬場同志会結成。相楽郡在郷軍人講習会結成。 篠村史、相楽郡誌</p> <p>10・一 葛野郡川岡村に子守学校開設。 府初等教育優良事蹟第1編</p> <p>11・8 京都駆黴院を八坂病院と改称し、京都娼妓検査所を設置。伏見・舞鶴・福知山・宮津駆黴所をそれぞれ娼妓検査所と改称。同時に娼妓健康診断施行規則を公布。 訓令119号、府令102号</p> <p>11・一 大日本私立衛生会、伝染病救済金庫設立計画について府へ照会。府では各市郡長に賛同することを奨励。 日出 11・11</p> <p>12・20 府事務官藤本充安の発起により人円会発会。のち雑誌『人円会』発刊。日露戦時出征軍人家族のための幼児保育所開設。⁽³⁾ 府教育会雑誌 158ほか</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 京都真宗本願寺派仏教青年会、宗祖降誕会を記念し貧民に施米。 日本近代仏教社会史研究 ▷ 松ヶ崎・修学院・下鴨・白川4カ村組合病院として松ヶ崎村に藪倉病院を開設。 愛宕郡村誌 ▷ 船井郡竹野村、貧民就学児童給費規程を設け、貧民就学を救助。⁽⁴⁾ 府初等教育優良事蹟第1編

参 考	日 本																					
<p>(1) 職工募集は募集地管轄警察署の認可を要するとし、応募者より金品・報酬を受取ることを禁じ、警察は募集記録の閲覧を求めることができるなど規定。</p> <p>(2) 調査事項は、①小学校不就学者が育児院・貧民学校等で教育を受けている状況、②恤救規則以外の救助方法、③恤救規則による救助の状況など。</p> <p>(3) 人円会々則には「吾人は遵法正直孝悌忠信仁愛恭儉勤勉義勇剛毅節制振養改善進取荣誉報恩益世奉公智見悟覚等を円満に踐行するを以て快樂とすべき」とある。発会式は明34・11・2。 府教育会雑誌 108</p> <p>(4) 本規程は「府税賦課戸数割等差中末級なる3箇等に該当する保護者の児童に学資を支給するものとす」と。</p> <p>○ 全国の労働争議件数</p> <table border="1" data-bbox="1647 840 2122 1102"> <thead> <tr> <th>年 次</th> <th>件 数</th> <th>参加人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>明30</td> <td>32</td> <td>4千人</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>43</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>11</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>34</td> <td>18</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) このとき京都府は該当なし 資料 労働省：統計からみたわが国の労働争議 (昭25)</p>	年 次	件 数	参加人員	明30	32	4千人	31	43	6	32	15	4	33	11	2	34	18	2	35	8	2	<p>1・13 普通選挙同盟会(松本)、衆議院に普通選挙請願書を提出。ついで1・18普通選挙期成同盟会(東京)も提出。</p> <p>1・16 府県監獄費、府県監獄建築費に関する法律公布(10・1施行)、監獄費は国庫支弁となる。</p> <p>1・28 社会主義研究会を改め、社会主義協会発足。</p> <p>2・24 労働組合期成会、治安警察法案反対運動開始。</p> <p>3・7 産業組合法・未成年者喫煙禁止法公布。</p> <p>3・10 集会及政社法を廃止して治安警察法公布。感化法、精神病患者監護法公布。</p> <p>3・29 衆議院議員選挙法改正公布。</p> <p>3・30 府府県に臨時検疫官を置くの制を定める。</p> <p>3・下 兵庫県赤穂塩田人夫3,000人スト(～4月上旬)。</p> <p>4・7 内務省、牛乳営業取締規則公布。</p> <p>4・18 大日本紡績連合会、5・1から月4回の休業決議。</p> <p>4・24 東京株式市場大暴落、各地に金融恐慌おこる。</p> <p>4・27 監獄事務を内務省より司法省に移す官制公布(7・1施行)。</p> <p>4・一 文部省に学校衛生課をおく。</p> <p>5・19 軍部大臣現役武官制の確立。</p> <p>5・24 内務省、18歳未満の者の娼妓になることを禁止。</p> <p>5・31 憲政党、山県内閣提携打切り声明。</p> <p>6・21 清国、列強に宣戦(北清事変)。</p> <p>8・7 幸徳秋水、『万朝報』に非戦論を発表。</p> <p>8・14 日本軍、各国連合軍と共に北京城内に進入、公使館区域を救援。</p> <p>9・5 救世軍および二六新報社、新吉原で廃娼運動、再三流血事件おこる。</p> <p>9・一 井上友一ら貧民研究会結成。</p> <p>9・一 ライオン歯磨本舗小林富次郎、同歯磨慈善券付袋入を発売。</p> <p>10・2 内務省、娼妓の自由廃業運動の活潑化に対処して娼妓取締規則公布。</p> <p>12・1 日本鉄工共益社設立。</p> <p>12・13 臨時ペスト予防事務局官制公布、大阪に設置(廃止明36・7・25)。</p> <p>12・25 熊本第九銀行、支払停止し九州一円に金融恐慌。以後各地に波及。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 北清事変のため紡績事業不振、解雇の工女2万以上。 ▷ 娼妓の自由廃業流行し、中にはかえって身の振り方に困るものあり。
年 次	件 数	参加人員																				
明30	32	4千人																				
31	43	6																				
32	15	4																				
33	11	2																				
34	18	2																				
35	8	2																				

社 会 運 動	
<p>1・一 家屋税施行案市会で委員付託の動きに反対し、市内有志、調査委員長中村栄助・羽室亀太郎・中村常次郎らをまねいて、有隣小学校等で演説会を開き、家屋税反対意見書を送るを決定。趣旨は、本案では坪50銭以上の徴税となつて、家賃の高騰を来たすというもの。 日出 明35・11・28、29</p> <p>3・一 日本撚糸会社女工、新募集女工との待遇差別に反対、改善を要求してストライキ、数名は寄宿舎に籠ってサボタージュを行なう。巡査・警部の説諭でまもなく就業。 日出 3・15</p> <p>3・一 西陣織物同業組合および西陣組合改革取引改良期成同盟会との取引問題、組合運営問題に関する紛争、調停成立。委員選挙の平等化、取引上の弊害除去の方針確認される。 日出 3・1</p> <p>6・23 錦林在郷軍人会（上京27学区）発会式挙行。 日出 6・24</p> <p>7・一 紀伊郡柳原町尋常小学校校舎増築に関して、紛争再燃（明33・10ごろ町長決議により増築決定したが、町長退職後、移転問題がでて反対者により紛糾という）。 日出 7・2</p> <p>10・2 早朝、京都日々新聞配達人、七条新地六軒通りで、救娼軍（救世軍娼娼活動）と誤認され、3名の酔客に暴行をうける。 日出 10・3</p> <p>10・7 京都大学・第三高等学校・京都府教育会主催の風俗改良演説会、板垣退助らを招き岡崎博覧館において開催、聴衆4,000名。 日出 10・8</p>	<p>4・一 盲啞院慈善会、第1期の蓄積金10,144円50銭を同院基本金中へ交付（明37・6第2期の蓄積金4,980円94銭余交付）。 府誌上</p> <p>4・一 舞鶴新市街の有志、私立博愛病院設立を協議。5月加佐郡余内村余部に同院を設置。貧窮患者の施療も兼ね行なう。 日本医療保障発達史年表、府誌下、日出</p> <p>5・12 京都医事会社、京都医事会と改称。その事業として富小路二条下ルに京都衛生検査所を開設（京都市における検査所のはじめ）。 京都医事衛生誌 86ほか</p> <p>5・一 京都婦人慈善教会、はじめてバザーを開催、以後毎年実施。秋に本派本願寺において会員死亡者法会を兼ね、貧民施米を計画。 日出 5・27</p> <p>7・一 染物業木村勘兵衛、新町綾小路下ル自邸内に夜学会を設立（明35・3私立認可木村徒弟夜学会、明36・5木村私立学校と改称）。 府初等教育優良事蹟、日出</p> <p>8・6 府、私設の教育所（院）長の後見人としての職務を定める。 府令64号</p> <p>9・3 愛国婦人部京都支部発会（大正に入って恤兵・軍人遺家族救済のほか、児童健康相談所など開設）。⁽¹⁾ 日出、教学報告、府日露時局記事ほか</p> <p>9・23 本派本願寺法主の主唱により、下京区油小路七条上ルに大日本仏教愛善会財団設立。（仏教の本旨に基き慈善行為を振興し社会の福祉を推進するため）。⁽²⁾ 本願寺史 3、日出 10・1、府社会事業便覧ほか</p> <p>9・一 相楽郡東和東村園の青年有志、誠友会を結成。戦時に軍人家族の生業補助、恤兵に従事。 相楽郡誌</p> <p>11・3 加佐郡南有路村夜学会開設。 日出 明35・1・17</p> <p>12・一 与謝郡加悦町子守会設立。 日出 明35・12・25</p> <p>12・一 日吉病院、府衛生会の委託により看護婦養成を開始。 市政史上</p> <p>12・一 愛宕郡岩倉村の岩倉精神病院長に土屋栄吉就任、病院の改良発達に尽力。また院外における家族看護的施設（城守家、今井家、岡山家、西川家などの精神病者家族看護施設）に留意し、その改良を図る。 京都医事衛生誌 439</p>
社 会 福 祉	
<p>3・一 キリスト教婦人有志、京都婦人矯風会を設立（自他の道徳を進め教育風俗衛生その他一般の弊風を矯め、禁酒、禁煙運動を拡張、日露戦時に軍人遺家族を対象に授産）。府日露時局記事</p> <p>4・一 汚物清掃法施行により京都市内塵芥収集処理を市直営で開始（市内を6区に分け清掃監視吏員出張所を設置）。 市政史、市会史年表ほか</p>	<p>この年</p> <p>▷ 京都市、慈善事業を目的とする法人に戸別税を課さない特例を設置。 市政史上</p> <p>▷ 与謝郡吉津村子守教育開始（一時中止したが明37時局に際し再興）。 府初等教育優良事蹟第1編</p> <p>▷ 京都感化保護院の収容者61人。⁽³⁾ 日出 明35・3・12</p>

参 考	日 本																																																																																							
<p>(1) 設立について、府誌下には3・4、府日露時局記事には6月とあるが、日出新聞発会式挙行記事を採用。</p> <p>(2) 財団法人の許可を得、各種の社会事業を經營、各地方の慈善団体の補助など窮民救助にあたる。全国的な組織であるが、拠点はや京都であり、人事相談所・児童健康相談所などの施設を設置している。</p> <p>(3) その内訳は、</p> <table border="1" data-bbox="1605 556 2151 672"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>明33年度からの繰越</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>新収容者</td> <td>46</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>57</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>このうち正当退院者が男8、女4、無断退院が男33である。作業内容は、綿打、機織、竹細工、雑日雇などである。</p>		男	女	明33年度からの繰越	11	1	新収容者	46	3	計	57	4	<p>1・6 横浜蚕糸銀行破綻で関東一帯恐慌。</p> <p>1・26 政府、衆議院に北清事変費など補充のため増税諸法案提出。2・19衆議院可決、貴族院で問題化。3・16増税案可決。</p> <p>1・一 このころ、増税反対運動さかん。</p> <p>2・3 内田良平らの黒竜会発会。</p> <p>2・3 福沢諭吉没。</p> <p>2・24 奥村五百子ら愛国婦人会創立（兵士、家族救護活動実施。日露戦争より組織拡大、最大の官製婦人団体）。</p> <p>3・30 酒造税法・関稅定率法改正、麦酒税法・砂糖消費税法公布（戦後第3回の増税）。</p> <p>4・1 医学専門学校令公布。</p> <p>4・3 二六新報社主催の労働者懇親会、東京向島で開催。</p> <p>4・16 大阪第七十九銀行破綻、中部以西に金融恐慌。</p> <p>4・20 幸徳秋水、『二十世紀の怪物帝国主義』を刊行。</p> <p>4・24 山県有朋の東洋同盟論。</p> <p>5・18 片山潜・西川光二郎、『日本之労働運動』を刊行。</p> <p>5・20 片山潜・幸徳秋水ら社会民主党を結成、即日禁止。6・3改組し社会平民党の結社届出、再び即日禁止。</p> <p>5・29 警視庁、ベスト予防・風俗改善のため車夫・馬丁らのはだし厳禁。</p> <p>6・21 星亨、東京市役所で暗殺される。</p> <p>7・20 黒岩涙香、理想団を結成。</p> <p>7・一 会社解散、閉店多し。</p> <p>8・一 大阪の鉄工ら、関西労働組合期成会を結成。9月大日本職工教育会と合同し労働青年会を結成。</p> <p>9・18 時事新報、埼玉県の機業家関根イトの女工虐待に関する裁判を報道。以後女工虐待問題の批判がさかん。</p> <p>10・27 松本で労働者大懇親会および普通選挙政談演説大会開催。</p> <p>11・20 本郷中央会堂で木下尚江・田中正造ら足尾鉍毒地救助演説会開催。</p> <p>12・3 日本赤十字社条例公布。</p> <p>12・10 田中正造、議会開院式の帰途の天皇に足尾鉍毒事件を直訴。</p> <p>12・25 ペスト菌取扱取締規則制定。</p> <p>12・下 福岡県浮羽郡小作騒動。</p>																																																																											
	男	女																																																																																						
明33年度からの繰越	11	1																																																																																						
新収容者	46	3																																																																																						
計	57	4																																																																																						
<p>○ 備荒儲蓄金救助（京都）</p>																																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="3">総 数</th> </tr> <tr> <th>戸 数</th> <th>人 員</th> <th>金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>明13</td> <td>—</td> <td>1,789</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>117</td> <td>323</td> <td>1,718</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>115</td> <td>775</td> <td>2,453</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>101</td> <td>3,522</td> <td>5,861</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>225</td> <td>25,947</td> <td>16,397</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>318</td> <td>587</td> <td>1,746</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>516</td> <td>2,335</td> <td>3,084</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>410</td> <td>916</td> <td>3,236</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>444</td> <td>44,179</td> <td>26,090</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>4,411</td> <td>4,704</td> <td>11,863</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>1,048</td> <td>295</td> <td>4,273</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>814</td> <td>381</td> <td>1,691</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>523</td> <td>397</td> <td>3,339</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>826</td> <td>1,545</td> <td>1,534</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>9,184</td> <td>99,456</td> <td>91,674</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>270</td> <td>33,660</td> <td>16,462</td> </tr> <tr> <td>31</td> <td>(人員) 1,084</td> <td>(延人員) 9,365</td> <td>3,733</td> </tr> <tr> <td>32</td> <td>(") 303</td> <td>(") 1,786</td> <td>573</td> </tr> </tbody> </table>	年度	総 数			戸 数	人 員	金 額	明13	—	1,789	223	14	117	323	1,718	15	115	775	2,453	16	—	—	—	17	101	3,522	5,861	18	225	25,947	16,397	19	318	587	1,746	20	516	2,335	3,084	21	410	916	3,236	22	444	44,179	26,090	23	4,411	4,704	11,863	24	—	—	—	25	1,048	295	4,273	26	814	381	1,691	27	523	397	3,339	28	826	1,545	1,534	29	9,184	99,456	91,674	30	270	33,660	16,462	31	(人員) 1,084	(延人員) 9,365	3,733	32	(") 303	(") 1,786	573	
年度		総 数																																																																																						
	戸 数	人 員	金 額																																																																																					
明13	—	1,789	223																																																																																					
14	117	323	1,718																																																																																					
15	115	775	2,453																																																																																					
16	—	—	—																																																																																					
17	101	3,522	5,861																																																																																					
18	225	25,947	16,397																																																																																					
19	318	587	1,746																																																																																					
20	516	2,335	3,084																																																																																					
21	410	916	3,236																																																																																					
22	444	44,179	26,090																																																																																					
23	4,411	4,704	11,863																																																																																					
24	—	—	—																																																																																					
25	1,048	295	4,273																																																																																					
26	814	381	1,691																																																																																					
27	523	397	3,339																																																																																					
28	826	1,545	1,534																																																																																					
29	9,184	99,456	91,674																																																																																					
30	270	33,660	16,462																																																																																					
31	(人員) 1,084	(延人員) 9,365	3,733																																																																																					
32	(") 303	(") 1,786	573																																																																																					
<p>資料 日本統計年鑑</p>	<p>この年</p> <p>▷ ストライキ節流行。</p> <p>▷ 全国で癩患者30,393人を確認。</p> <p>▷ 第二次反動恐慌、銀行集中独占体の形成進行。</p>																																																																																							

社 会 運 動	
<p>2・4 カルタ製造人、カルタ税賦課の案では在庫品の膨大な課税となるので製造を中止し、問屋代表、商工会議所に陳情。さらに東上して国会に陳情す。また職工代表100余名も、同会議所に陳情、課税廃止もしくは延期を要求、(7・1税法施行)。 日出 2・8~7・7</p>	<p>11・29 第一中学校生徒ら、同校長土屋員安排斥の陳情書を府会議長に提出。趣旨は、不適任・学務不振など。 12・6 乾隆尋常小学校(寺ノ内千本)で通俗講演会開催。無料、講師大藤高彦。(工学士)・田中勝之丞(視学官)、テーマは都市清潔法の利益およびその方法一斑。 日出 12・6</p>
<p>2・9 伏見の有志、戊辰東軍戦死記念祭を執行。 日出 2・11</p> <p>2・一 同志社の一部学生、大塚素(幹事)が紀元節祝賀式を挙行しなかったことを追及、辞職勧告の願書などを西京社長に送る。 日出 2・16、3・16</p>	<p>12・10 大江素天、『日出新聞』に「遊廓移転論」投稿(16日以後再び投稿)。遊廓移転をすみやかに行うべしとする。(23日遊廓移転、不均一賦金賦課徴集建議案府会上提、否決さる)。 日出 12・10、16~18</p>
<p>3・13 8遊廓芸妓総代23名、芸妓税増税に反対し市会に陳情。 日出 3・14</p>	<p>12・17 明治座において、家屋税反対演説会。家屋税法案反対の宣言と決議を行う。中心は中村常治郎市議ら。 日出 12・20、21</p>
<p>3・15 染物同業組合徒弟職工講習会、発会式を同組合事務所で開催。 日出 3・16</p>	<p>12・一 相楽郡棚倉村で小作人ら地主に対し減納を要求して不穩。村長古川平七郎、小作人を参集せしめ、要求を諒し、減納に奔走。 日出 12・24</p>
<p>3・一 知恩寺信徒および田中村民、京都帝国大学と高等工業学校との道路代替工事に反対し住民の便宜を考うべしと市会に陳情。 日出 3・16</p>	<p>12・一 在洛裁判官・大学教授・府市会議員・商工会議所会員ら、公德会を設立、官公吏の不忠実、選挙場裡の醜陋、実業界の背信、学生の墮落等社会の頹廢を制裁し、公德の発達を奨励する方法を講究するのが目的という。 日出 12・30</p>
<p>3・一 天田郡在郷軍人会発会。 日出 3・24</p>	
<p>4・7 中郡峰山町有志、万来館に岡田泰蔵を招き、政談演説会を開催。 日出 4・12</p>	
<p>4・一 中郡で在郷軍人研究会を組織。目的は志操の保全、軍事教育の復習、士気の鼓舞など。 日出 5・2</p>	
<p>8・5 守屋源治郎(法学士)「工業発達は歴史に逆行する労働政策」なる文章を『日出新聞』に投稿(11日同人、また同紙工で「普通選挙と他の公法上の義務」を論ず)。 日出 8・5</p>	<p>1・17 府薬剤師会発会。 日出 1・18</p>
<p>8・一 このころ、衆議院議員選挙による選挙違反事件および公判多し。ほとんど酒食供応買収。 日出 8・8~17</p>	<p>1・一 青森第8師団第5連隊の雪中行軍中凍死事件に対し、紀伊郡柳原町、日赤篤志看護婦人会京都支会など府下の有志、義捐金募集に応ずる。 日出 2・2、日赤京都支部沿革誌ほか</p>
<p>9・2 佐藤陵星、『日出新聞』紙上で、「諸姉に告ぐ」として女子の立場、家庭に文明の進歩に伴う知識と平和の信念を導入すべきを論ず。 日出 9・2</p>	<p>4・5 雲来坊という人、『日出新聞』に「貧民窟探訪記事」を投稿(〜15日)。また10・15から9回にわたり「続貧民窟」を投稿。日出 4・5ほか</p>
<p>9・6 平安紡績会社女工、伏見工場入社後5日にして労働の辛苦にたえかね逃亡。⁽¹⁾ 日出 9・8</p>	<p>4・13 船岡精神病院焼失し患者17人(社事年表では16人)焼死。この事件に際し府警察部では、船岡・岩倉・南禅寺の各精神病院関係者を召集し、諸般設備上の注意を促す。 社会事業大年表、中外日報 4・17、日出 4・14ほか</p>
<p>9・28 吉田五郎・長尾時春・奥亀太郎ら、新京極受楽亭に会合し、社会改善策について協議、近畿社会改善会を組織し、会員募集を行なうを決定。社会改善のために社会問題を研究し、平和にこれが実行を図るを目的とす。 日出 9・30</p>	<p>4・25 府、恤救規則により救助を受け、または棄児養育料を受ける者の異動状況を明確にするべく各関係先に訓令。 訓令33号</p>
<p>9・一 工場法案、議会上提に先だち、京都商工会議所にて調査研究はじまる。 日出 9・28</p>	<p>4・一 東亜仏教会京都女子部、貧民女子のために慈恵女学校を開校(校舎は京華看護婦学校の一室を借用、学監橋川恵順・田島教恵)。 浄土教報 457</p>
<p>11・一 京都商工会議所、工場法案を審議す。京都地方労働運動史</p>	<p>6・2 府医師会設立。6・30府医会解散。11・24府医師会京都支会設立。 市医師会50年史、京都医事衛生誌 106</p>

社 会 福 祉

参 考	日 本
<p>(1) 富山県上新川郡の少女7人伏見工場に就職したものの、他郷の空に労働の辛苦に堪えかね懐中1円余、風呂敷包を背負い、はだしのまま抜けだし竹田街道を歩いているところを巡査に怪しまれたが、双方示談のうえ帰国させた。</p>	<p>1・23 第8師団第5連隊第2大隊、八甲田山<雪中行軍>で遭難、197人凍死(〜25日)。 1・30 日英同盟協約、ロンドンで調印。 1・一 シベリア鉄道(単線)完成。 2・12 中村弥六・花井貞蔵ら最初の普通選挙法案を衆議院に提出(2・25否決)。 2・一 日英同盟祝賀の催し3月にかけて各地でさかん。</p>
<p>(2) この投書に対し、素天生と称する人、「凡そ人間普通の情として老後の計を思うは其常なれば壮時の勤勞に酬ゆるに老後の樂みを以てす即ち其勤勞を奨励するの道なり」と賛同。 日出 8・12</p>	<p>3・15 警視庁、第2回日本労働者大懇親会開催を禁止。3・24再び開催届提出にあたり禁止を予告。労働者団体、労働者同盟会を結成し抗議。 3・17 鉅毒調査委員会官制公布。 3・一 検疫所は地方庁の所管となる。 4・5 衆議院議員選挙法中改正法律公布(市選出議員数増加)。 4・5 カルタ税法公布(7・1施行)。 4・6 宮崎民蔵ら土地復権同志会結成。 4・27 国民同盟会解散。</p>
<p>(3) 三条寺裏613戸、2,712人、牟の谷(白糸町と梅林町)87戸、304人、大仏前102戸、459人、一貫町745戸、3,095人、浄覚寺76戸、377人、柳原町353戸、1,590人、田中村214戸、1,251人、野口村136戸、579人、鞍馬口村78戸、776人、北小路120戸、600人、外に上長者町警察部管内に散在する貧民394戸、1,473人という。</p>	<p>6・14 義和団事件賠償金分配議定書調印(日本の受領額3,479万海關兩)。 6・19 神田での社会主義演説会に弾圧。 6・一 岡山市で県下部落の改善団体備作平民会創立。 7・1 綿紡、第4次操短(〜12・31)。 7・15 呉海軍造兵廠のスト(〜18日)。 7・19 砲兵工廠職工扶助令公布。 7・31 農商務省商工局「工場調査要領」。 8・14 東京小石川砲兵工廠スト(〜21日)。 8・22 新聞『慈善主義』に「社会事業の改善」を論ず。<社会事業>の語使用。 11・5 農商務省、工場法案を全国各商業会議所の諮問に付する。 11・14 全国農事会総会で地租増徴継続反対を決議。 12・2 国勢調査を10年ごとに施行の件公布(第1回は明38年と予定)。 12・4 政友会・憲政本党、地租増徴継続反対を決議。 12・16 衆議院委員会、地租増徴継続案を否決(停会5日間)。 12・17 教科書疑獄事件、検挙開始。</p>
<p>6・一 佐賀県唐津にコレラ病発生、各地に流行。府でも予防の告諭・汽車検疫開始・検疫委員の配置・予防血清の施行など対策を実施。また『日出新聞』では伝染病避病院聚染病院を視察し啓蒙に尽力。9・22京都市議事堂でコレラ(虎疫)予防協議会を開催、800余人参会。 告諭3、4号、告示273、298号、日出、府誌</p>	<p>この年 京華養育院、営業部を設け、小学児童用教科書の販売を開始。 府社会事業便覧 ▷ 京都近辺の貧民窟人口14,000人、戸数2,800戸という。⁽³⁾ 中外日報 4・8 ▷ 与謝郡官津町住吉に蓄積組合結成(隣保共助の精神に基づき、自力更生が主眼)。 社会時報 4:2</p>
<p>8・3 築山人という人、『日出新聞』に「民間恩給の必要」を投稿、その反響あり。⁽²⁾ 日出 8・3、12</p>	<p>10・一 日英同盟祝賀会決算報告会、その剰余金513円余を京都市の慈恵事業費へ寄附。 日出 10・14</p>
<p>11・3 大阪毎日新聞社京都支局、開局2周年を記念し慈善園遊会を開催、社会下層部の児童1,000人を招待。 中外日報 11・5</p>	<p>11・一 真宗本願寺派、門末に融和事業促進を示達。 社会事業大年表</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・5 乙訓郡羽束師村鴨川で小作争議、小作料引下げ要求、30名土地返還をはかる。青木年表</p> <p>1・15 西陣千本座で社会問題講演会。片山潜「社会主義の反対者に答ふ」、西川虎太郎「社会主義は真の教の教義なり」、矢野文雄、「社会主義の綱領」など。 日出 1・14</p> <p>1・30 京都綿ネル会社の男工全員 200 名、かねて幹部工師と紛糾あり、慰労金分配の際の不必要との暴言で激昂、休業して重役室前に屯集、スパナなど携えて、幹部解職をせまり、応ぜざればストライキを行なうとして不穩。のち幹部に暴行に及ぶ。会社側、工師を解職し、同時に主謀者 8 名を解雇、うち 3 名は起訴さる。 日出 2・9、4・1</p> <p>3・一 このころ川島甚兵衛外数名東上し、絹布税反対の陳情を各地で行う。絹布税・織物税反対運動各地でおこり、11月ごろまで続く(12月法案可決)。 京都地方労働運動史</p> <p>4・7 府、訓令(第10号)で徴兵失踪者に関する取扱手続を定め、厳密な探索を行うことを、郡役所・警察署・警察分署・町村役場に指示。 公報 4・7</p> <p>7・11 平安紡績会社不況で休業、解散準備、賃金不払の噂にたいし、支払いを要求して会社に大挙して押寄す。重役ら、立替るなどして支払う(女工1,200名中、他社紹介者残り400名が賃金の半分と食費を与えられていたもの。うち賃金を支払うべきもの110名)。 日出 7・13</p> <p>7・15 平安紡績会社男工ら、伏見分工場職工も含み、大挙して会社に押寄す、職工積立保信金および6・7月給料の支払いを要求して不穩、警官の説諭で代表11名を出して交渉。伏見分工場も不穩のため、什器を売却して支払う。 日出 7・17</p> <p>7・24 平安紡績会社女工20名、再び、支配人宅に賃銀支払をせまる。 日出 7・25</p> <p>8・14 京都府庁新築工事請負業者と石工との間で紛議。共和組員らストを企て、他の組(部)に勧誘したが応ぜざるため、天神社境内に屯集、同盟を拒否した石工川辺忠吉を襲撃せんとして警官に説諭さる。(15日再び頭分西村宇之助を襲撃、ピストルの空砲で退散という)。 日出 8・16</p> <p>9・15 府、新兵入営また満期兵帰郷の際の送迎につき、華美虚飾にならざるよう、郡役所・市役所・区町村役場に指示。 訓令35号</p> <p>9・18 府、在郷軍人下士卒、陸軍服務条例により所在報告を怠らぬように郡・区役所・各町村役場に指示。 訓令37号</p> <p>9・22 府、豊作の利福を豊年祭などの遊興に消費せず、貯蓄を奨励するよう、郡長・市参事会・町村長に指示。 訓令40号</p> <p>11・15 『平民新聞』発刊にあたり、「同情の言をよせられたる諸氏」一覧中に、「京都大道一」なる人物見える。 平民新聞 11・15</p> <p>11・一 京都東山尺義寿洞主人なるもの、『週刊平民新聞』紙上に寄信している、「道に二なし、而して兄等の取られし道は其一にして真の道なり。』 週刊平民 11・29</p> <p>11・一 『京都新聞』、『週刊平民新聞』発刊を奨励して「勤勉なれ熱心なれ、而して勇往邁進せよ、千古万古誠言あり豈爾を妨くるアルプスあらんや」と評す。 同上</p>	<p>2・29 京都市内円山平野家で全国医会連合大会を開催、帝国連合医会創立。市医師会50年史</p> <p>2・一 本派本願寺本山法主遷化にあたり京都市内貧民4,000人に施米。仏教慈善財団は、施米150俵に対する代金1,000円寄附。 中外日報 2・10、日出 2・1ほか</p> <p>3・26 本多澄雲ら大谷派本願寺監獄教諭師が感化同志会を設立。 中外日報 3・29</p> <p>4・1 監獄官制改正により京都監獄署は京都監獄に、宮津支署は京都監獄官津分監に改称。府県制度資料ほか</p> <p>4・10 葛野郡朱雀野村大字西ノ京小字広畑に府細菌検査所設置。 告示214号</p> <p>4・一 下京区第24組尚徳小学校、昼間学校に通学できない児童のため夜学校開設を計画。 日出 4・5</p> <p>5・11 第1回全国慈善大会に京都から京都感化保護院古川吉兵衛、同志社青年会理事関本喜代松、府庁大場景為が出席。</p> <p>5・27 京都救済院、收容人員増加のため上京区聖護院町に新築移転(同院育児部の教育は小学科・幼稚園科・裁縫科・音楽科の4科)。 中外日報 5・27、日出 5・25</p> <p>6・15 真言宗石堂慧猛・長谷宝秀ら16人、祖風宣揚会を發会(のち京都教王護国寺内に慈善病院「済世病院」を設立。)⁽¹⁾ 六大新報 315ほか</p> <p>6・30 専門学校令により府医学校は府立医学専門学校に昇格、療病院は同校の附属となる。 告示348号</p> <p>6・一 竹野郡網野尋常小学校に子守教育所仮幼稚園を附設。 網野町史</p> <p>8・一 火葬場を京都市営に決定、従来の竜安寺火葬場を明37・10蓮華谷に移し葛野郡衣笠村に経営を委任。 府令19号、市政史 上ほか</p> <p>9・一 福知山常照寺住職加藤文教ら、福知山仏教育院を設立。⁽²⁾ 日宗新報 949</p> <p>9・一 平安徳義会、孤児の増加により同会附属孤児院を京都市内二条通り東に移転。徳義394</p> <p>10・一 京都婦人慈善会、旧慈愛女学校を継承し貧家の子に無月謝で教授。明39・5慈愛手芸学校と改称。⁽³⁾ 明42・3下京区古門前通大和大路東入ルに移転。 市学区大観、日出ほか</p> <p>11・13 熊谷直孝に対し、府より賞賜、その子、直行、上京区南禅寺町禅林寺に記念碑建立。 府下民政資料解題及功勞者調</p> <p>12・10 京都監獄、不具廢疾、老衰などで一般処遇ができない囚人・懲役人及別房留置人の特別処遇規程を制定。 京都刑務所の沿革</p> <p>12・一 施薬院協会設立、安藤精軒経営の施薬院を同協会の経営に移す。明37・1・4府の許可を得て知恩院山内入信院に移ると同時に施療施薬を続行(大4・10聚楽廻松下町に移転)。⁽⁴⁾ 同院事業概要、日出ほか</p> <p>この年</p> <p>▷ 浄土宗京都徳育法話会、慈善部を結成し、老人・孤児・困窮病人の救済にあたる。 浄土教報 563</p> <p>▷ 府下の医師974人、産婆507人。 日出 6・30</p> <p>▷ 京都都駐輦の際、皇后陛下、京都市立盲啞院・京都感化保護院・平安徳義会・施薬院の各施設に250円ずつ事業補助。 府統計書大 1</p>

参 考	日 本
<p>(1) 会の事業計画として第1期事業は新聞発刊、育英養材、慈善事業、第2期事業は図書出版、学校・食堂設立、第3期事業は慈善病院設立など。</p> <p>(2) その目的は、軍人遺家族の孤児貧児およびその他一般「無告」の孤児を其父母に代って教養し、各々自活の途を立てさせるにあつた。2歳から13歳までの孤貧児を收容し3歳未満の者は里子に出す。</p> <p>(3) 京都婦人慈善会、明39・5手芸科を増設し、校名を慈愛手芸女学校と改称、軍人遺族ならびに一般生計困難な婦女に無月謝でミシン裁縫などを教授し成業の上は自活の途を与えるのを目的とした。 社会時報 9:9</p> <p>(4) この施薬院協会の設立については、安藤精軒が京都市長内貴甚三郎に働きかけ、大いに尽力したといわれる。安藤精軒は明21年以来自宅で貧困者の治療を行っていたが、貧困患者の増加により、自力では限界があつたので施薬院協会設立を計画し、その実現に奔走した。</p>	<p>3・6 東京盲啞学校に最初の教員練習科を設置。</p> <p>3・20 監獄官制公布(監獄に監獄医および薬剤師をおく)。</p> <p>3・26 伊沢修二、東京に楽石社を設立、啞者の発音指導にあたる。</p> <p>3・27 専門学校令公布。</p> <p>3・31 農商務省編、『職事情』刊。</p> <p>3・一 東北地方大饑饉。</p> <p>4・5 大阪に日本社会主義者大会開催(〜6日)。</p> <p>4・8 万朝報反戦論展開(非戦運動)。</p> <p>4・13 国定教科書令公布。</p> <p>5・14 長崎三菱造船所スト(〜19日)。</p> <p>5・20 政友会、政府と妥協。このころ政友会脱会者相つぐ。</p> <p>5・22 藤村操、華嚴の滝に投身自殺。以後これにならう者続出。</p> <p>5・25 政府、地租増徴案撤回。</p> <p>6・23 御前会議、日露交渉開始を決定。</p> <p>6・24 東京帝国大学7教授、対露強硬意見を『東京朝日新聞』に公表。</p> <p>7・4 片山潜ら、中国、四国地方遊説(〜9・5、10・20に北海道遊説)。</p> <p>7・26 頭山満・神鞭知常ら対外硬同志会結成(8・9対露同志会と改称)。</p> <p>7・一 日本基督教青年会同盟(YMCA)成立。</p> <p>10・8 社会主義者、神田青年館で非戦演説会開催、堺利彦・木下尚江ら演説。</p> <p>10・12 内村鑑三・幸徳秋水・堺利彦、開戦論に転じた万朝報を去る(11・15幸徳・堺ら平民社を結成し『週刊平民新聞』を創刊)。</p> <p>10・15 大阪桜島鉄工所鉄工500人協定運賃値上げに憤激し西成鉄道襲撃。</p> <p>10・26 東京秀英社印刷工50人スト、一時鎮静。11・上800人スト。</p> <p>10・30 貴衆両院議員、府・市会議員、実業家懇親会開催、開戦に一致。</p> <p>11・6 海軍工廠条例公布(横須賀・佐世保・舞鶴・呉海軍工廠設置)。</p> <p>11・22 大阪中之島公会堂で対露強硬策を主張する東西連合新聞記者大演説会を開催。</p> <p>12・10 河野広中議長、勅語奉答文で政府を弾劾。</p> <p>12・28 戦時大本営条例改正、軍事参議院条例・京釜鉄道速成に関する緊急勅令公布。</p> <p>12・29 片山潜渡米。</p> <p>12・29 日銀、軍備補充費を政府へ貸上。</p> <p>この年</p> <p>▷ トラホーム流行、以後増加。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・14 清水紫庵なる人、週刊『平民新聞』紙上に「仏陀と戦争」なる一文を寄信。 週刊平民 1・14</p>	<p>1・28 竹中庄右衛門ら、貧困不就学児のため三条大橋東に私立協同夜学校を設立。⁽³⁾ 府庁文書 大15、府教育会雑誌 206、府誌 下</p>
<p>1・17 池田某、週刊『平民新聞』に「予は如何にして社会主義者となりし乎」を寄す。 週刊平民 1・17</p>	<p>2・11 時局に際し府書記官西沢正太郎、京都市長内貴基三郎ら、京都市奉公義会結成。 府日露時局記事</p>
<p>1・31 大江素天、週刊『平民新聞』に「女子の職業」なる文明批評を掲載。週刊平民 1・31</p>	<p>2・18 府医師会京都支会、出征軍人遺家族療を決議、6月天田郡医師会も同様決議。 日出 6、市医師会50年史</p>
<p>3・13 小崎弘道・牧野虎次ら、キリスト教会発起の「日露戦争国民警醒大演説会」を市議事堂で開催。 日出 3・12</p>	<p>3・1 京都感化保護院、事業の拡張を図り所期の目的どおり保護生のほかに感化生も收容、(11月古綿再製場を設置、大2府立淇陽学校開設と共に同校へ移譲)。⁽⁴⁾更生保護会沿革要覧、日出 11・19</p>
<p>3・14 西陣織物同業組合役員7名、日露非常時新税として設定の絹布税に反対し、陳情を大森知事に行なう(19日全国絹布税反対同盟結成)。 日出 3・16</p>	<p>3・4 田口卯吉らの来援をえて片桐正雄ら京都国民後援会を結成(遺族扶助、恤兵などの充実に目的とし、奉公義会・尚武義会などの恤兵運動を後援)。 日出 3・5ほか</p>
<p>3・19 西陣上層機業家、絹布税意見調整のため大観楼に会合、「同税は西陣機業の改善を促す機会を与えたるもの」で、反対運動の必要なしと評価。 日出 3・16</p>	<p>3・25 府、肺結核に関する告諭を発す。 告諭2号</p>
<p>3・一 好川生なる人、週刊『平民新聞』で仏教史家村上専精の演説を批判。週刊平民 3・6</p>	<p>3・一 この月から日出新聞社、恤兵および遺族扶助金募集。先斗町芸妓の浄瑠璃、観世社献金能、一見連城奉公画会などそれぞれの催しの上り高を寄附。このほか有志これに応ずる。 日出 3~11月</p>
<p>3・一 戦時不況のため、芸娼妓、芸人らに厭戦的気分みえる。⁽¹⁾ 日出 3・2</p>	<p>3・一 紀伊郡柳原町奉公義会結成。このほか南桑田郡篠村出征軍人家族救済会・日蓮宗報国義会、伏見奉公会、4月京都奉公十字会・常葉婦人会、5月京都婦人報国会、7月久世郡小倉村出征軍人家族慰籍義団、12月愛宕郡花背村青年奉公組合など発足し既設の愛国婦人会・愛国同志会・大谷派婦人法話会・京都市奉公義会・軍人遺族救護会・尚武義会などの諸団体ともに遺家族救護や恤兵に従事。 日出ほか</p>
<p>6・5 丹後平民倶楽部(峰山)結成、第1回講演会を開催。今後毎月3回の研究会と月1回の講演会を催す予定という。 週刊平民 6・26</p>	<p>3・一 とくに西陣地方不景気。大宮通り博徒親分八ツ錨こと森田徳次郎は窮民へ白米7石施粥。女髪結・質商・魚商・煙草商・明治座・歌舞伎座・西陣座主・相国寺・中外日報社など西陣の窮状を見かねて施米するものが多い。⁽⁵⁾ 日出、中外日報</p>
<p>6・30 西村伊助、平民新聞・平民文庫行商の途次来洛。 週刊平民 7・10</p>	<p>3・一 黒門下立売下ル糸組製造西村理三郎、困窮の子女に授産を指導(のち大日本職工慈善会と改称)。 日出 3・28、4・3</p>
<p>7・一 紀伊郡横大路村民60名余、前年の水害交付金支出方に不満、郡役所に押寄せる。 日出 7・20</p>	<p>3・一 京の呉服商塚本与惣次、行旅病人救助のため府へ1,000円寄附。府では特別会計で扱う。 日出 3・5</p>
<p>7・一 このころ京都在住平民新聞読者(直接講読)25名、全国総計1,403名。 週刊平民 7・10</p>	<p>4・1 京都市、機構改革により庶務課・衛生課を新設、社会事業は庶務課で所管。市政史上</p>
<p>8・12 丹後平民倶楽部(峰山)第3回講演会、三原案山子・岩井天随ら。 週刊平民 8・28</p>	<p>4・1 市盲啞院、木工科の授業開始。 市盲啞院一覽</p>
<p>9・24 丹後平民倶楽部(峰山)第4回講演会、岩井天随・西木吉天子・西木素水ら。 週刊平民 10・9</p>	<p>4・23 府、家族救助令施行細則公布。6・24訓令56号で救助取扱規程を定める。 府治概要</p>
<p>10・一 同志社大学にて『平民新聞』売捌、大いに盛んと報、平民社にもたらされる。 週刊平民 10・16</p>	
<p>10・一 このころ、再び絹布税反対の協議、陳情など盛ん。 日出 10・26~11・8</p>	
<p>11・16 岩崎革也、週刊『平民新聞』54号に広告。京都市・丹波・丹後の平民新聞読者と社会主義者を歴訪。 週刊平民 11・20</p>	

参 考	日 本
<p>(1) 芸妓 どうも戦争は妾は生来から嫌いですよ 娼妓 広島か宇品で儲かるというも変なもの 俳優 日露戦争さへ演って居れば落ちなした 落語 どうも作者のない為我輩御困難の体 能師 さうです新作といへば全てでき申さぬ 僧侶 説教調の恤兵演説会今更聴く人もなし 蛇 金貸 借主の出征には督促も出来ず殆ど困る 三百 是計は満更訴えたら勝利ともいえずさ 役人 実は閑で遊で居て月給貰うも勿体ない 教師 修身書などは教えずとも是では大丈夫だ</p>	<p>1・5 消費組合直行団機関誌『直言』刊、社会改良主義を提唱。</p>
<p>(2) 世襲観 法律は弱者を殺す者なり。政治は悪魔の機関なり。道徳は強者を助くる偽善の看板なり。宗教は愚夫愚婦を惑わす狡猾の糊口典なり。貧者よ、労働者よ弱者よ起て、何時まで此醜辱を忍ぶべき、真の正義は最後の勝利者なり、何そ蹶起して彼等を殲滅に掃せざる…。平民新聞 12・25</p>	<p>1・5 軍事事項の新聞、雑誌掲載を禁止。 1・9 文部省、学生が徴兵猶予を利用する徴兵忌避に対し嚴重警告。 1・26 文部省、東京高等師範学校・東京女子高等師範学校の附属小学校において2部授業を実施研究させる(このころから就学者増加2部授業広く実施)。 2・4 肺結核予防に関する件公布。 2・10 ロシアに宣戦布告(日露戦争)。 2・13 社会主義婦人講演会、神田教会で開催。 2・29 俘虜情報局、陸軍恤兵部を陸軍省に設置。 2・一 内務省、府県に軍国の要に応ずるため勤儉貯蓄を通ちよう。 2・一 帝国軍人後援会結成。</p>
<p>(3) 明31設立の異、長光、教業3町連合の夜学会が発展して私立協同夜学校となったものである。のち明44・5京都市教育会、大14・7・1同盟一心会に経営がうつる。</p>	<p>3・12 高野房太郎歿。 3・13 『平民新聞』、「与露国社会党書」を掲載。 3・25 大日本労働同志会足尾支部創設。 3・一 愛国婦人会、日清戦役・北清事変戦没者遺族・廃兵の救護実施。</p>
<p>(4) 京都感化保護院は「不良少年にして父兄の訓戒を用いざるものを教導感化および出獄者にして頼るべき親戚ないものを保護して実業に就かせること」が目的であったが、当初は保護生のみを收容していた。大2府立淇陽学校開設と共に同校へ移譲のち専ら釈放者保護事業を実施。</p>	<p>4・1 非常特別税法・煙草専売法公布。 4・4 下士兵卒家族扶助令公布。 4・8 英仏協商調印。 4・19 日本絹糸業連合団体大会開催。 5・8 東京市民戦勝祝賀会大会、提灯行列で死者20人を出す。 5・30 戦場掃除及戦死者埋葬規則公布。 7・一 全国的に暴風水害。 8・7 『平民新聞』、トルストイの日露戦争論を掲載。 8・14 片山潜、第2インター・アムステルダム大会に出席(~20日)。 8・一 軍人遺族救護会、応召軍人の幼児教養方を各地孤児院に委託。</p>
<p>(5) 『中外日報』によれば、上京区役所調査の西陣地方の失職窮民は538戸、3,116人、このほかに窮状やおだやかなもの478戸、1,349人もいたという。また同新聞は「西陣救済余録」と題して、西陣の困窮状況を詳細にルポ連載している。 中外日報 3・27ほか</p>	<p>9・9 屯田兵条例及屯田兵移住給与規則廃止。 9・29 徴兵令改正公布(後備兵役10年に延長)。 9・一 第1回貯蓄債券発売。 9・一 与謝野晶子、「君死に給ふことなかれ」を『明星』に発表。 10・15 山口孤剣ら東京・下関間を社会主義伝道旅行(翌年1・25まで)。 11・13 『平民新聞』、1周年記念に「共産党宣言」記載(翌年1・29廃刊)。</p>
<p>(6) 救済会は、当初今出川浄福寺西入ル元御召会社工場、元誓願寺千本東入ル西陣織物会社工場を借りて出発、授産の内容は輸出羽二重、綿織、リボン、草鞋、スサ、製網など、同会の6月の調査によれば、5月の失業者121戸、653人が6月には38戸、163人に減少したという。1日500人から1,200人を收容した同会は、10月半ばまで事業を継続した。</p>	
<p>(7) 明38・1・21には下京区大和大路通四条下ル常光院内に第2救護所を開設している。そのほか京都市内には第6救護所まで開設。さらに伏見支部救護所・夏期臨時保育所(下京区新町通団栗上ル)を開設。戦争終了のため明39・3ごろには閉鎖。</p>	

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>11・一 川島甚兵衛ら東上、各方面に織物消費税撤回を陳情（12・17日露戦争による非常時特別税法改正案衆院可決、翌1・1公布）。 日出 11・6～18</p> <p>12・3～7 小田頼造・山口義三ら、『平民新聞』および社会主義出版物行商「伝道」を行ない入洛、同志社を訪れ、また児玉花外・高島素之らに在洛社会主義者と懇談。 週刊平民 12・11</p> <p>12・4 『京都朝報』論説「世態観」、新聞紙条例違反とされ、記者家入経晴・編集人榎田季吉・小原最ら告訴する（12日家入記者のみ起訴、19日判決、罰金50円、22日家入大阪控訴院に控訴。⁽²⁾ 週刊平民 12・25、日出 12・9、13、20、23</p>	<p>4・一 人見勘助ら、賃機工窮状救済のため西陣賃業者職工救済会を結成、困窮者の授産が目的で地区内11カ所に作業場を開設（～10月）。⁽⁶⁾ 西陣織物館記、日出</p> <p>4・一 西陣織物商ら、西陣補救会を結成（目的は西陣機業に関する事業補助と慈善救済）。 京都商工会議所史ほか</p> <p>4・一 西陣青年有志、同情会結成、同地方の貧民を救済。 日出 4</p> <p>4・一 京都メソジスト教会宣教師W・Uデビス主唱し市内在住外人が拠金、軍人遺家族救済に尽力。12月監督教会医師ストリート、遺家族の無料診療を府、日赤京都支部に申出る。 日出 4・27、12・22</p> <p>4・一 南桑田郡亀岡町会、出征軍人遺家族救済に5,000円支出を決議。 日出 4・24</p> <p>4・一 新柳馬場仁王門南医師三宅文椒、軍人遺家族困窮者のため無料で施療施薬。このころ医師や産婆の施療施薬が多い。 日出 4・13ほか</p> <p>4・一 京都市立日吉病院附属看護婦養成所設置（明34開設の府衛生会委託看護婦養成所を改組）。 市政史上</p> <p>6・6 禅宗僧侶梅垣謙道ら有志、上京区小川通中長者町角に未就学児童のための独立学会設立、10月日蓮宗中村寛澄ら本化幼年学園を開設（明40慈悲教育院と改称）。また浄土宗京都尼衆校友会、軍人遺族子弟らのため和敬夜学会を開設。12月与謝郡栗田村の栗田夜学会結成。 禅宗 111、日宗新報 969、浄土教報 683</p> <p>6・一 伏見商業会議所、町内失業者の授産のため伏見労働者救済会結成。 日出 6・30</p> <p>8・12 京都市参事会、出征軍人遺家族の戸別税免除を決議。 日出 8・13</p> <p>8・26 府、軍人家族救護に現金救護より授産を試みるよう訓令。 訓令63号</p> <p>8・一 府農会、戦時農村における失業者の救済に耕地整理排水事業を唱導。 府農会報 145</p> <p>8・一 三井家、出征軍人遺家族困窮者を京都市内の2工場に雇用する旨府に申出る。府、この旨を各郡市長へ連絡。 日出 8・9、21</p> <p>9・一 下京区岩上通三条下ルに出征軍人家族遺族共済商行設立（創立者上村篤三郎、出資者富田信造）。 府治概要</p> <p>10・10 人円会、救済部を設け軍人家族のため上京区浄福寺内に幼児保育第1救護所開設（以後救護の枠を広げ、市内各地に救護所設置）。⁽⁷⁾ 府日露時局記事、日出</p> <p>10・一 日高種子ら、授産を目的に舞鶴海軍下士卒家族共励会設立（大11・9舞鶴海軍下士官家族共励会と改称）。 府社会事業便覧ほか</p> <p>10・一 京都市会、ドイツのカール・フォン・ホーヘンツォルレン殿下からの寄附金300円を慈善基金へいれることを可決。⁽⁸⁾ 日出 10・25</p>

参 考	日 本
<p>(8) 京都市第62号議案「今般ドイツ国、カール・フォン・ホーヘンツォルレン殿下より慈善費として金三百円下賜せられたるにより本市慈善基金へ編入するものとす」水野世民氏の「下賜」の文字は我皇室より臣民に下賜されし場合に用ゆべき特別の文字なり、外国皇族なればご贈与とせば可なりとの注意ありしのみにて異議なく読会を省略して原案を可決確定せり。 日出 10・25</p> <p>この年 ▷ 出征応召者の子弟で貧困なものに授業料免除・学用品給与などの措置をとる。 府教育会雑誌 158、府日露時局記事</p> <p>▷ 府下の看護婦の数424人。</p> <p>▷ 蓮華谷火葬場はじめて京都市が設置（経営は衣笠学区に委託、大15年度より市直営にきりかえる）。 市政概要、市学区大観</p> <p>▷ 各郡においては、軍人家族の貧困者のうち小作者に対し、夏秋2期の収穫、5月植付季節など労力扶助を実施。 府治概要</p>	<p>11・15 石油カルテル成立。</p> <p>11・16 社会主義協会、治安警察法により結社禁止。</p> <p>12・一 兵庫県にペスト発生。</p> <p>この年 ▷ 平民社を中心とする社会主義者の集会124回、『平民新聞』発行部数延20万部。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・27 京都市社会主義談話会第1回会合開かれる。大石真子宅、参会者6人。いずれも『直言』読者(京都での社会主義者、読者の談話組織のはじめか)。直言 3・12、明治社会主義史料集 1</p> <p>2・5 京都市社会主義談話会、第2回会合、家入翠雨宅、参会者11名。なかに高島素之・家入経晴らあり。同上</p> <p>2・一 京の質商某、『直言』に寄信し、質商の業は重大な罪悪を犯すようで苦痛であるが、さりとして社会主義をすすめることもできぬし、家業をもすて難い、どうすべきかとの質問をする。直言 2・19、明治社会主義史料集 1</p> <p>3・26 直言京都読書会を無声会と改称、小畑宅にて例会開く。主題は社会主義と心靈問題。直言 4・2、明治社会主義史料集 1</p> <p>3・一 京都出身某、砲兵隊で社会主義宣伝中という。直言 3・4、明治社会主義史料集 1</p> <p>4・9 京都無声会、嵐山にて観桜会開催。直言 4・2、明治社会主義史料集 1</p> <p>4・一 杉木某、『直言』に寄稿し、「国民救援会」の愛国演舌を批判する。同上</p> <p>5・12 葵同志社結成、結集者6名、決議事項①目的は社会主義の研究・伝道、②毎火曜日定期会、③本部相楽郡加茂村字里、山中敬太郎方。5・26に解散。直言 6・4、25、明治社会主義史料集 1</p> <p>5・30 白柳秀湖、同志社出身の社会主義者松岡荒村の死を弔う一文を遺稿集のために著す。のち『直言』に転載される。直言 7・9、明治社会主義史料集 1</p> <p>6・一 相楽郡加茂村山中敬太郎、『直言』に寄信し、去る4・29社会主義図書貸出広告を出して以来、5月中旬までの政府官憲の迫害の実情をのべる。直言 6・11、明治社会主義史料集 1</p> <p>7・25 紀伊・久世・乙訓・宇治郡の村民約3千余名は宇治川水力電気事業・京都疏水拡張事件につき知事に面会を求めて北野・平野両神社に集まり、4・500名は府庁に押しよす。日出 7・26</p> <p>8・一 同志社大学生高島素之、『直言』に「基督教的生命」なる一文を寄信し、海老名弾正らを弁護する。直言 9・3、明治社会主義史料集 1</p> <p>9・6 日露戦争講和反対の京都市民大会、岡崎で開く。参会者1万2千人。この日、南座で非講和大演説会を開く。⁽¹⁾ そのほか、宮津・園部・福知山・伏見でも6〜9日にかけて町民大会開催。日出 9・7、10、11</p> <p>9・10 『京都朝報』発行停止処分を受く。日出 9・10</p> <p>10・27 工場病傷者死者届出規則を制定。府令41号、日出 10・28</p> <p>11・一 紀伊郡深草村で国民大隊凱旋に際して民宿。その折の村民らの費用分配剰余金を村会議員・役場員とが横領、それをめぐり村民と対立、村長以下を辞職さす。日出 11・5、23</p> <p>この年 ▷ 田中村親友夜学会創立。日出 大3・4、3</p>	<p>2・一 苗加房三郎、下京区堺町四条上ルに京都歯科医学校開設(〜大8)。府歯科医師会60年の歩み</p> <p>2・一 京都婦人矯風会、軍人家族の貧困者の授産が目的で、陸軍被服廠大阪支廠の軍人被服縫製を請負う。5月愛国婦人会京都支部、経木真田製作伝習所開設。6月京都婦人会報国会、妙満寺山内において経木真田製造所開設。9月相楽郡軍人家族救護会も生業扶助事業としてタオル製織を開始。府日露時局記事、日出、中外日報</p> <p>2・一 財団法人大日本仏教慈善会、東中筋通魚棚下ルに軍人遺孤養育院を設立(3・31府は軍人遺孤養育院規則を制定)。日出、中外日報、府誌 下、通牒内六己1590号ほか</p> <p>4・18 実業家丹治直治郎、出征軍人遺族救護のため下京区熱屋町松原下ルに平安養育院を創設(5・18棄児柿本くにを下京区役所の紹介ではじめて収容。明39・10・7岡崎円照寺町に院舎を新築し移転。⁽²⁾ 平安養育院文書、知恩院史ほか</p> <p>4・20 府、第2部中に兵事課設置。訓令24号</p> <p>4・一 舞鶴海軍工廠内に同工廠職工共済の目的で共済会設立(明43・10法人組織に改め職工の代筆・相談・共同購買など実施)。府社会事業便覧ほか</p> <p>5・一 浄土宗上田称隆尼、京都有愛看護婦会を結成。「仏教主義により博愛慈善を旨とする」。浄土教報 683</p> <p>6・18 児童養育の研究に平安育児会設立(事務所は平安養育院内)。京都医事衛生誌 136</p> <p>10・一 紀伊郡柳原尋常小学校、不就学児童対策に子守教育、夜学の2部を設置。同町では戦勝を記念に貧児教育のための講を設置。日出 10・23</p> <p>10・一 脇田良吉、精神薄弱児救済のため春風俱樂部を結成、精薄児10数名を集めて研究。白川学園発行つくも 5</p> <p>11・一 京都市の委託を受け、京都感化保護院、行旅病者収容所を設置し患者を収容。⁽³⁾ 更生保護会沿革要覧ほか</p> <p>11・一 京華養育院の丹羽憲顕、事業の拡張を図るため全国画家の千幅会を計画、京都の鈴木松年・山本春挙・竹内栖鳳らをはじめ全国の画家これに協力し成果あがる。中外日報 11・22ほか</p> <p>12・4 京都市立盲啞院長鳥居嘉三郎、盲啞分離の上申書を西郷市長に提出。⁽⁴⁾ 日出 12・6</p> <p>この年 ▷ 前年に引続き、京都奉公義会・帝国軍人後援会・愛国婦人会・京都婦人報国会などの各団体および個人有志の血兵や軍人遺家族の救護がさかん。同志社のケリー・ラーネット夫人らも活躍。中外日報 1・27、日出 4・20ほか</p>

参 考	日 本
<p>(1) 宣言・決議文は次のとおり。 宣 言 宣戦の詔勅は柄として日星の如し国民之を奉体して生命を棄て資産を擲ち一意奉公以て将来の保障を求め永遠の平和を復せんとす然るに何そ計らん当路者措を失し策を誤り戦捷の効果を没却し将来の禍根を遺し更に重ねるに国家の屈辱を以てせんとすを聞く国民の痛憤何そ之に加へん今や屈約批准交換の期迫り間髪を容れず此時に当り国民翕然として起り之が破棄を企てずば悔ゆるとも及ぶ無し嗟呼国家の興廢繫て今日に在り吾京都市民天に訴へ地に哭し茲に当路の責任を問ひ屈約の断じて忍ぶべからざる事を宣言す 決 議 一 屈約を破棄し以て国家の体面を維持せんことを切望す 閉会後、「噫」と書かれた小旗1万本を来会者に分与しようとしたところから警戒中の巡査と衝突し、投石・蝠蝠傘での殴打等乱闘起る。日出 9・7</p> <p>(2) 法人認可明39・11・9、丹治直治郎は京都の熊谷万助の一男、江州浅井郡永原町の丹治家へ養子に行ったが慈善事業は父の遺言によった。平安養育院開設当初の定款第1条には、「本院ハ道義仁愛ヲ喚起シ社会ノ安寧幸福ヲ図ランカ為ニ鰥寡孤獨ヲ救済養育スルヲ以テ目的トス」とある。また、同院は相楽郡木津町に支部をおき、哺乳児は近くの農家に里子へ出した。岩倉の里子制度は歴史が古いが、当時は身分が高い家のこどもを扱っていたので平安徳義会とともに、洛南地方の開拓を行ない、かなり成功し昭15、6年まで続いたという。中外日報 3・13、漆葉見龍、秦隆真談</p> <p>(3) 従来行旅病者は各警察署より区役所へ渡し、区役所は大仏前の木賃宿に委託し療養させていたが、4畳半に4〜5人収容し、その扱いぶりは不親切であった。日出 9・28</p> <p>(4) 前文に「盲と啞とは元来同じき生活を有する一体のものに無之、一は視覚の世界に居り、一は聴覚の世界に在るが如き状態のものにして、全然其性情を異にする事は申迄も無之、従て之を教育する方法手段亦全然相異なるべきは理の当然に有之候…」 ○ この年9月ころ、市内各工業会社、昨年中業務の縮少方針をとり、男女職工を解雇したが、日本海海戦以来の好況により、男女職工の不足を来すという。日出 9・11</p>	<p>1・1 非常特別税法改正、相続税法・塩専売法公布。旅順のロシア軍降伏。</p> <p>1・22 ペテルブルグで血の日曜日事件(第1次ロシア革命)。</p> <p>2・23 夕張炭坑の坑夫500人、賃上げスト。</p> <p>3・1 大日本産業組合中央会設立。</p> <p>3・8 医師免許規則改正、7・1医学専門学校指定規則公布。</p> <p>3・29 陸軍脚気増加に対処し、米麦7対3の混食奨励を訓令。5月臨時脚気調査会官制公布。</p> <p>4・1 刑の執行猶予に関する法律公布。</p> <p>4・3 日本花柳病予防協会設立。</p> <p>4・3 上野の労働者懇親会解散され、青年会館で社会主義者大演説会举行。</p> <p>5・1 平民社でメーデー茶話会(日本最初のメーデー集会)。</p> <p>5・8 鉱業法公布。</p> <p>6・9 米大統領ルーズベルト、日露講和を勧告、日本・ロシア受諾。</p> <p>7・11 兵庫県塩田人夫2,000人スト(〜16日)。</p> <p>7・17 木下尚江、関西社会主義遊説の予定を、胃腸病突発のため中止する。</p> <p>7・19 対露同志会など講和問題同志連合会を組織(各地で講和条件要求の集会開催)。</p> <p>8・10 日露講和会議、ポーツマスで開催。</p> <p>8・25 山路愛山ら、国家社会党を結成。</p> <p>9・5 日露講和条約調印。</p> <p>9・5 日比谷の講和反対国民大会、御用新聞・交番などの焼打に発展(以後各地で講和反対大会開催。9〜10月講和反対の新聞多数に発行停止)。</p> <p>9・6 東京市ならびに附近5郡に戒厳令(〜11・29)。</p> <p>9・6 政府治安妨害の新聞・雑誌の発行停止権を内務大臣に与える。</p> <p>10・9 平民社解散。</p> <p>11・10 安部磯雄らのキリスト教社会主義者『新紀元』創刊。</p> <p>11・14 幸徳秋水、米国へ出発。</p> <p>11・20 西川光二郎ら、『光』を創刊。</p> <p>12・1 普通選挙連合会結成。</p> <p>12・21 桂内閣総辞職。</p> <p>12・23 大同俱樂部発会式。</p> <p>この年 ▷ 東北地方大凶作。</p>

社会運動	社会福祉
<p>1・一 竹野郡徳光村ほか3カ村民217名、地租免除請願書を衆議院に提出。 日出 1・27</p> <p>2・2 西陣織物組合の代表、織物税反対の決議をもって東上。 京都地方労働運動史</p> <p>2・一 無我苑解散、雑誌『無我の愛』廃刊。 日出 1・30</p> <p>2・一 綴喜郡大住村民、関西鉄道の長尾駅・新田停車場間連絡線踏切布設工事を、排水上多大の損害を被るとして反対運動を起す。知事へ位置変更の請願を提出。都々城村でも反対運動を開始。 日出 2・21、28</p> <p>2・一 西陣・八王子・米沢・桐生・伊勢崎・足利の各織物業組合、非常特別税中消費税に関し貴衆両院議員に陳情書を提出。 日出 2・14</p> <p>3・23 京都第2疏水開さく工事につき、淀川沿岸の三島・豊能・中河内・北河内郡の人民150余名、府へ押し寄せ反対の陳情(30日、淀川沿岸6郡の代表者知事を訪問。疏水工事認可取消を要求。内務省はこれにせず)。 日出 3・23、30</p> <p>5・2～ 西陣織物組合、職工徒弟調査を開始。 日出 5・4、15、17</p> <p>6・5 巨椋池沿岸町村民300名、大池周囲の荒蕪地貸下げおよび水面使用に反対してさわぐ。府、奥繁三郎出願をとりけす。 日出 6・7、8、19</p> <p>7・23 京都在郷軍人会の発起会を開催。市内38カ組の在郷下士卒代表者80～90人参会(8・2、発起人会を開催)。 日出 7・25、8・4</p> <p>7・一 京都府、職工の訓育・保護施設を調査。 京都地方労働運動史</p> <p>8・9 京都電鉄の過失殺傷事件おこる。関係車掌に対する過酷な処分に反対し、運転手・車掌ら不穩。⁽¹⁾ 日出 9・12</p> <p>9・一 西陣中野新治郎ら中心となり、毛織物業者連合団体、織物消費税廃税運動に参加。陳情書を大蔵・農商務の両大臣へ提出。 日出 9・8</p> <p>9・一 徴兵忌避者検挙、伏見では憲兵分隊の取調べをうけ、送検された者あり。 日出 9・14</p> <p>10・6 日本社会党座間止水、全国遊説のため入京、京都朝報記者家入・一木・菅野幽月らを訪れる(～31日まで滞在)。 京都地方労働運動史</p> <p>10・7 座間止水、演説会場を求めて、家入・一木らと奔走、成らず。 光 10・25</p> <p>10・8 座間、家入宅にて談話会開催。家入・一木・長谷川、法科大学生福本・村尾ら。 光 11・5</p> <p>10・9 座間、三条聖書房を訪れ、社会主義書籍講読者などを調査。長井淑らを訪問。 同上</p> <p>10・9 受楽亭にて社会主義演説会、200余名参加。多くは学生。荒畑寒村来京にて、弁士荒畑・家入・座間の3名(10日荒畑帰京)。 同上</p> <p>10・13 遠藤ら、演説会場周旋のため、各教会を歴訪したが、すべて断られる。 同上</p> <p>10・20 座間、須知町岩崎革也を訪問。 同上</p>	<p>10・22 座間、須知役場内公会場で社会主義について講演会開催。 同上</p> <p>10・24 同志社学生遠藤・高島・中館ら、座間を訪問、研究会の再興を協議。 光11・5</p> <p>10・27 座間、岡村司法博を訪問、社会主義に法理学的根拠を求め点を討議。 同上</p> <p>10・28 京都社会主義研究会一木宅で開催。京都で社会主義日刊新聞の発行、または日刊平民新聞京都支部設立などについて討議。 同上</p> <p>10・28 永井亀次郎出資、家入徑晴主宰の日刊社会主義新聞『京都日報』発刊。 光 12・15</p> <p>11・1～8 宮崎民蔵・相良寅雄、伊賀伊勢紀伊の社会主義巡歴のため、京都滞在。 革命評論 明40・2・25付録、明治社会主義史料集 8</p> <p>11・15 坂本竜馬40年祭、洛東靈山招魂碑側で挙行。主催は在洛の土佐人士たち。 日出 11・16</p> <p>12・3 織物税廃止期成同盟会員ら、政友会・憲政本党・大同クラブを歴訪し同税廃止の理由および事情を陳述。 日出 12・5</p>
	<p>1・19 府、学齡児童皆就学奨励に関し各郡市区町村、小学校長あてに訓令。⁽²⁾ 訓令2号、日出 1・19ほか</p> <p>2・一 東北3県凶作救済のため、有志が東北凶作救済会を結成。また大日本仏教慈善会財団・京都救済院・平安徳義会孤児院など孤児貧児の収容に協力。『日出新聞』は社告で休学児童の教科書寄贈を募集。京都婦人慈善教会は白米を募集。 社会事業大年表、日出、中外日報</p> <p>3・一 下京区大和路島田柳太郎、自宅に実用夜学校を設立し貧児教育に尽力、漸次六波羅・白川橋・塔の段・船岡山・仁和寺街道・粟染・一貫町・東寺附近に分校設置を計画、府に願出る。 日出 3・21</p> <p>4・25 市盲啞院、寄宿舎における男女同時収容をやめ、女生徒は上京区油小路西入ルへ移転。 府庁文書 明39・31</p> <p>4・28 佐伯理一郎、同志社病院閉鎖に伴い、同院内の京都看護婦学校をも継承し、京都産院を経営。 京都医事衛生誌 146</p> <p>5・3 伏見婦人慈善会、人円会伏見支部を合併し、伏見慈善会を設立(人円会伏見支部の事業を引継ぎ、伏見京町で貧困児童保育を行なう)。感化救済小鑑、府庁文書 大15、府公同委員制度ほか</p> <p>5・一 帝国軍人後援会京都支会設立、軍人遺家族廃兵救護にあたる。また人円会解散に伴い、浄福寺通一条上ルに軍人幼児保育所を開設。 府誌 下ほか</p> <p>5・一 浄土宗上田称隆尼の発起により、知恩院山内入信院に私立華頂看護婦学校を設立。⁽³⁾ 知恩院史、浄土教報 692</p> <p>8・一 舞鶴海軍工廠勤務の職工ら協議し、疾病の際の相互救済の目的で共済会病院を設立(事業開始明40・2)。府社会事業便覧、社会事業大年表</p>

参考	日 本
<p>(1) 京都電鉄の北行中の電車が藍染川(紀伊郡東九条)に顛覆し重軽傷者8人を出した事件。 被告人の車掌は地裁より罰金百円に処せられたが、会社側は右車掌の身元保証金・積立金等を没収して損害全部を負担させ、さらに同事件に関係したもう1人の車掌にも同様の処置に出た。そこで車掌・運転手は激昂し、事件の原因はレールの磨損と車輪の古さにあり、それを車掌らの責任に帰すのは不当であるとして不穩な動きを示しつつあった。 日出 8・11、9・12</p> <p>(2) 「特別教育として貧困なる部落の児童には正教科の傍、適當の職業を授け多少の賃金を得せしむる方法をとること、盲啞等の不具者も成るべく学校に収容し正教科時間以外に適宜の教育を施すこと」。不就学者は府下を通じ男1,457人、女3,051人、計4,508人。</p> <p>(3) 知恩院史、京都医事衛生誌第145号には4月設立とある。まもなく廢校になったらしい。</p> <p>(4) 大阪の刷毛会社の毛植を児童にさせ、その賃金を与え、就学を奨励させた。現在児童数129人中不就学47人(明37年80人、明38年78人)。</p> <p>(5) 建議の内容は、①現在の監獄は二条離宮に接近し市民たる者日夜之を憂惧すること、②近来産業の發達と共に人家大に稠密し獄舎の附近概ね繁榮の要地と化し市の繁榮上最も有望の地なるに於て獄舎をおくのは不当であること、③獄舎の附近国民教育を司る校舎あり之を養成する児童の感化薰陶に障害あることなどであった。</p> <p>(6) その建議の内容は、今後海外渡航を出願する婦人らに対しては綿密な調査をし、醜業を目的とする嫌疑ある者に対しては渡航を禁止すべきであるというもの。</p>	<p>1・14 樋口伝・西川光二郎ら、日本平民党を結成。1・28堺利彦・深尾韶ら、日本社会党を結成。</p> <p>1・一 救世軍、無料宿泊所・職業紹介所開設。</p> <p>2・4 石川島造船所職工750人スト(～8日)。</p> <p>2・24 日本平民党・日本社会党合同し日本社会党第1回大会開催。</p> <p>3・2 非常特別税法改正(期限を廢止し永久税となる)。</p> <p>3・2 東京3電鉄会社運賃値上請願(3・23却下)。</p> <p>3・10 宮崎民蔵『土地均享人類の大権』刊行。</p> <p>3・11 東京市電値上げ反対市民大会開催。</p> <p>3・15反対デモ1,600人余(8・1値上げ認可され9・5再び反対運動激化)。</p> <p>3・15 堺利彦、『社会主義研究』を創刊。</p> <p>3・28 高島炭坑貝瀬坑ガス爆発(死者300人余)。</p> <p>3・31 鉄道国有法公布(10・1施行)。</p> <p>4・7 廢兵院法公布(8・6廢兵院条例公布)。</p> <p>4・一 報徳社設立し機関誌『斯民』創刊(のち中央報徳会と改称)。</p> <p>5・1 阪神電鉄乗務員120人スト。</p> <p>5・2 医師法、齒科医師法公布(10・1施行、11・17医師会規則公布)。</p> <p>5・9 北一輝、『国体論及び純正社会主義』刊行(6月發禁)。</p> <p>6・4 横浜市の左官職209人スト。</p> <p>8・18 呉海軍工廠の造兵部職工300人余スト暴動化。8・16東京小石川砲兵工廠スト。</p> <p>8・一 南助松ら北海道夕張炭坑で大日本労働運動至誠会再建。</p> <p>9・10 満鉄、株式募集を開始。この後全般的な投機熱たかまる。</p> <p>9・25 旅順鎮守府条例公布。</p> <p>12・3 陸軍伝染病予防規則制定。</p> <p>12・5 永岡鶴蔵ら、大日本労働至誠会足尾支部を結成。</p> <p>12・11 大阪砲兵工廠スト(12・14憲兵ら出動)。</p> <p>12・下 救世軍、年末から東京府下貧民に慰問籠を贈る(明41から慈善鍋を開始)。</p> <p>この年</p> <p>▷ 北海道移住農民激増。</p>
<p>9・12 全国農事会幹事長加納久宣・東京家庭学校留岡幸助ら、宮津町議事堂などで産業組合設立を勧奨。 府農会報 179</p> <p>9・一 綴喜郡八幡町東林地区で不就学児対策に刷毛会社の毛植を教科に採用。⁽⁴⁾ 日出 12・26</p> <p>10・6 京都市会、監獄移転に関しその善処方を市参事会に建議。明42・2再建議。⁽⁵⁾ 市会史、日出 9・30</p> <p>12・15 宇治郡醍醐村字日野の有志、日野実業補習学校を開設(明30以来の夜学会を拡充)。 日出 12・18</p> <p>12・一 京都矯風会会員、知事および内・外務大臣あて醜業婦渡航に関する請願書を提出。⁽⁶⁾ 日出 12・19</p> <p>この年</p> <p>▷ 内務省調査の全国廢兵数31,088人、うち京都は434人、陸軍省廢兵院の入院資格者は京都で3人。 日出 4・23、9・17</p>	

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・28 京都電鉄の車掌運転手ら、労働時間の短縮と賃上げ等を要求して集合する。結果、月末の賞与増額となる。 京都地方労働運動史</p> <p>1・一 『京都日報』紙、福田英子主宰『世界婦人』発刊を推奨。 世界婦人 3</p> <p>2・12 京都郵便本局集配人(外勤)200余名中53名、日給加増等を要求してストライキ。通信属の説得を拒否、本局と団体交渉しようとしたが、当日夕5時、上長者町署により検束、8名拘禁される。(同45名説諭復職、14日資廷美之、主謀者のうたがいで送検される。同日、正常に復し集配人一同就業する)。(1) 日出 2・13、14、日刊平民 2・17</p> <p>2・18 資廷美之治安警察法違反事件(集配人スト)第一回公判開廷。 日刊平民 2・20</p> <p>3・24 『平民新聞』京都読者会、新京極受楽亭にて開催、発起人、一木・家入兩人。 日刊平民 3・21</p> <p>3・一 京都縦横社同人、日刊平民新聞紙上に<小学教員放逐>等、学校内批判の一文を寄稿。 日刊平民 3・16</p> <p>3・一 舞鶴海軍工廠職工(新舞鶴町居住者)、町税軽減を要求し役場と交渉、課税区分の細分(32等→35等)、労働日削減(25日→22日)をかちとる。 日出 3・19</p> <p>4・10 紀伊郡深草村の小作人ら60名、師団新設用地買収に関し、自己耕作分坪当り20銭の交付を要求、郡役所に囂集(7・26再び屯集)。 日出 4・12、青木年表</p> <p>4・14 『平民新聞』京都読者観桜会、嵐山保津川畔、赤旗を目標にして集合。 日刊平民 4・10</p> <p>5・20 紀伊郡下鳥羽村小作人60名余小作料引下げを要求して地主に迫る。巡查により一旦解散(22日再度要求、6・10、郡長・警察署長ら出張して解決)。 京都地方労働運動史、日出 5・22</p> <p>5・25 赤羽巖穴、静養かたがた京都日報記者として来京。 週刊社会 6・2、大阪平民 6・15</p> <p>6・3 社会主義茶話会、一木自適宅、来会16名、赤羽巖穴京都日報入社歓迎をかねる。森近運平ら参加。 週刊社会 6・30、大阪平民 6・15</p> <p>6・16 赤羽巖穴、京都より西川光次郎(社会新聞)あて寄信、京都市民の状況など報告(22日同じく風俗批判、遊里状況など報告)。(2) 週刊社会 6・30</p> <p>7・14 船井郡川辺村船岡鉦山坑夫30名余賃金値上げを要求しストライキ(17日鉦山主、要求をみとめて落着)。 週刊社会 7・28</p> <p>7・14 縦横社同人(社会問題研究会)同志茶話会開催、来会者9名。 大阪平民 8・1</p> <p>7・18 園部山戸屋鉦山坑夫30名余賃上げを要求してストライキ。また同日宮津の下駄職工も、同じ要求でストライキ。 京都地方労働運動史</p>	<p>1・一 岩井勝次郎、南桑田郡旭村文畑に貧民救済のため蔭山家慈善財団を設立。(3) 府社会事業便覧ほか</p> <p>2・26 留岡幸助入洛、感化教育事業に関する講演を行なう。 日出 2・28</p> <p>2・一 平安養育院、託児所を設置。(4) また4月からは看護婦養成所を新設。 漆葉見竜氏談、府教育雑誌 177</p> <p>2・一 本化幼年学園を慈悲教育院と改称。中村寛澄ら、2・14同教育院の事業として子守学校を開設、のち拡大を図り分場を設置。(5) 感化救済小鑑、日宗新報 969、府誌 下</p> <p>3・30 府税賦課規則改正し、「戸数割は恤救規則に依り救恤を受くる者には賦課せず」と規定。 府令20号</p> <p>4・22 清水二年坂下明鳥に貧民施療のための聖ペテロ医院開院(医師ストリート、リオネル)。 日出 4・18</p> <p>5・8 救世軍ブース大将来洛。「救世軍の過去現在未来」について講演会など開催。また平安養育院を来訪。7月下旬市内四条通堀川西に救世軍京都小隊結成。(6) 中外日報 5・12、10・14</p> <p>5・19 京都施薬院の施療患者増加。妙心寺僧侶、慈善托鉢を開始、以後毎月実施。 中外日報 6・2、京都医事衛生誌 159</p> <p>6・一 辻原光治の主唱により船井郡三ノ宮水呑に日本育児院の分院を設立(明41・1分離独立し丹波育児院と改称)。(7) 府公同委員制度ほか</p> <p>6・一 仏教大学生北島嶺乗ら洛北田中村の貧民児童のため日曜学校開設。このころ仏教大学生は多方面にわたり活躍。 中外日報 6・29</p> <p>7・1 府医師会、府歯科医師会新発足。 京都医事衛生誌 160</p> <p>8・25 府下全域台風のため大被害(その被害194カ町村に及ぶ)。とくに由良川流域は甚大。府に対し2,200円の救恤金が下賜される。罹災者救済のためキリスト教関係の有志府下水害民救済会を結成。このほか日赤・軍人後援会京都支会・平安養育院・京都綿ネル会社などの救援活動あり。(8) 府統計書 大7、府誌 下、社会事業大年表、日出、府令70号、訓令67号ほか</p> <p>8・一 愛宕郡野口村、鞍馬口村の村長ら未就学児童対策を府に請願し、府では各村50円ずつの補助を認める。 日出 8・7</p> <p>9・10 長岡常次郎、貧児教育を目的に私立酬恩学校を開設。当初は民家で夜学のみ開始、のち三条大橋東に校舎を新築移転。 府誌 下、府公同委員制度、府庁文書 大15ほか</p> <p>10・25 府、公私立精神病院取締規則公布。 府令59号</p>

参 考	日 本
<p>(1) 要求事項は、①日給4銭以上の昇給、②勤勉加給の支給、③同盟罷業の実費の請求、④便外備上手当の下付、⑤免職者を出さない等であった。ストの原因は、日給平均46銭の低給に対する不満、勤勉加給の配当不正、足尾銅山ストの影響などと伝えられる。 日出 2・13、14</p> <p>(2) 京都に関係する部分を摘記すれば、「僕、旧都に入りて驚けるもの二、鴨川の濁流なる事、電車の矢釜しき事其二也、日東山の巔を出でる三竿なる頃試みに牛若と丹波とが戦ひしを以て有名なる五条橋上に立つて俯瞰すれば暗紫色に濁れる水面には浮脂の如きもの晃々と光れるを見る、之れ兩岸に櫛比せる祇園町、先斗町、宮川町の娼妓歌妓等が化粧水を流せる為なりといふ而して岸涯水なき処には塵芥混々と堆くして宛然塵溜の看を呈せり、人は謂ふ山紫水明の郷と僕は謂ふ山紫はあらん、水明は未だし也と、乍併溯つて三条大橋以上に到れば流れ清くして紫水晶の如く僕をして真に山紫水明の古都たるを忍ばしむ、次に電車の八釜しきに到つては響ふるに物なし電車の通る附近は不断の地震の如く朝は市民のために好箇の目醒時計也、要するに線路の不完全なる為ならん、京都電車は我国に於て一番古き歴史を有するにも拘らず今日尚如此を見れば又以て京都市民が如何に呑気に如何に優長而して如何に愚かなるを知るに足らんか」。 週刊社会新聞 6・30</p> <p>(3) 蔭山家の出である岩井勝次郎が事業に成功し資産の一部で設立、郷土の恩に酬い併せて祖先を祭る資としました社会に貢献したいというのが目的。村内貧困者孤独者並に寡婦・小学校貧困生徒救済。</p> <p>(4) 託児所の新設は、乳呑児あるが故仕事を妨げられる労働者のために、昼間または夜間に乳児を無料で預るためのもの。</p> <p>(5) 明40・2・14～4・13に至る60日間、下京区六角通鳥丸東入ル六角堂境内の茶所において子守を集め修身の講話を行なったことに始まる。市内3カ所に設置(仁王門通新高倉の中村寛澄自宅、六角堂、本圀寺)音楽教育に重点をおいたという。 中外日報</p> <p>(6) 救世軍総督ブース大将来洛ということで、京都ではその歓迎準備に牧野虎次らが奔走。明41・4現在の京都の入隊者は64人。改悔したもの400人という。 中外 明41・4・23</p> <p>(7) 日本育児院は岐阜市に設立。丹波育児院は辻原が全財産を提供して経営、大12・4山陰児童愛護会と改称し、何鹿郡綾部町に移転。</p>	<p>1・1 『世界婦人』創刊。</p> <p>1・15 キリスト教系・非キリスト教系社会主義者結集し、日刊『平民新聞』創刊(発行停止4・15、～75号)。</p> <p>1・21 東京株式相場暴落(日露戦争後の恐慌の端緒)。</p> <p>2・4 足尾銅山で坑夫、職員と衝突し大暴動、軍隊出動(～7日)。</p> <p>2・6 奥村五百子没(62歳、愛国婦人会創始者)。</p> <p>2・16 長崎三菱造船所スト(～19日)。</p> <p>2・17 日本社会党第2回大会、議会主義と直接行動派対立。2・22結社禁止。</p> <p>2・19 政府、郡制廃止法案を衆議院に提出、3・2可決、3・21貴族院否決。</p> <p>3・2 夕張炭坑の運搬夫700人スト、デモ。</p> <p>3・7 北海道旭川町野戦砲兵第7連隊兵士37人、同盟脱営。</p> <p>3・8 銚子漁夫1,000人スト。</p> <p>3・19 癩予防に関する件公布(同施行規則7・20)。</p> <p>3・21 小学校令を改正(6年制実施)。</p> <p>3・26 貴族院、治安警察法第5条改正案否決、婦人の政談集会否認。</p> <p>4・16 救世軍ブース大将来日。</p> <p>4・24 改正刑法公布(明41・10・1施行)。</p> <p>4・28 幌内炭坑坑夫1,700人暴動(～29日)。</p> <p>4・29 農商務省、各府県に窮民対策として農家の養鶏奨励。</p> <p>5・3 横浜税関波止場人夫約900人スト(～6・2)。</p> <p>5・9 官役職工人夫扶助令公布。</p> <p>6・1 森近運平・宮武外骨ら『大阪平民新聞』を創刊。</p> <p>6・4 別子銅山スト、暴動化(～7日)。</p> <p>6・13 満州鉄道に関する日露仮条約調印。</p> <p>7・11 岡山県吉岡鉦山2,800人賃上スト成功(～13日)。</p> <p>7・29 大阪の親倉会、倉庫業者に賃上要求紛議。</p> <p>7・一 アジア各国社会主義者、東亜和親会開催。</p> <p>8・1 京城で韓国軍解散式。韓国軍、日本軍と衝突(以後反乱全土に広がる)。</p> <p>8・1 社会主義暑期講習会、直接行動派・議会政策派参加(～10日)。</p> <p>8・18 第2インター・シュトゥットガルト大会開催(～24日)。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>7・一 友禅染職12名、荒川半襟商に対してストライキ。 京都地方労働運動史</p> <p>7・一 京都染物同業組合艶打部工、賃上げ要求で交渉妥結する。 同上</p> <p>7・一 平安購買組合設立。発起人京都大学田島錦治ら。事務所紀伊郡伏見町字山崎。 週刊社会 7・14</p> <p>8・1 京都縦横社同人、大阪平民社に一文を寄せ京都の情勢を報告。「京都の社会問題として吾人の注意すべきは、一は西陣問題、二は鴨涯の婦人問題に候」。 大阪平民 8・1</p> <p>8・8 加茂村山中某、高橋某をむかえ、社会主義者同志一同談話会を開く。 週刊社会 8・18</p> <p>8・10 縦横社同人社会問題研究会をひらく。主題「如何にして社会主義者となりしか」、来会者中に宗教家・弁護士・新聞記者・教育者・実業家などみえるという。 大阪平民 9・5</p> <p>9・8 赤羽巖穴、京都日報社を辞し、東京に帰る。 週刊平民 9・15</p> <p>9・14 縦横社同人、京都社会問題研究会開く。(同事務所にて、夜7時から)。 大阪平民 9・8</p> <p>10・8 京都染物同業組合友禰部職工同盟会結成。(10・9規約を定める、加盟者700名)。 京都地方労働運動史</p> <p>10・12 社会問題研究会開催(烏丸今出川上ル小畑宅、午後7時から)。森近運平大阪から参会、宗教と社会主義の関係について講ず。集会者10数名、森近に月刊『労働者』毎月1,000部引受を約束。 週刊社会 10・27</p> <p>10・6、7 友染職工ら賃上げを要求し、40数名が染物同業組合事務所に集合。10名の委員で3割の賃上げを交渉(20日1割5分増で落着)。 日出 10・7</p> <p>10・19 市内下駄職工300名余のうち、10余名集会を開き、賃金値上げを決議。 日出 10・20</p> <p>10・一 鈴木(一木か?)幸之輔、京都平民倶楽部を組織。毎週土曜日社会主義研究会開催(11・9、12・14各々研究会開催)。 社会新聞 10・27、12・8</p> <p>10・一 京都染物同業組合友仙部、裏地部でも賃上げ要求で交渉(中旬妥結)。 京都地方労働運動史</p> <p>11・20 白川村針金工場、数工場の職工連合で3割の賃上げ要求。45名ストライキ。(24日工場側、手腕あるものには3割値上げすると「譲歩」落着)。 京都地方労働運動史、週刊社会 12・1</p> <p>11・一 一木幸之助・西川光次郎へ寄信、『日本平民新聞』の幸徳・堺の記事を批難。 週刊社会 11・17</p> <p>11・一 京都織物同業組合役上給部、市内の悉皆商に対し賃上げを要求して争議、妥結。 京都地方労働運動史</p>	<p>11・1 府、講会取締規則公布。11・15の同施行心得に、「社寺の維持又は慈善其他公益事業の為にする講に関しては斟酌する」旨を規定。 府令62号、訓令62号</p> <p>11・8 田中秀三らの発起により府看護会連合会結成(看護婦の増加と看護会の乱立による弊害を調整)。 京都医事衛生誌 164</p> <p>11・9 岡山孤児院慈善講演会を京都市会議事堂において開催。東京から志賀重昂・巖谷小波来洛。 キリスト教世界 11・14</p> <p>12・26 古河太四郎没(盲啞教育の祖、63歳)。 ろう学校90年史</p> <p>12・27 府、罹災救助資金補助規程を定める。⁽⁹⁾ 府令70号</p> <p>12・一 何鹿郡綾部町味方に共同救済会設立。 綾部史年表</p> <p>この年 ▷ 伊沢修二来洛し、洛東高台寺大黒庵で一般吃音矯正にあたる。 中外日報 9・30</p>
<p>この年 ▷ 京都印刷で首切り反対の争議。労働者組織「銀ぶち会」(親睦会ともいわれる)を中心に闘争。首切り撤回させる。 京都印刷出版労働運動小史</p>	

参 考	日 本
<p>(8) 府下水害民救済会は京都市内のキリスト諸教会、キリスト教青年会、婦人矯風会、連合婦人会などの諸団体によって構成された。京都綿ネル会社では、窮民救済の対策として職工を大募集した。</p> <p>(9) その内容は、市町村において罹災救助の方法、その資金蓄積に関する条例を設け、罹災救助資金を貯蓄するときはその積立額の10分の5以内の補助金を交付すること、ただし1カ年度の積立額がその市町村の戸数に応じ、1戸あたり市の場合は金5銭、町村の場合は金25銭に満たない場合は補助をしないなどであって、施行は明治40年度から。</p>	<p>8・19 英国独立労働党首ハーデイ来日。</p> <p>8・20 片山潜ら社会主義同志会結成。</p> <p>8・30 生野鉦山スト(～9・10)。</p> <p>9・12 軍令に関する件公布。</p> <p>9・18 陸軍管区表改正公布(19師団に増師)。</p> <p>10・28 陸軍2年兵役制に改定。</p> <p>11・1 日本製鋼所設立(日英合弁)。</p> <p>12・21 片山潜ら平民協会結社届(12・25禁止)。</p> <p>この年 ▷ ペスト流行、死者320人。 ▷ 労働争議急激に増加(明治の最高)。 ▷ 前年公布の医師法に基づき各地に医師会設立される。 ▷ 内務省、部落調査を実施(全国の部落数5,470、戸数13万7千余、人口約80万)。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>2・12 京都日報記者打仏庵主人、『熊本評論』に「霹靂鞭」なる文を寄稿。 熊本評論 3・20</p> <p>2・25 京都日報記者打仏庵主人、『熊本評論』に、西川光次郎一派の片山潜らとの分派に関して「縦論横議」なる一文を寄稿。 熊本評論 4・5</p> <p>2・一 葵同志社再興。月1回の研究会。筆記機関誌の発行など決定、事務所は相楽郡加茂村字里山中慶太郎方。 日刊平民 2・20</p> <p>2・一 一木幸之助・家入徑晴、『東京社会新聞』(西川派)社友となる、以来該紙に時々寄稿。 東京社会新聞 2月号</p> <p>3・一 京都平民倶楽部一時中止したが、社会主義研究会(京都同志研究会)はなお毎月第二日曜日、京都日報社で行なうを決定。(4・12、19、各々研究会開催)。 社会新聞 3・1、東京社会 4・5、15ほか</p> <p>4・18 安部磯雄、山路愛山とともに同志社にて社会主義の演説。 東京社会 4・29</p> <p>4・20 『熊本評論』紙、「京都平民倶楽部の社会主義者は、来る5・1を期し…近畿大会を開くことを決議した」と報ず。⁽¹⁾(大会は10月に延期。京都日報主催、岡崎公園にて)。 熊本評論 4・20、5・5</p> <p>5・15 社会新聞鈴木樞夫、全国遊説の途次、京都に立寄り見物など行方。 社会新聞 10・20</p> <p>6・一 島中翠湖・家入徑晴・一木幸之助ら、『新社会』発刊に際し、発行日前に頒布したとの疑いで新聞紙条例違反にとわれ、発禁の島中は罰金50円。(発行日6・10)。 東京社会 6・15、25</p> <p>8・4 京都市借款反対市民大会共楽館において開催。 京都地方労働運動史</p> <p>8・6 京都市借款問題大演説会西陣倶楽部において開催、来会者数百名。⁽²⁾ 同上</p> <p>8・15 新舞鶴町吏員ら、長谷川町長に反対して同盟欠勤。 同上</p> <p>8・28 紀伊郡小倉・佐山・向島村(現京都市伏見区・宇治市)小作人・貧農ら300人、水車休業を要求、水車を打ちこわす。 青年年表</p> <p>8・一 リボン・帽子業者、新課税反対運動はじめる。 京都地方労働運動史</p> <p>8・一 大森知事、報徳講演会を行う。⁽³⁾ 日出</p> <p>9・一 市内燃糸加工業者、工賃値上げを要求。 京都地方労働運動史</p> <p>11・一 乙訓郡大山崎村友瀬工場の職工、職工長辞職に反対して酒肴料を要求してストライキ、(署長の訓誡にて落着)。 同上</p> <p>11・一 絹糸紡績会社上京工場の熟練工ら、賃金増額、解雇撤回・居残時間の切上・休假日の変更などを要求して、ストライキ(5名引致、うち3名検束され、解雇される)。 同上</p> <p>12・5 市内金箔業者、問屋側の賃金値下げに反対し、工賃値上げ、安価投物の制裁を要求して集会、決議のうえ、問屋側に手交。 同上</p> <p>12・一 丹波の岩崎秋月なる人、福田英子をたたえ、英子よりもたらされた書が表装できた喜びを伝える一文を『世界婦人』によせる。 世界婦人 31</p>	<p>1・9 府教育会、「低能児教育」の調査委員を設置(下京区淳風校教員脇田良吉参加)。 府教育会沿革</p> <p>3・31 京都救済院、創立以来の収容人員、3府11県にわたり291人にのぼる。そのうち育児院内に50、育児院外32、老衰者6。四明余録 21:5</p> <p>3・一 真言宗東寺婦人会。「婦人の徳性を涵養し慈善其他社会に有益なる事業に向ひて婦人の本分を完ふす」。 六大新報 239</p> <p>5・7 伏見町の布教師松本雪城、子守学校を設立。 中外 5・10</p> <p>6・一 紀伊郡柳原町に柳原矯風会設立、風紀の改良、貯蓄思想の涵養などに尽力。 府誌 下、日出 明42・6・16</p> <p>6・一 葛野郡朱雀野村西ノ京小路の小西勘三郎、夜学校開設に奔走。⁽⁴⁾ 中外日報 6・29</p> <p>7・一 相楽郡井手村同和地区の有志(約80戸)、東本願寺の協力をえて融和団体親和会結成。 中外日報 8・2</p> <p>8・4 コツホ博士入洛(滞在~6日)。 市医師会50年史</p> <p>8・10 医師齊藤実記、天台宗僧侶延原円澄の主唱により施薬救療を目的に紀伊郡柳原町に東亜慈善会設立(当初施療所を設け10月に京都市内6カ所に囑託治療所を設置。(会員組織、のち東亜慈善会塩小路病院設立)。 府誌 下、府庁文書 大15、府公同委員制度ほか</p> <p>8・一 京都市、応請消毒規程制定。⁽⁵⁾ 京都医事衛生誌 188</p> <p>9・一 下京区東三条裏の大谷派蓮沢寺住職葛城法頭、青年共済会を結成(部改善のための夜学会開設を計画)。 中外日報 明43・1・19</p> <p>9・一 中村寛澄(日蓮宗僧侶)慈光夜学校を仁王門通に設立。12・5慈光青年会を設立。これらがのち明德学園に発展。 中外日報 6・28ほか</p> <p>10・1 府、感化法施行に伴い京都感化保護院を府の感化院に代用(明42・2・22「感化」という語は適当でないため名称を神泉学園と改称)⁽⁶⁾ 告示455号ほか</p> <p>10・1 本願寺派、第1回教諭師養成所を設置、(養成期間10カ月、京都・大阪堀川西監獄で2カ月の実習を課す)。 無尽灯 13:10</p> <p>10・14 祖風宣揚会、病院設立を決定(明42東寺内に濟世病院を設立)。 六大新報 315、智獄新報</p> <p>11・4 市内慈善家有志による私立鴨川学園(遅滞児教育)設立認可(大5・2・18閉鎖)。 日出 11・5</p> <p>11・25 新京極夷座劇場において岡山孤児院慈善演芸会開催(~26日)。 キリスト教世界 12・3</p> <p>12・31 西本願寺の仏教青年会・仏教婦人会の発起により貧民3,000人に雑煮餅を施与。 智獄新報 95</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 真宗本派慈善会財団、従来京都施薬院に年間1,200円補助していたが、この年から600円に減額。 東京医事新誌 1・1 ▷ 府下の痘瘡患者258人(うち死亡38人)にのぼる。 府統計史料集 ▷ 府は明41年度~同43年度府県連合癩療養所(外島保養院)建設費を負担。 府統計書大7

参 考	日 本
<p>(1) 「近畿大会が果して如何の結果を齎すかは未だ図り知るべからずと雖も、吾人は今にして嵐山の朝風に赤旗の翻々たるを思ふて、表然たらざるを得ざるなり」。 熊本評論 4・20</p> <p>(2) 市借款問題は、京都市が借款条件を市会に付議せずに、三井銀行と借款契約をした一件で、対至誠・中正両会は理事者不信任の決議案に賛成し、市民大会をひらいて、世論を喚起した。</p> <p>(3) 明18松方デフレによる農村窮乏対策として政府は、二宮尊徳の報徳仁法の先例にのっとり、報徳運動をうちだし、府下では修徳社(相楽郡祝園村)共同貯蓄組合(竹野郡郷村)などが生まれた。 明41・8・3 府農会、府立第一高女において報徳講演会開催(~8・5)。</p> <p>9・5 綴喜郡宇治田原町青年会、報徳講演会開催。 日出 9・10</p> <p>9・6 天田郡上夜久野村、報徳会を組織。 日出 9・14</p> <p>10・一 竹野郡長らの発起により竹野郡報徳会設立。 日出 10・28</p> <p>12・13 北桑田郡報徳会設立。 日出 12・17</p> <p>12・16 船井郡報徳会設立。 日出 12・19</p> <p>(4) 「戸数140余、人口620余人、教育機関の設備なきをいかんとし天部協同夜学校の成績に鑒みて」小西勘三郎ら奔走中。 中外日報 6・29</p> <p>(5) この目的は、明30法律第36号伝染病予防法規定以外の伝染病(肺結核、癩など)そのほか病毒に汚染または其の疑ある物品を市民の請求により無料で消毒することであった。</p> <p>(6) 改正感化法によると、「当該区域に団体または私立に属する感化事業の設備ある時は、内務大臣の認可を経て、感化院に代用することができ」大2淇陽学校が設立するまで続いた。神泉学園と改称したのは、感化院の名称が教育上適当でないと思料されたため。 更生保護会沿革要覧ほか</p>	<p>1・12 紡連、第5次操業短縮開始(~4・30)。</p> <p>1・17 尾上演説事件。</p> <p>1・21 政府、増税法案(酒税・砂糖消費税・石油消費税など)を提出。</p> <p>2・5 実業団体連合大会開催。</p> <p>2・14 全国商業会議所連合会、選挙宣言を発表、増税賛成議員を非難。</p> <p>3・6 警視庁、田川大吉郎ら届出の普選国民大会開催を禁止。</p> <p>3・15 永岡鶴蔵ら鉦夫組合を結成。</p> <p>3・16 増税法公布。</p> <p>3・28 監獄法公布(10・1施行、監獄則廃止)。</p> <p>3・31 恐慌救済策として国庫債権1億円の償還を発表。</p> <p>4・28 初のブラジル移民783人出発。</p> <p>4・下 参謀総長、軍隊内の社会主義防禦の訓令。</p> <p>6・1 臨時脚気病調査会を設置。</p> <p>6・2 大阪友禅工1,800人賃下反対スト。</p> <p>6・12 細菌学者コツホ来日。</p> <p>6・22 赤旗事件。</p> <p>8・一 凶徒嘯聚事件大審院判決。</p> <p>9・5 横浜の欧文活版工91人全員クロードショップ制欧文会を結成。</p> <p>9・29 内務省、警察犯処罰令公布(10・1施行)。</p> <p>9・一 第1回感化救済事業講習会開催(内務省主催)。</p> <p>10・13 戊申詔書発布。</p> <p>10・16 司法省監獄局、はじめて全国の監獄に受刑者の指紋徴取を指示。</p> <p>11・30 太平洋方面に関する日本交換文(高平、ルート協定)、12・2公示。</p> <p>12・5 鉄道院官制公布。</p> <p>12・24 京都市会・電車賃値上案可決、電車賃値上反対運動おこる。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 船舶生産高、輸入高をこえる。 ▷ 第2辰丸事件に関し日貨排斥運動おこる。 ▷ 内務省、恤救規則国庫支出に関する通ちょうを出し、国庫支出のひきしめを図る。

社 会 運 動	社 会 福 祉
1・6 駅使夫ら、賃上げ要求でストライキ。 京都地方労働運動史	1・22 愛宕郡田中村西地区の有志、自彊会を 結成(共同浴場設置・夜学会開設・道路の補修な どに尽力)。 日出 1・23、11・13
2・8 織物消費税反対演説会および機業家大 会、西陣の岩神座で開催。 同上	1・25 府医科大学、4週間を期し医学講習会 を開催(開業医に新知識を注入、初の試み)。 京都医事衛生誌 190
2・23 織物税反対の提灯行列、5~6,000人 ほど参加し、市内を一周。 同上	1・一 久世郡金蔵寺住職西田教覚、夜学会開 設。6月上京区第10学区嘉楽小学校同窓会、2 カ月間徒弟講習会。 中外日報 3・19、日出 6・9
2・一 愛宕郡野口村の住民、村民の一致団結 をはかるため鶏鳴会を結成。 ⁽¹⁾ 日出 2・18	2・21 岩倉病院新築落成。11月に同院附属看 護婦学校設立。府庁文書 明42-47、日出 2・13ほか
2・一 京都絹糸紡績(株)の女工8名、同盟し て逃亡。 京都地方労働運動史	2・26 東京家庭学校長留岡幸助来洛。府庁有 志の発起により感化教育事業に関する講演会開催、 関係者200人余出席。 日出 2・28
3・4 西陣機業者ら、織物税に反対して、府 庁へ集団陳情。 同上	3・2 京都市参事会、御苑内の府立図書館跡 の建物を京都施薬院に無償払下げ。 日出 3・3
4・21 ふたたび西陣機業者大会を西陣岩神座 にて開催、織物消費税廃止運動の経過報告。 日出 4・21	3・16 府、癩予防に関する法令施行手続公 布。 ⁽³⁾ 訓令19号
6・19 西陣の家主30名、市参事会に家屋税反 対陳情。 京都地方労働運動史	3・23 府、感化法施行細則公布。 府令26号
7・一 島田三郎、峰山明峰座にて織物税廃止 の必要性を説く、聴衆700名。 日出 7・17	3・一 紀伊郡伏見町の医師大橋政之助、桃山 産婆学校設立。 京都医事衛生誌 180
8・一 伏見町・横大路など6カ村、横大路村 三栖の宇治川堤防、伏見町景勝の高瀬川堤防の改 修工事を知事に陳情。 日出 8・22	4・20 下京区珠数屋町にペスト患者発生、同 日死亡(京都にはじめてペスト発生)。4・21臨時 京都市会で捕鼠1匹につき5銭で買上げを可決。 4・23ペスト予防費21,330円30銭追加を可決。その ほか交通遮断の措置をとるなど府、市ともに対策 を練って、その流行をくいとめる。また大谷派本 願寺は交通遮断地域65戸へ寄附するなど尽力。 ⁽⁴⁾ 府立医大80年史、市会史、日出 4・22ほか
10・27 織物消費税廃止期成同盟会京都支部、 発会式を西陣岩神座で開く。のち廃税大演説会。 弁士松下定吉・木村省吾ら(6日同発起協議会)。 日出 10・28	4・一 京都市、行旅病者の収容を京都感化保 護院から京都施薬院へ委託替え。 京都医事衛生誌 207ほか
10・一 乙訓郡で報徳会・夜学会など続々発会。 義勇艦隊寄附金奨励運動の影響。 ⁽²⁾ 日出 10・5~7	6・19 小林参三郎・矢野長蔵らの主唱により 真言宗祖風宣揚会、東寺内に濟世病院を新設。ま ず仮開院し、細民施療にあたる。のちの院主清滝 智竜経営主任となる。(仏教病院のはじめ)。 社会時報 7:3、六大新報 315ほか
10・一 平井友仙商職工ら紛議。 京都地方労働運動史	7・1 京都市官屠場開設(管轄は京都市・愛 宕・葛野・乙訓・宇治・紀伊の1市5郡)。 市学区大観ほか
10・14 鐘紡京都支店(分工場)の女工4人雇 用まもなく逃亡。 日出 10・16	7・3 府教育会、愛宕郡田中村字百万遍境内 養春院内に精神薄弱児教育のための白川学園を開 設。当初は3人を収容。明45・4 脇田良吉の個人 経営に移る(東京滝乃川学園に次ぐ施設)。 ⁽⁵⁾ 白川学園発行つくもほか
10・26 紀伊郡柳原町で「嬌風会」主催の納税 講演会を開催。 日出 10・25	9・17 府、廃兵及付添人乗車手続告示。 告示434号
11・9 紀伊郡竹田村で、徴税書一括返納騒動 おこる。11・25までに納付すべき租税を、同3日 附で即刻完納せよと村役場が命令したため。 京都地方労働運動史、青木農民騒擾年表	11・25 府会市部会において京都娼妓検査所兼 八坂病院の移転改築の建議案が提出され即時可決 (明43から3年計画で改築工事を開始、総工費 149,977円)。府会史、日出 11・27、府統計書 大7
11・一 与謝郡伊根村で、鱒漁々区権をめぐ つて、有株人と無株人が反目、漁権争奪の紛擾。 日出 11・11	
12・3 文珠九助記念祭、御香宮文珠碑前にて 挙行。 日出 12・3	
12・一 京都商業会議所、京都工業同盟会、工 場法案にかんする諮問に答申。 京都地方労働運動史	

参 考	日 本
(1) 勤儉力行の気風を作興し村民の一致団結を 図ることを目的にした。毎月1回風俗改良の講話を 行ない、同村の東西本願寺末寺僧侶らが賛助して いるという。同村は146戸のうち百戸内外が借家 であり、将来は工業会社を誘地して青年の就職を 確保すべく努力していると報道。 日出 2・18、5・30	1・12 東京市民大会で電車賃値上反対を決議。 2・24 憲政本党常議員会、非政友各派大合同 をめぐり対立、2・27犬養毅除名。 3・4 全国織物業者、神田錦輝館で織物消費 税全廃大会を開催。 3・30 東京府知事、府民に戊申詔書の意を体 し勤儉貯蓄を告諭。
(2) 1日新神足村夜学会、2日長法寺報徳会、3 日向日町在郷軍人会・久世村字築山報徳会などが 続々発会した。10・2には、成川海軍少将が義勇 艦隊寄附金奨励のため海軍実戦談等を乙訓郡淀町 で講演。 日出 10・5・7	4・1 癩療養所4カ所新設。 4・3 栃木県田沼の部落民騒動。 4・11 日糖疑獄事件の検挙開始。 4・14 種痘法公布(明43・1・1施行)。 5・6 新聞紙条例を廃し、新聞紙法公布(発 売禁止の行政処分復活)。 5・10 ハワイ日本人農業労働者8,000人スト (~8・5)。 5・15 『大阪朝日新聞』、新聞紙法を批判、新 聞紙法反対運動おこる。 6・10 幸徳秋水・菅野スガラ、『自由思想』 創刊、ただちに発禁。 7・12 内務省、東京で第1回地方改良事業講 習会を開催。 7・17 医師法・歯科医師法第1次改正。 7・31 大阪大火(~8・1)。 8・29 日韓合併の詔勅。 8・一 近江震災2回。 9・1 韓国全羅道民族運動の討伐開始。 9・4 日清、間島に関する協約。満州5案件 に関する協約調印。 9・9 文部省、学生々徒の飲酒取締強化を指 示。 10・11 三井財閥再編成に着手、三井合名会社 (持株会社)創立。 10・26 枢密院議長伊藤博文、ハルピン駅頭で 韓国人安重根に暗殺される(11・4国葬挙行、11・ 17、山県有朋を枢密院議長に任命)。 12・13 産業組合中央会設立。 12・24 賀川豊彦、神田新川の貧民窟に転居し 救霊団の事業開始。 12・28 内務省、明43・1以降の精神病者調査 票記入心得を定める(このころ、精神病者増加)。 12・一 内務省、6大都市に職業紹介所の設置 を奨励、補助金を交付。 この年 ▷ 綿布輸出額、輸入額をこえる。
(3) 2府10県連合の第3区癩療養所は、大阪府西 成郡川北村大字外島に設立され、4・1から開所。 外島保養院という。4・21患者収容。 京都医事衛生誌	
(4) 府統計史料集によると、結局患者は4人発生 (うち3人死亡)このペストは兵庫県から入浴し た僧侶によってもたらされた。	
(5) 園長は府師範学校長鈴木光愛、教員は脇田良 吉であったが、設立当初から脇田良吉の奔走によ るところが大きく、彼はその発足準備に2カ年を 要し、東京に赴き石井亮一・元良勇次郎・伊沢修 二らの指導をうけたという。大正に入って鷹ヶ峰 に新築移転し現在に至る。府は大3以後補助金交 付、大4以降内務省より助成金交付。 府教育会沿革、白川学園発行つくもなど	
12・一 府会、知事に対し監獄移転の意見書を 提出。 府会史	
この年 ▷ 内務省、京都・東京・大阪・横浜・名古屋 ・神戸の6大都市に補助金を交付し、職業紹介所 設置を奨励。 社会事業大年表 ▷ 大阪の大火、近江地方震災あり、京華養育 院・平安養育院など罹災者救助に助力。 日出 8・7ほか ▷ らい患者府下に142人。 府統計史料集	

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・25 地租軽減請願書(府下146カ村)国会に提出される。⁽¹⁾ 京都地方労働運動史</p> <p>2・11 京都電鉄の車掌・運転手280余名、就業時間の短縮その他の待遇改善を要求してストライキ。指導・電友会会長田中常次郎(同日警察に通報され治安警察法違反として説諭される)。⁽²⁾ 週刊社会新聞 4・15、日出 2・13</p> <p>2・一 このころ京都電鉄従業員、電友会を組織。 京都地方労働運動史</p> <p>3・17 京都電鉄ストライキ指導者、治安警察法違反で懲役3カ月の判決をける。 同上</p> <p>8・一 宇治川発電所工事現場で、朝鮮人工夫ストライキ。 同上</p>	<p>1・一 京都市内宮川町・先斗町・祇園乙部の3遊廓主唱し、芸娼妓救済所を設立。⁽³⁾ 中外日報 1・12</p> <p>1・一 大谷派婦人法話会、京都市内の貧民1,400人に米5合ずつ施米、場所は大師堂。 中外日報 1・11</p> <p>2・11 仏教大学々生高木羽超聖らの主唱により、出獄人保護の目的で醇厚会設立。毎月本派本願寺から助成、とくに堀川警察署管内担当。 本願寺派社会事業便覧ほか</p> <p>3・一 舞鶴海軍共済会病院、下士卒家族共励会員、その家族の診療も実施。8月同病院内に看護婦養成所を設置。 京都医事衛生誌 207</p> <p>4・1 府、加佐郡舞鶴町字市場に娼妓検査所を設置。5・10府、娼妓病院に関する年報事項を制定。⁽⁴⁾ 告示159号、訓令24号、府統計書 大7</p> <p>4・一 伏見十六会、救済部を創設。大1・11・3無料救済所済生園開設し、貧困者を救済。 伏見と伏見十六会、京都医事衛生誌 224</p> <p>5・9 同仁会京都支部発会。「同仁的慈善の主旨を普及せしむる目的」。 京都医事衛生誌 194、中外日報 5・11</p> <p>5・一 中村寛澄、免囚の家庭を訪問し、精神訓話を開始。明44に浮瀾会結成。 府公同委員制度ほか</p> <p>6・20 明石博高没(72歳)。 明治文化と明石博高翁</p> <p>7・一 牧師石黒猛次郎らの有志、日本健康会を設立(府庁文書大15には5・1設立とある。牧師を同行し乳母車に医薬をのせ、京都市内の細民患者を往診、のち無料診療所開設)。 京都医事衛生誌 413、府社会事業便覧ほか</p> <p>9・22 府、コレラについて告諭。10月愛宕郡大宮村・京都市内神泉苑附近にコレラ患者発生。前年に引続き流行。⁽⁵⁾ 告諭1号、市医師会50年史</p> <p>10・一 府、八坂病院の改築を計画し、以後3カ年の継続事業とし、下京区東山通五条上ルに工事着手(竣工大2・1)。⁽⁶⁾ 府誌 下ほか</p> <p>10・一 上京区東洞院夷川上ルに細民施療施設博愛社設立。 府誌 下</p>
<p>この年</p> <p>▷ 真宗本願寺派加藤徹玄の祇園伝導。ために自由廃業、合意の情死がなくなったという。 日本近代仏教社会史研究</p>	<p>この年</p> <p>▷ 中村寛澄ら、聖祖門下同志会を結成(事業の一部として囚人慰愛事業を計画)。 日宗新報 1110</p> <p>▷ 平安養育院、相楽郡木津に城南出張所を設置(古川専太郎宅、第2支部とする)。 同院文書、漆葉見竜談</p> <p>▷ 南桑田郡亀岡に老人会結成、(日露戦争後の勇ましい状況を反映し隠士北村竜象の発議により小学校長浅井栄次郎を会長として発足。昭28楽寿会と改称)。 京都の福祉 19</p>

参 考	日 本
<p>(1) 請願書の内容「謹で衆議院議長長谷部純孝閣下に請願仕候現行の地租率は今や某等農民の負担に堪へざる所に御座候。此両3年来に於ける経済の不振は、延て其の影響を社会の各方面に及ぼし、就中米価の下落は我農業界に甚しき打撃を蒙り居る次第に御座候。某等農民は炎暑厳寒に抗し、1年苦しみ得たる所は出づる所と相償ふに足らざらんとする状態に有之候。某等曩きに国家非常の時に際しては、幾多の増課も謹で之れに服し、且つ平和克服の後と雖も国家の形勢に鑑み、丹心報国の誠意を表し、其苛税に忍び来り候。然るに政府は本期議会に減税の税制整理案を提出相成る由に御座候間、此際某等農民の実情を考察し、国民負担の均衡を量り、適當の程度に於て先づ地租の軽減相成様切望の至に堪へず候。稽首再拜」。 日出 1・29、京都地方労働運動史</p> <p>(2) 同社の車掌・運転手の総数は約3百人であり、労働時間は、15時間勤務3日、9時間勤務6日で10日間に1回の休日という制度であったが、実際には15時間勤務の日が5日、9時間勤務の日が4日となっており、長時間労働に対し不満が漸次たかまっていた。電友会というのは、相互扶助を目的とした車掌・運転手の組織であるが、会員の不満を集めて会社と交渉するなど労組的機能を営んでいたものと思われる。 週刊社会新聞 4・15</p> <p>(3) 「芸娼妓の生みし子供にして便るべき所なきもの、芸妓にして疾病休養中衣食に窮するもの…貧困者を收容して病者に医薬を与え、生業なきものには産業を授け、老衰を養い、児童には適當の教育を施す等夫々身分に應ずる救済法を設くる」由。</p> <p>(4) 府誌下に「竜宮新地は舞鶴軍港に面し其顧客とする所主として海軍々人なれば、本遊廓に於ける花柳病予防機関の整否は軍隊の保健上最も重要な關係を有する」とあり、これが設置の理由である。</p> <p>(5) この年のコレラ患者は145人(うち死亡120人)腸チフス、しよう紅熱、ジフテリアもかなり発生しているが、このころコレラの発生を見るのは稀であった。</p> <p>(6) 現在の洛東病院。敷地面積3,186坪余、建物坪数1,056坪余、収容人員240人、工費149,082円余、当時では最新式の構造であったという。 府誌 下</p>	<p>2・5 内債借替の国債引受シンジケート結成。</p> <p>2・10 大阪の友染職工2,000人スト。</p> <p>2・12 衆議院、地租軽減案を可決(3・9貴族院可決)。</p> <p>3・1 大同倶楽部、戊申倶楽部など合同し、中央倶楽部結成。</p> <p>3・13 憲政本党、又新会など合同し、立憲国民党創立。</p> <p>3・25 地租条例改正、宅地地価修正法・通行税法・織物消費税法各公布。</p> <p>4・15 改正関税率法公布。</p> <p>4・23 両国国技館で全国盲人大会挙行、2,000人参加。</p> <p>5・14 日英博覧会をロンドンで開催。</p> <p>5・25 宮下太吉を爆発物製造の嫌疑で松本署に逮捕(大逆事件の大検挙開始、6・1幸徳秋水を逮捕)。</p> <p>6・22 拓務局官制公布。</p> <p>6・27 片山潜ら南千住で社会主義政談演説会開催。</p> <p>7・17 現行通商航海条約を翌年7月で破棄する旨各国に通告。</p> <p>8・8 東海・関東・東北地方大水害。</p> <p>8・22 韓国併合に関する日韓条約調印(8・29公布施行)。</p> <p>9・11 朝鮮の政治結社に解散命令。</p> <p>10・1 紡績、第6次操短開始(~明45・3・31)。</p> <p>10・18 農商務省、工場法案発表。</p> <p>11・3 帝国在郷軍人会発会式。</p> <p>12・1 第1回感化院長協議会を内務省で開催(~3日)。</p> <p>12・6 フランスの社会主義者、大逆事件に抗議し、パリの日本大使館でデモ、各地で抗議あり。</p> <p>12・10 大審院、幸徳秋水ら26人に対する大逆事件第1回公判開廷。</p> <p>12・24 皇室財産令公布。</p> <p>12・24 堺利彦ら売文社を開き、文章代理業を行なう一方、浮世顧問の看板を出す。</p> <p>この年</p> <p>▷ 文部省調査、全国の盲者3,963人、学齡児1万人に付4.61人の割、啞者6,485人、1万人に付7.54人の割。</p>

社 会 運 動

2・一 鐘紡女工3名、同盟して逃亡。
京都地方労働運動史

3・2 京都電鉄事件に関し大沢善夫社長収監される(3日取調、4日古川常務拘引)。
大阪朝日 3・5、日出 3・3

3・3 京都電鉄の争議および通行税脱税事件につき京都地方裁判所検事局、押収の帳簿を取調。大蔵省主税官入浴、税務調査を行なう。
大阪朝日 3・5

4・2 堺利彦、幸徳事件犠牲者遺族訪問旅行の途次京都に立寄る。岩崎華也・高島素之らと会談。
京都地方労働運動史

6・7～9 市政批判の京都市民大会開催、弁士森田茂ら。
同上

6・一 京都帝大法科大学教授岡村司、岐阜教育会で不穩の演説したとの疑いで取調べを受ける(7・18文官懲戒令により譴責処分)。(1)
週刊社会新聞 6・14、京大70年史

7・21 巨椋池沿岸一口村にて、水位を無視して宇治川水車放水を行い、村民ら放水を阻止しようとして紛争。5日間の水車停止で落着。
京都地方労働運動史

9・23 ジョルダン博士、「平和と金権」なる講演を同志社大学講堂にて行なう。
東京朝日 9・25

9・一 何鹿郡米穀同業組合結成(府下の産米改良のはじめ)。
日出 大3・10・19

10・30 葛野郡西院村民、避病院設置に反対し約120人京都市役所におしかける(11・7再度村民市役所へ押しかける)。
日出 10・31、11・8

社 会 福 祉

3・22 京都の各慈善団体、懇話会を開催し、京都慈善連合会を結成。大阪・神戸で既設の慈善同盟会に早速加盟(明45・1同会規則制定)。(2)
中外日報 3・24、4・3、日出 3・23ほか

3・一 西本願寺慈善財団、大遠忌にあたり京都市内貧民5,000人に施米。また浄土宗宗教大学京都分校、法然の遠忌を記念し、平安養育院・平安徳義会孤児院などの孤児180人を知恩院に招いて慰安。9・28大谷派婦人法話会、貧民1,400人に施米。
中外日報 3・27、9・30、浄土教報 947

4・26 大谷派慈善協会設立。(8・15機関雑誌『救済』創刊)。また同日高倉大学寮講堂において感化救済事業大講演会開催。
中外日報 4・26、救済 1:1ほか

5・17 内務省囑託小河滋次郎来洛、平安養育院・平安徳義会孤児院・京都救済院など視察。
日出 5・19

5・30 恩賜財団済生会京都支部設立。同会事業に府下の有志、総額89万9千円を寄附。大正元10・1救療規程を定め救療事業開始。
社会事業大年表、府誌 下

5・一 救世軍京都小隊、愛隣部を設置、布教の傍ら窮民救助・婦人救済・職業紹介など実施。
府公同委員制度ほか

5・一 私立協同夜学校、京都市教育会の経営に移る。(9・18府認可)。
府公同委員制度、府庁文書 明44-56

6・4 上京区油小路通下立売下ルに楽石社京都支部を設立、吃音矯正を開始(教師は伊沢修二の吃音矯正法の講習を受けた上田代吉)。
京都医事衛生誌 224、日出 6・5

6・13 中村寛澄、子守学校・慈光夜学校などの事業拡大を図り、明徳学園設立。定款に「本園は教育勅語の聖旨に基き特殊教育を施すを以て目的とす」と定める。披露会開催。(3)
中外日報 6・15、日本近代仏教社会史研究

6・一 愛宕郡野口村・田中村両村、貧困の不就学児童に夜学を奨励、子女早婚の弊風矯正などに尽力。
日出 6・11

8・8 京都慈善講話会を開催。小河滋次郎、「育児事業に関して」を講演。京阪の関係者出席。
中外日報 8・15

11・一 内務省感化救済事業団体奨励助成金下附。府下では済世病院・平安徳義会孤児院・京都救済院・私立酬恩夜学校・平安養育院・京都私立子守学校・私立協同夜学校・京都施薬院協会が表彰される。
救済 1:5、社会事業大年表

12・16 府会、「済世病院へ補助する件」の建議案可決。以後府は300円～400円年々交付。(4)
六大新報 431、府会史

12・一 中村寛澄主唱し、免囚保護事業団体(5)を設立。(会長川端警察署長、中村は精神修養講話講師となる)。(5)
中外日報 12・22、府社会事業便覧

12・一 大日本私立衛生会京都支会、ジフテリア血清施与規程を設け、貧困病者に無料で注射。
京都医事衛生誌 224

12・一 府医師会は恩賜財団済生会に対して、肺結核療養所設置が急務であることを建議(京都市4月に1,500円補助)。
同上

この年
▷ 第11回ライオン歯みがき慈善券を京都では平安徳義会孤児院・京都救済院・平安養育院に各65円ずつ配付。
日出 大1・9・28
▷ 感化救済の実行・研究・調査を目的に大谷派慈善協会結成。
日本仏教史 3
▷ 島津製作所、日本最初の医療用レントゲン装置を完成。日赤大津病院に納入。
京都貿易史

参 考

(1) 6・4 岐阜県教育会講演で博士は、①政府が博士を社会主義者視せりとて之を弁駁し「余若し社会主義者ならば政府も亦社会主義者なり、鉄道国有煙草専売の如き其一例に非ずや云々」と述べ、また、②我国特有の家族制を根本的に攻撃し其余波、家族制を主張する高官に対し多少不穩の言辞を用ひて之を批難したり」と。
週刊社会新聞 6・14

(2) 当日参加したのは、平安養育院、平安徳義会孤児院、京都救済院、滋賀県育児院、愛国婦人会京都支部、伏見慈善会、京華養育院、京都施薬院、済世病院など12団体。同連合会の事務所は、平安養育院内におく。慈善同盟会の京都の常置員は、京都救済院津田明蔵、平安養育院笠長栄次郎。

(3) 事業として子守、婢女の教育、商工業男女の徒弟義および義務教育を受けない児童の教育、精神薄弱児教育、日曜日の児童集会、通俗講話、犯罪者の慰問および教誨をあげている。子守教育はその中心。

(4) 府会議員堀田康人、林長次郎、並河栄慶らが中心となって提案。「開院以来僅カニ2ヶ年半ノ月日ヲ経過セシニ過ギザルモ其救済治療ヲ受ケシ患者ノ延人員ハ実ニ5万有余人ノ多キニ達ス…今後社会ノ趨勢ハ益々スノ種ノ病院ヲ發達セシメテ其効果ヲ大ニシテ済生ノ道ヲ弘メ民福ヲ計ルノ必要アルヲ認ム…」

(5) 資料の府公同委員制度には11月設立とある。○京都の社会事業施設(内務省調査)

区 分	京 都	全 国
育児保育	9	150
養老	1	17
施療施薬	6	72
窮民救助	2	42
授産紹介事業	1	30
宿泊救護	—	13
婦人救済	—	2
軍人家族遺族	1	10
感化教育	1	53
盲啞	1	63
子守	1	7
貧児	2	33
その他	3	13
その他	3	45
計	31	550

救済研究 3:6

日 本

1・18 大逆事件判決(1・24死刑執行)。大逆事件の死刑実施に関し、各国社会主義者より日本在外公館に抗議集中。

2・11 貧民済生に関する勅語を下し、宮廷費150万円を下附(5・30恩賜財団済生会設立)。

2・21 政府、渡米労働者の制限・取締に関し宣言発表。

2・一 帝国議会において官公立病院設置に関する建議を可決。

3・11 衆議院、松本君平ら提出の普通選挙法案を可決、3・15貴族院で否決。

3・29 工場法公布(大5・9・1施行)。

4・1 この年より市町村立小学教育費への国庫補助倍増。

4・7 市制・町村制改正法律公布。

5・15 片山潜、労働クラブ茶話会結成。

5・30 普通選挙同盟会、政府の圧力により自発的に解散。

5・一 東京と大阪に特別高等警察設置。

7・7 東京市内電車の市営反対市民大会開催(7・8日比谷で開催、7・9市営を可決)。

7・8 公娼廃止運動団体廓清会発会。

7・一 米価高騰、細民救済策に外米売出し。

9・1 青踏社結成、『青踏』を創刊。

10・10 辛亥革命始まる。

10・25 片山潜ら社会党結成(結社禁止10・27)。

10・一 『毎日新聞』1万号発刊を記念して大毎慈善団を創設。

11・15 東京市職業紹介所開設(公共職業紹介所のはじめ)。

11・一 鈴木文治、日本ユニテリアン弘道館幹事就任。

11・一 東京に実費診療所誕生。

12・2 愛知織物合資会社女工900人、賃下反対スト。

12・31 東京市電スト(片山潜ら指導、～明45・1・2)。

12・一 日本郵船争議(～明45・1・4)。

この年
▷ このころ、大学・高専卒業者の無就職者増加し、「高等遊民」問題化。
▷ 生糸生産高・中国を抜いて世界第1位となる。
▷ 徴兵検査受検者、408,753人。
▷ トラホーム患者、61,230人。
▷ 内務省、各地方長官あて全国救療事業調査を訓令。

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・17 乙訓郡新神足村開田の本派本願寺末寺金蓮寺の信徒百余人、住職との折合悪くこれを追出そうとして決起。向日町署の警戒により暴力事件には至らず。 日出 1・21</p>	<p>1・一 濟世病院々主矢野長蔵・同院長小林参三郎ら濟世協賛会を結成し、病舎などの増築・維持費づくりに奔走。 六大新報 443</p>
<p>1・一 愛宕郡松ヶ崎村で44年度下半期の決算報告が行なわれていないところから公金使途不明の噂が流れ村長と村民が対立。村民、寄々協議し下鴨署も内偵を開始。18日村長、助役、収入役辞表を提出し、事件は落着の様。 日出 1・24</p>	<p>3・5 府、行旅病人行旅死亡人取扱心得(明32訓令142号)改正(診察料などの単価の改正、4・1施行)。 訓令10号</p>
<p>2・1 京都瓦斯会社(上京区)で、職工の共済会について会社側が一方的に不利益変更をしたため職工側が嘆願書を提出。これに対し10人を煽動者として解雇したため、他の123人の職工は憤激し共に解雇されたしとして不穏な動き。 日出 2・3</p>	<p>3・一 市盲啞院、盲部鍼按科卒業生に無試験開業免許資格を指定。 日出 3・25、府誌上</p>
<p>2・11 大谷大学学生、6人の教授不信任・排斥の運動として同盟休校を開始。3・1退学処分学生210余名となり、14日全国同窓大会での妥結案により解決。 日出 2・18、23、3・10、16</p>	<p>4・1 白川学園、府教育会の附属事業から脇田良吉個人の経営に移る(6・7認可)。 同園発行白川学園、府誌上</p>
<p>2・一 葛野郡大内村字八条の住民(80戸)、市部編入期成同盟会を結成し、大内村からの分離、京都市への編入を運動。理由は小学校への通学路が便利になること、税負担が軽減されること(1カ年村費80円が市編入後は16円となる)等である。 日出 2・19、24</p>	<p>4・14 京都娼妓検査所兼八坂病院、下京区清水4丁目六波羅野に移転。12・12府会市部会確井小三郎・小島亀太郎ら58人、同院を視察。 告示189号、日出 4・17ほか</p>
<p>3・2 京都市内キリスト教青年会館において万国娼妓同盟英国支部幹事モーリス・グレゴリーの講演開催。 中外日報 3・4</p>	<p>6・28 『日出新聞』、7・4にかけて「米の高い影響」と題し、細民・貧民に加えて巡査・教員などの安月給取の困窮状態を報道。7月何鹿郡・紀伊郡などで米高影響調査を実施。伏見慈善会などの慈善団体の施米あり。⁽¹⁾ 日出 6・28ほか</p>
<p>3・4 仏教大学学生、新学制に反対(理由は、本山の宗教教育に対する御都合主義・普通教育におけるような英才教育の導入)し撤回運動を起こす模様であったが、調停案の受諾をめぐり予科一年・本科二年の学生全員退学。 日出 3・5</p>	<p>6・一 何鹿郡志賀郷村、公設産婆を設置。 同村誌</p>
<p>3・一 男女間の貞操維持、社会風紀の肅清を目的とする廓清会、京都支部結成を決定し三条青年会館に事務所設置を予定。 日出 3・12</p>	<p>7・1 東亜慈善会、医療を受ける資力のない患者のために巡回治療所を開設。まず第1治療所(下京区三条大橋東蓮沢寺)から開始し、第2治療所(下京区伏見街道正面下ル養泉寺)、第3治療所(上京区元誓願寺大宮東正賢寺)へと巡回を拡充。 中外日報 6月~8月</p>
<p>5・25 府教育会、第1回労働問題講演会を府立第一高女で開催。京都大助教授山本美越乃講演、男女約5百人参加。 日出 5・26</p>	<p>9・一 大喪にあたり府へ16,800円下附。府では慈善救済基金に編入。以後恩賜金を基礎に総額10万円に達するまで府経済より毎年3,000円補充。⁽²⁾ 府会史(大正)、府統計書</p>
<p>8・一 京都市営電鉄の現業員、保友会を組織し月々の俸給より一部を蓄積して慶弔のために準備。同時に、市当局に増俸を要求し同盟罷業の密約を交わし16日現業員大会を予定していたが、府警察部に探知され厳重取調、訓戒のうえ中止させられる。 日出 8・15</p>	<p>10・1 恩賜財団済生会、救療開始。府下の開業医に委託施療。府では「無告の窮民」にして疾病に罹り医療を受くるの道なき者は申出べしと告諭。 告諭3号、府誌 下ほか</p>
<p>9・一 京都染物同業組合糸綴色染部の職人、染色業者に工賃値上げを要求、妥結。日出 9・12</p>	<p>11・3 伏見十六会、紀伊郡伏見町鷹匠に貧困者のための無料診療所済生園設置。 伏見十六会と伏見信用組合ほか</p>
	<p>11・一 府立感化保護院の敷地を船井郡園部村字園部に決定し、その名称を淇陽学校とよぶ(総工費13,333円、移転は大2・6・6)。⁽³⁾ 淇陽学校50年史、日出、府統計書大7</p>
	<p>11・一 内務省、成績優良な感化救済事業施設に対し助成。府下で京都施薬院協会・酬恩夜学校・済生病院・協同夜学校・子守学校・平安徳義会孤児院・京都救済院・平安養育院に交付。 中外日報 11・13</p>
	<p>12・5 府郡部会、伏見娼妓検査所移転を可決。 日出 12・6</p>
	<p>12・一 愛国婦人会京都支部、府下の軍人遺族廢兵中生活困難な者(京都市60、郡部392)を救護。 日出 12・27</p>

参 考	日 本
<p>(1) 施米で変わったところでは、白米の買占めで悪評あった株界の神吉源之助が、京都市内各地で罪滅し的な施米を行なったことである。『中外日報』でも「慈善の表裏」と題しこの記事を扱っている。</p> <p>(2) 明30恩賜金12,300円をもとに設けた既設の慈善救済金に併合し、慈善救済基金積立および管理方法を改正した。</p> <p>(3) 敷地候補としては、洛北岩倉村、洛南長岡天神附近、桂川鉄橋附近の3カ所が選ばれたが、岩倉と長岡は地元の無理解な反対に会い、桂は飲料水不良のためついに断念、白紙で再検討をした結果園部村に決定した。また府立の淇陽学校の設置にともない京都感化保護院では大2・3で感化部を廃止した。 府立淇陽学校50年史</p> <p>(4) 大1中出獄人の数59人のうち、恩赦を受けたものは17人(男7、女10)で驚くほどの数字ではない。</p>	<p>1・1 南京臨時政府成立。孫文、臨時大總統に就任。</p> <p>1・13 東京の組合石炭廻漕船船頭1,500人スト(~16日)。</p> <p>1・15 鈴木文治、第1回労働講演会。</p> <p>2・12 清国の宣統帝退位、清朝滅亡。</p> <p>3・1 美濃部達吉、『憲法講話』刊。このころから天皇機関説論争広がる(上杉・美濃部の憲法論争)。</p> <p>3・19 庁府県に警察医をおく。</p> <p>3・29 大阪友禅工3,000人賃上スト。</p> <p>3・29 呉海軍工廠スト(4・1、3万人スト参加、工廠内大混乱)。</p> <p>5・2 鳥取製糸場女工1,000人スト。</p> <p>5・一 警視庁、性病・痔・肺病薬などの売薬の誇大広告に警告。</p> <p>6・18 日米英仏独露の6カ国対中国借款団成立。</p> <p>7・1 米価未曾有の暴騰。</p> <p>7・30 明治天皇没、大正と改元。</p> <p>7・30 主要新聞、天皇崩御のため全頁を黒くで囲む(~9・17)。</p> <p>8・1 鈴木文治ら友愛会を結成(日本労働同盟の前身)。11・3『友愛新報』創刊。</p> <p>8・20 奈良県下の部落民、大和同志会を結成、奈良市で第1回大会開催。</p> <p>9・13 明治天皇大喪、乃木大将夫妻殉死。</p> <p>9・26 恩赦令・大赦令各公布(即日施行)。</p> <p>10・1 大杉栄・荒畑寒村ら『近代思想』創刊(~大3・9)。</p> <p>10・17 第1次バルカン戦争。</p> <p>11・24 第2インター・バーゼル大会、反戦を決議。</p> <p>11・25 愛知県大須村小作争議。</p> <p>11・30 閣議、2個師団増設案否決。</p> <p>12・13 東京の新聞雑誌記者・弁護士など、憲政作振会を組織し、師団増設に反対。</p> <p>12・15 政友会大懇親会、官僚政治根絶を決議。</p> <p>12・19 東京で憲政擁護会第1回大会開催。</p> <p>12・一 各地で増師団反対護憲大会開催。</p>
<p>○貧民に関する調査 (京都府警察部衛生課調)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独身者にして疾病に罹れるもの 117人 2. 一家の柱が疾病(他の家族が15歳未満、70歳以上) 70戸 3. 日稼をもって生計維持、看護のため不就業 68戸 4. 病人はないが資力なく日稼のもの 4,485戸 5. 年令70歳以上、15歳未満のみで構成 266戸 <p>計 5,006 京都医事衛生誌 217</p>	<p>この年</p> <p>▷ 米価騰貴で下層民の生活困窮・一家離散増加、木賃宿・無料宿泊所も繁昌。</p> <p>▷ 水力発電の出力、火力を越える。</p> <p>▷ 福本誠「養老法案」を議会に提出、反対があり不成立。</p>
<p>この年</p> <p>▷ 明治天皇崩御に際し大赦令公布。出獄人増加にそなえ、各地で宗教団体を中心とした免囚保護団体続出。4・8船井仏教団、7月に加佐郡仏教会(昭12・4中丹仏教連合会司法保護部と改称、現在の慈光会がこれである)、10月何鹿郡仏教同盟会・丹州恵済会、11月天田郡仏教団・南桑鴻恩会(大8・11南桑仏教団と改称)、12月北桑仏教道済会・葛野郡慈友会・至正会(京都市内)結成。京都感化保護院、引受人なき出獄人50人収容を準備。⁽⁴⁾ 府社会事業便覧、日出、中外日報</p> <p>▷ このころから救世軍京都小隊、貧民窟に慰問籠を配布。 日出 12・12</p> <p>▷ 天田郡細見村、非常災害罹災救助の目的で資金1,500円に達するまで積立開始。 細見村史</p>	